Z1100

モーターサイクル

取 扱 説 明 書

⚠ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

Kawasaki
Let the Good Times Roll

お車には定期的に点検・交換が必要な部品（エンジンオイル、タイヤ、ブレーキパッド、ホース類等）があり、その点検は法により義務付けられております。安心して快適にお乗りいただけるよう点検整備を必ず実施してください。

本製品で使用されているフォント「KawasakiTypeシリーズ」は株式会社モリサワより提供を受けており、フォントプログラムの著作権は同社に帰属します。

The Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標です。

ご愛用の皆様に

カワサキ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいたお車の正しい取り扱い方、安全な運転の仕方、簡単な整備の方法等について説明してあります。より快適に、より安全にお乗りいただくために、この取扱説明書を是非お読みください。また、メンテナンスノート、セーフティハンドブックも是非お読みください。

なお本書の内容は、仕様変更などにより実際と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。最新の情報は、カワサキウェブサイトのオンライン取扱説明書から閲覧可能です。

[取扱説明書]

https://pws. ktivs. net/dispeBook? file=99817-0122&manual_kind=OM&lang_code=JA&mark=ZR1100GV

998170122JA

お車の受け取りの際には、お買いあげいただきましたカワサキ正規取扱店より「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティハンドブック」を受け取り、下記の説明を必ず受けてください。

- お車の正しい取り扱い方について
- 保証の内容と保証期間について
- 保証書の発行方法について
- 初回点検について
- 日常点検、定期点検整備について
- 車両の確認とお受け取りの署名について

- 車を譲られる場合、次の方にこの取扱説明書およびメンテナンスノートをお渡しください。
- 仕様の変更等により図や内容が一部実車と異なる場合がありますので、ご了承ください。
- この車は、運転者を含めて2名まで乗車できます。
- この車は排出ガス規制適合車です。

本書では正しい取り扱い方法および点検・整備に関する重要な事項を、次のシンボルマークで示しています。

⚠ 危険

取り扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害に至る可能性が大きいと想定される場合を示しています。

⚠ 警告

取り扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害に至る可能性が想定される場合を示しています。

注意

取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

アドバイス

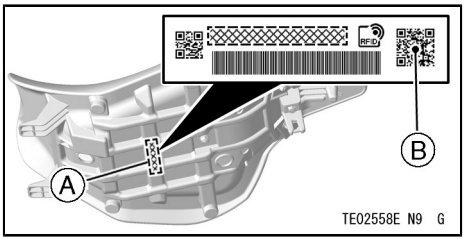
○ 製品の操作や整備に関連して知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

カワサキモータース株式会社
株式会社カワサキモータースジャパン

© 2026 カワサキモータース株式会社 2026. 4. 1 (1)

車両情報ラベル

シート裏側にある車両情報ラベル右側のQRコードを読み取ることで、お車の情報をご確認いただけます。



A. 車両情報ラベル
B. QRコード

アドバイス

- ○ QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。
- ○ このラベルは、全ての仕様やモデル年式の車両に必ずしも貼付されているわけではありません。

目次

安全運転のために **10**
主要諸元 **22**
各部の名称 **26**
エンジン番号・車台番号 **31**
メータの見方・使い方 **32**
メータユニット 32
背景色の切り替え 34
光度センサ 34
操作ボタン 35
インジケータ 36
ホーム画面 45
タコメータ 47
スピードメータ 48
ギヤポジションインジケータ 48
シフトアップインジケータ機能 49
燃料計 49
インテグレイテッドライディングモードインジケータ 50
KQSモードインジケータ 50
クルーズコントロールシステムインジケータ 51
サービスインジケータ 51
ECO走行インジケータ 52
接続機器通知エリア 53
マルチファンクションディスプレイ 56
リーン角／加速度／減速度インジケータ 64
セッティング画面 65
基本操作 66
車両設定 68
ディスプレイ 72
日付と時刻 75
サービス 78
ブルートゥース® 82
ペアリング 83
表示単位 84
スイッチの使い方 **86**
イグニションスイッチ 86
イモビライザシステム 88
ステアリングロック 90
左ハンドルスイッチ 91
ディマ／パッシングボタン 92
上MODEボタン／下MODEボタン 93
SELECTボタン 93
ホーンボタン 93

ターンシグナルスイッチ ⬅ ➡ 93
ハザードボタン ⚠ 94
RESETボタン..... 94
クルーズコントロールボタン 94
右ハンドルスイッチ..... 95
エンジンスタート／ストップスイッチ..... 95
各部の取り扱い方..... **97**
サイドスタンド..... 97
ブレーキレバーアジャスタ..... 97
クラッチレバーアジャスタ..... 98
シート..... 99
バックミラー..... 102
ツールキット..... 104
荷掛けフック..... 104
USBソケット（装備モデル）..... 105
燃料の補給..... **108**
正しい運転操作..... **112**
エンジンのかけ方..... 112
ならし運転..... 114
走り方..... 115
シフトダウンの仕方..... 116
ブレーキの使い方..... 117
ABS..... 118
KIBS..... 120
エンジンの止め方..... 121
エンジンの非常停止..... 121
駐車の仕方..... 121
インテグレイテッドライディングモード..... 125
ライダモード（RIDER）..... 126
KTRC..... 130
KTRCインジケータ..... 131
KTRCモード..... 131
パワーモード..... 132
クルーズコントロールシステム..... 132
KQS..... 136
KCMF..... 137
慣性計測装置（IMU）..... 137
点検整備について..... **138**
簡単な整備..... **140**
ブレーキ液量の点検..... 141
ブレーキライトスイッチの調整..... 142
クラッチレバーの遊びの調整..... 144
エンジンオイルの補給..... 145
冷却液..... 148
エアクリーナ..... 151
スロットルの点検..... 152
アイドリング回転速度の調整..... 152

ドライブチェーン..... 153
サスペンションセッティング..... 157
フロントフォーク 157
リヤショックアブソーバ (ZR1100G) 160
リヤショックアブソーバ (ZR1100H) 162
セッティング表 166
タイヤ..... 170
バッテリ端子部の清掃..... 173
ヒューズの交換..... 176
車のお手入れ.....**178**
注意事項..... 179
洗車..... 181
長期間の格納..... 182
環境保護について.....**184**
DFI自己診断システムコネクタの位置 **187**
車両情報の記録に関して.....**188**
イベントデータレコーダ **189**
万一の故障に備えて.....**191**
お客様相談室.....**193**
リコールについてのお願い **194**
適合宣言.....**195**
バッテリに関する補足情報 **199**
バッテリ全般に関する情報..... 199
ボタン型電池の追加情報..... 203

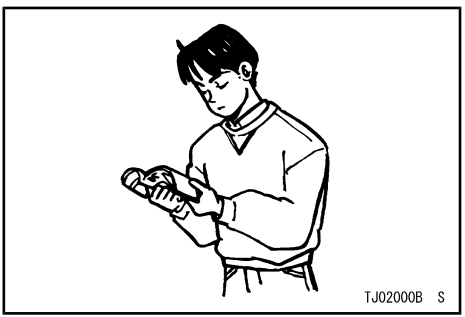
安全運転のために

ここにあげた項目は日常の走行上非常に基本的なものです。これらのことを守って安全運転および上手なオートバイ操作を心がけましょう。

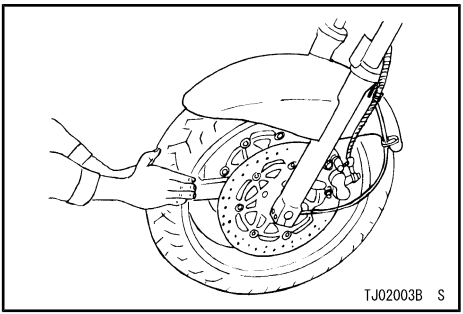
車を購入された当初は、いろいろ注意をはらって運転しますが、少し慣れてくるとこれらの注意を忘れがちになり、事故を起こす場合があります。
車に乗るとき、いつも心がけねばならない重要な注意事項を書いた“安全項目ラベル”が車に貼ってあります。これらの注意をいつもお守りください。

運転する前に

- **取扱説明書をよく読んでください。**
  車の取り扱いをよくご存じの方も、この車特有の構造や取り扱い方がありますので、この説明書を必ずお読みください。

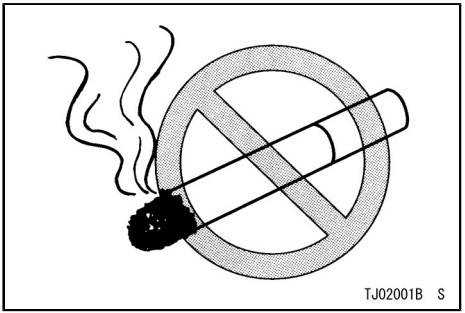


- **日常点検を必ず行ってください。**
  車は常に清潔に手入れをし、定められた点検整備を必ず行いましょう。日常点検については、メンテナンスノートの「日常点検」をご覧ください。

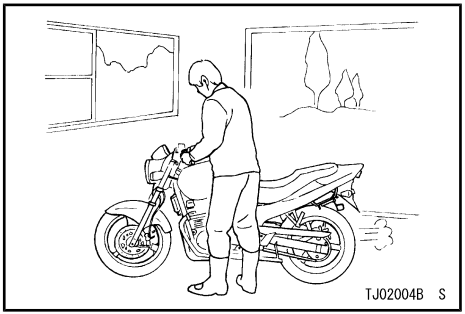


- **定期点検を必ず行ってください。**
  定期点検については、メンテナンスノートの「定期点検」をご覧ください。

- **ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。**



- **排出ガスには、一酸化炭素等の有害な成分が含まれています。エンジン始動、暖機運転は、風通しの良い場所で行ってください。**



服装

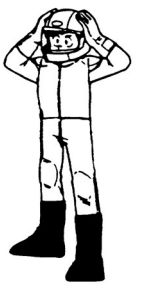
- 運転者と同乗者は、必ずヘルメットを着用してください。これは、法令でも定められています。
  - ヘルメットは正しくかぶり、あごひもを確実に締めてください。
  - ヘルメットは二輪車用でPSCマークのあるものを必ずお選びください。頭にしっくり合って、圧迫感のないものをお選びください。
- ヘルメットにはフェースシールドを取り付けてください。取り付けできないときは、ゴーグルを使用してください。
- 手袋を着用してください。手袋は、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- 可能な限り身体の各部（胸、肩、背中、ひじ、ひざ等）を保護する機能のあるライディングウェアを着用してください。または、身体各部を保護するプロテクタを装着してください。

– 身体の露出が少ない長ズボンと長袖のジャケットを着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
– 動きやすい服を着用してください。
– すその広がったズボンや袖口の広い服は、ブレーキやクラッチ、チェンジ操作の邪魔になり思わぬ事故の原因にもなりますので避けてください。
– 被視認性の観点から、明るく目だつ色の動きやすい服を着用してください。

● 靴は、ブレーキ操作やチェンジ操作のしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆う、足にあったサイズのものを選んでください。

⚠ 警告

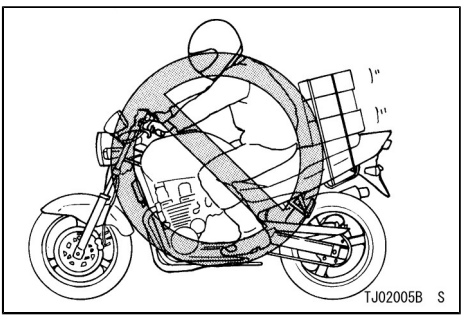
● ヘルメットは正しく着用してください。正しく着用していないと、事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。
● 運転者と同乗者は乗車時、ヘルメット、保護具および保護性の高い服を必ず着用してください。



TJ02002B S

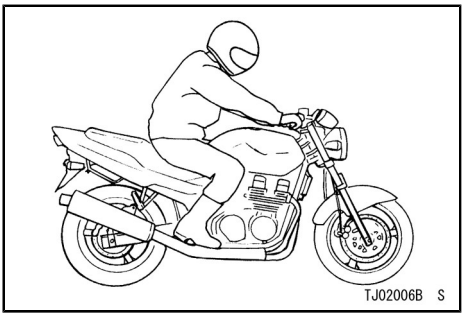
荷物を積むときは

- 荷物を積んだときは、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。荷物を積むときは、**“積み過ぎない”、“荷物をしっかりと固定する”**等充分注意して、安全に走行してください。



乗り方

- 走行中は、運転者は両手でハンドルを握り、両足をステップに置いてください。



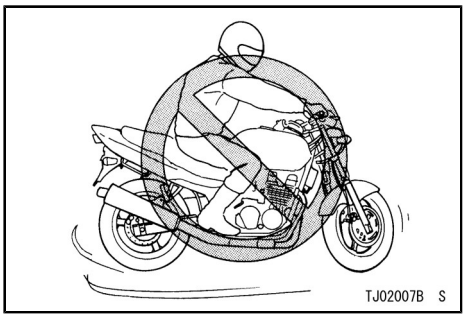
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足は必ず、同乗者用ステップに乗せさせてください。

- この車の乗車定員は2名です。なお、次の運転者は法令により2人乗りすることはできません。

一般道路
免許取得後1年未満の運転者

高速道路
免許取得後3年未満の運転者、20歳未満の運転者、または2人乗り運転が禁止されている区間

- **急激なハンドル操作や片手運転は横すべりや転倒の原因となります。絶対におやめください。**



駐車するときは

⚠ 警告

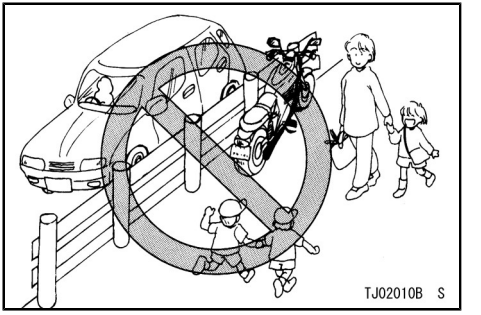
可燃物近くでの運転、駐車は、火災の原因となる可能性があります。背の高い植物、枯れ木、枯れ葉、等の可燃物がマフラ等の排気系部品に触れるような場所で、アイドリングしたり駐車したりしないでください。

⚠ 警告

エンジンや排気系統は運転中や停止後しばらくの間は高温のため、やけどをおこす可能性があります。

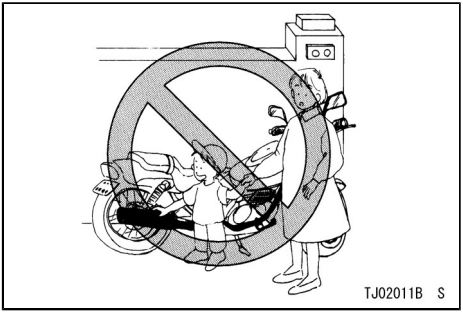
- **エンジンや排気系統には触れないでください。**
- **駐車するときは交通の邪魔にならない、安全な場所で他の方がマフラ、エンジンに触れることのない場所に駐車してください。**

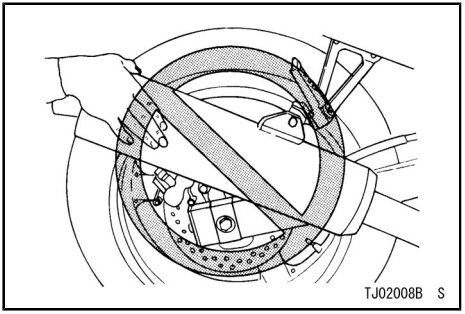
- 車は水平でしっかりとした地面の場所に駐車してください。やむをえず傾斜地や柔らかい地面等の不安定な場所に駐車するときは、車の転倒、動き出しのないよう、安全処置に充分留意してください。
- 交通の邪魔にならない安全な場所に駐車してください。

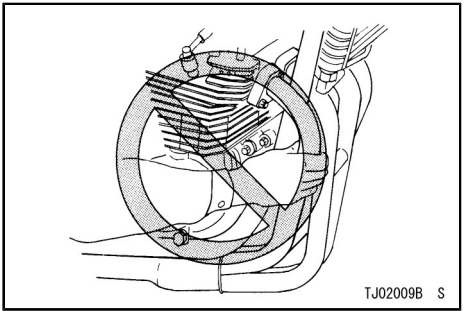


- エンジン回転中や停止後しばらくの間はマフラ、エンジンに触れないでください。

- マフラ、エンジンが熱くなっています。他の方が触れることのない場所に駐車してください。やむをえず子供が遊ぶ施設や人通りの多いところに駐車するときは、他の方がマフラ、エンジンに触れないように配慮してください。







洗車後や水たまりを走行したときは

- 洗車後や水たまりを走行した後は、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。
- ブレーキの効きが悪いときは、周囲の交通状況に充分注意して低速で走行しながら、ブレーキの効きが回復するまでブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りを乾燥させてください。

タイヤ

- 異なった種類のタイヤを使用したり、指定サイズ以外のタイヤを使用することは、車の走行安定性に悪影響を及ぼしますので使用しないでください。

調整

- 自己流のエンジン調整、部品の取り外しは行わないでください。エンジンの調整はカワサキ正規取扱店におまかせください。

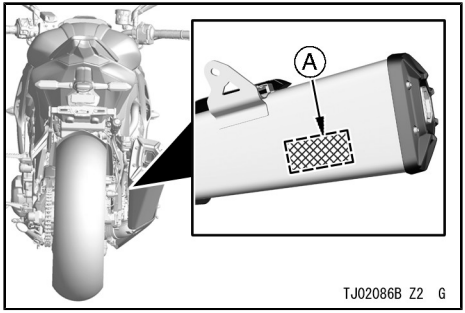
触媒装置

- この車のマフラには、触媒装置が内蔵されています。この触媒装置の働きによって排出ガスに含まれる一酸化炭素（CO）、炭化水素（HC）、窒素酸化物（NOx）の有害物質の排出量を低減します。

触媒装置の適切な使用のため、下記の注意点をご確認ください。

改造

- **車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることになります。**
- **車を改造することは法律に触れることは勿論、他の人への迷惑行為となります。**
- **他のマフラをこの車に取り付けますと、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラを交換する場合はカワサキ正規取扱店にご相談ください。**
- **マフラには、カワサキ純正部品を表わす"Kawasaki"マークが刻印されています。**



A. **Kawasaki**マーク

⚠ 警告

可燃物近くでの運転、駐車は、火災の原因となる可能性があります。背の高い植物、枯れ木、枯れ葉、等の可燃物がマフラ等の排気系部品に触れるような場所で、アイドリングしたり駐車したりしないでください。

⚠ 警告

エンジンや排気系統は運転中や停止後しばらくの間は高温のため、やけどをおこす可能性があります。

- **エンジンや排気系統には触れないでください。**
- **駐車するときは交通の邪魔にならない、安全な場所で他の方がマフラ、エンジンに触れることのない場所に駐車してください。**

昼間もヘッドライトオン

- この車は、イグニションスイッチをオンにすると、ヘッドライトが点灯するデイライトシステム（昼間点灯システム）を採用しています。
- この車は、メインスイッチをオンにすると、ヘッドライトが点灯するデイライトシステム（昼間点灯システム）を採用しています。

注意

- **イグニションスイッチをオンにしたまま、またはエンジン始動後にアイドリング状態のまま長時間放置すると、バッテリあがりの原因となります。**
- **車から離れるときは必ずステアリングロックをかけ、キーを抜いてお持ちください。金属製キーホルダは使用しないでください。また、イグニションキーにリング等で他のキーをつなげないでください。走行中、キーホルダや他のキーが車の部品を傷つけたり、キーシリンダの損傷の原因となります。**

注意

- **メインスイッチがオンのまま長時間放置すると、バッテリあがりの原因となります。**
- **車から離れるときは必ずステアリングロックをかけ、キーを抜いてお持ちください。金属製キーホルダは、使用しないでください。また、キーにリング等で他のキーをつなげないでください。走行中、キーホルダや他のキーが車の部品を傷つけたり、キーシリンダの損傷の原因となります。**

カウリングの取り扱い上の注意

- 走行中は、カウリングと車体の間に、物を置かないでください。ハンドル操作に悪影響を及ぼすおそれがあります。

主要諸元

エンジン

エンジンオイル	カワサキ純正4サイクルオイル（146ページを参照）
エンジンオイル量	4.0 L
冷却液量	2.8 L
スパークプラグ	NGK CR9EIA9
スパークプラグギャップ	0.8 ~ 0.9 mm

フレーム

タイヤサイズ：	
前輪	120/70ZR17 M/C (58W)
後輪	190/50ZR17 M/C (73W)
燃料タンク容量（車体直立状態）	17 L
ブレーキフルード	DOT4

電装品

バッテリ	12 V 10 Ah (10 HR)

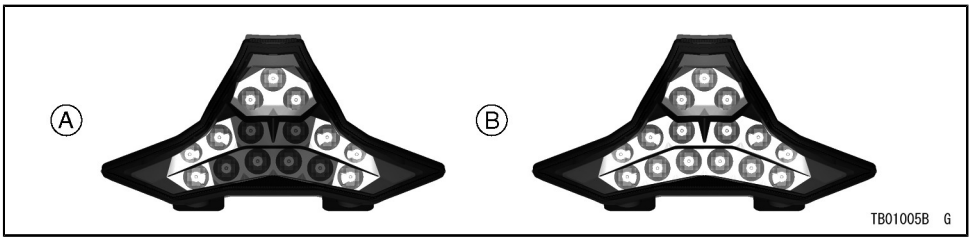
ヘッドライト：	
ハイビーム	LED
ロービーム	LED
ポジションライト	LED
ブレーキ／テールライト	LED
ターンシグナルライト	LED
ライセンスプレートライト	LED

この車のヘッドライト、ポジションライト、ブレーキ／テールライト、ライセンスプレートライトにはLED（発光ダイオード）を採用しています。LEDライトが一つでも点灯しないときは、カワサキ正規 取扱店にご相談ください。

ブレーキ／テールライト

ブレーキ／テールライトは下記のように点灯します。

イグニションスイッチをオンにしたときに点灯しないLEDがありますが、故障ではありません。



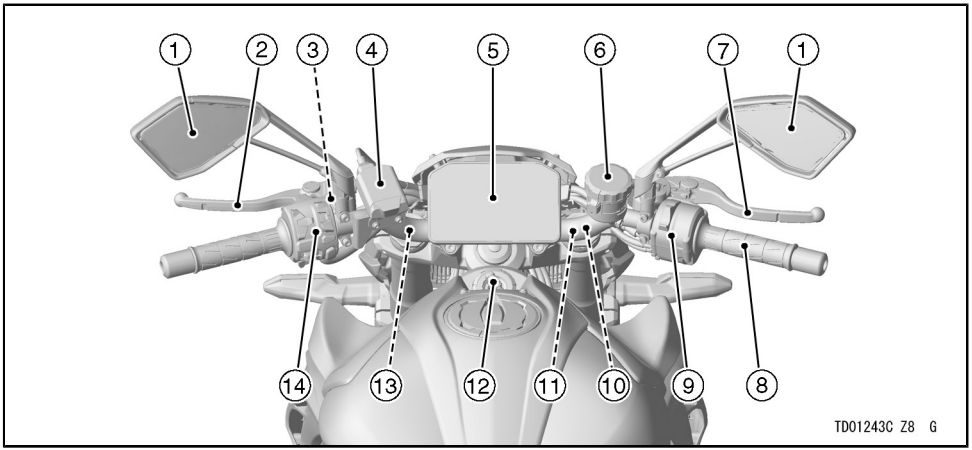
A. イグニションスイッチオン時
B. ブレーキ時

詳しい諸元の情報については、カワサキウェブサイトで最新情報をご確認ください。また、仕様は予告なく変更される場合があります。

【主要諸元】
https://pws.ktivs.net/dispeBook?file=99888-0449-01&lang_code=JA

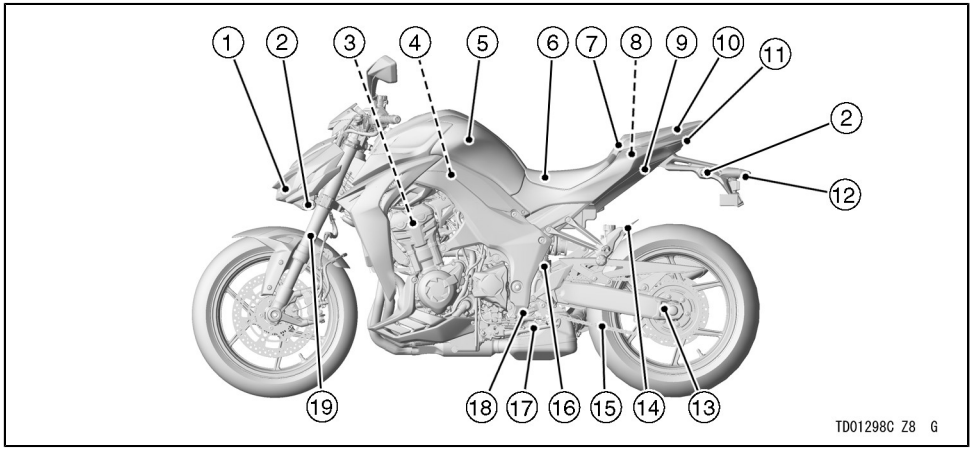
998880449JA

各部の名称



1. バックミラー
2. クラッチレバー
3. スタータロックアウトスイッチ
4. USBソケット（装備モデル）
5. メータユニット
6. ブレーキリザーバ（フロント）
7. フロントブレーキレバー
8. スロットルグリップ
9. 右ハンドルスイッチ
10. 圧側減衰力アジャスタ
11. 伸側減衰力アジャスタ
12. イグニションスイッチ/ステアリングロック
13. スプリング初期荷重アジャスタ
14. 左ハンドルスイッチ

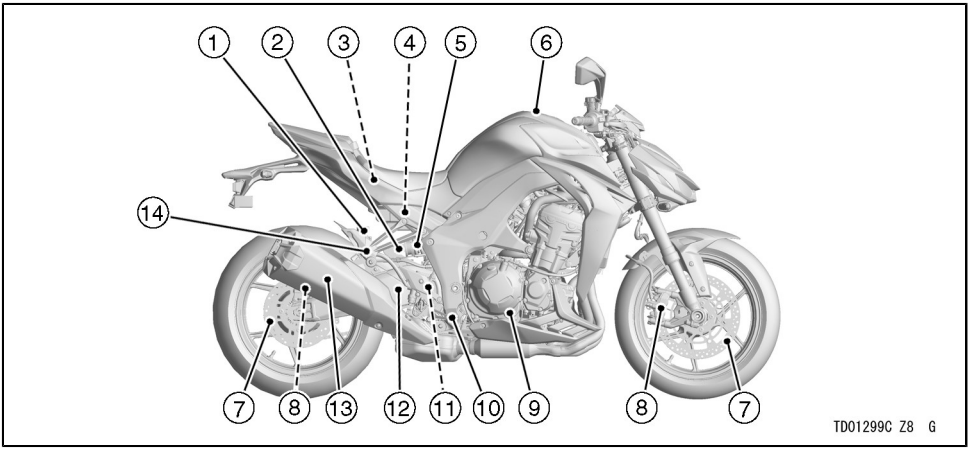
ZR1100G



1. ヘッドライト
2. ターンシグナルライト
3. スパークプラグ
4. エアクリーナ
5. 燃料タンク
6. 運転者用シート
7. シートストラップ
8. ツールキット
9. シートロック
10. 同乗者用シート
11. ブレーキ/テールライト
12. ライセンスプレートライト
13. チェーンアジャスタ
14. 荷掛けフック
15. ドライブチェーン
16. 冷却液リザーブタンク
17. サイドスタンド
18. シフトペダル
19. フロントフォーク

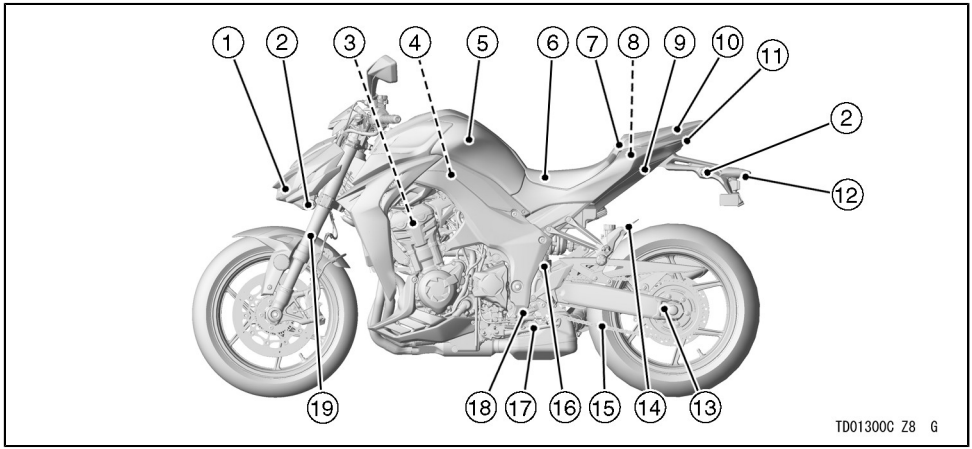
28 各部の名称

ZR1100G



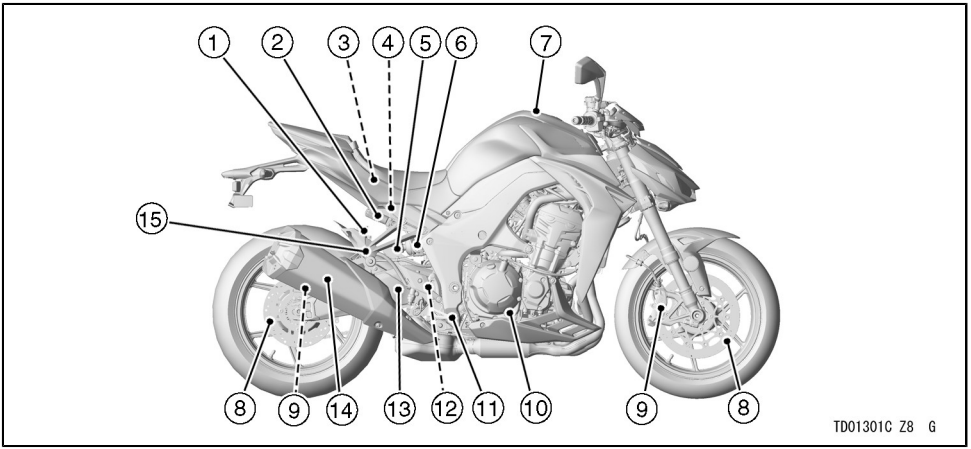
1. ブレーキリザーバ(リヤ)
2. 伸側減衰力アジャスタ
3. ヒューズボックス
4. バッテリ
5. リヤショックアブソーバ
6. 燃料タンクキャップ
7. ブレーキディスク
8. ブレーキキャリパ
9. オイルレベル点検窓
10. ブレーキペダル
11. リヤブレーキライトスイッチ
12. スイングアーム
13. マフラ
14. リヤステップ

ZR1100H



1. ヘッドライト
2. ターンシグナルライト
3. スパークプラグ
4. エアクリーナ
5. 燃料タンク
6. 運転者用シート
7. シートストラップ
8. ツールキット
9. シートロック
10. 同乗者用シート
11. ブレーキ/テールライト
12. ライセンスプレートライト
13. チェーンアジャスタ
14. 荷掛けフック
15. ドライブチェーン
16. 冷却液リザーブタンク
17. サイドスタンド
18. シフトペダル
19. フロントフォーク

ZR1100H



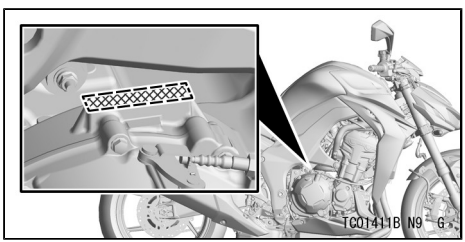
1. ブレーキリザーバ(リヤ)
2. スプリング初期荷重アジャスタ
3. ヒューズボックス
4. バッテリ
5. 伸側減衰力アジャスタ
6. リヤショックアブソーバ
7. 燃料タンクキャップ
8. ブレーキディスク
9. ブレーキキャリパ
10. オイルレベル点検窓
11. ブレーキペダル
12. リヤブレーキライトスイッチ
13. スイングアーム
14. マフラ
15. リヤステップ

エンジン番号･車台番号

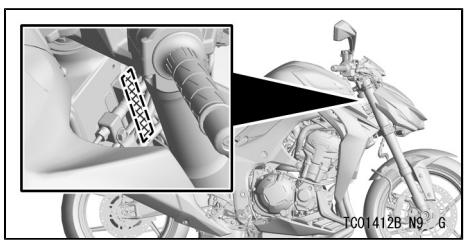
エンジン番号・車台番号は車の登録のために使われます。これらの番号はカワサキ正規取扱店に部品を注文するときに必要であり、盗難にあった場合、多くの同機種の車、あるいはいくらか特徴の似ている車の中からあなたの車を捜し出す手掛かりにもなります。

あなたの車のエンジン番号・車台番号を下記の欄に記入してください。

エンジン番号



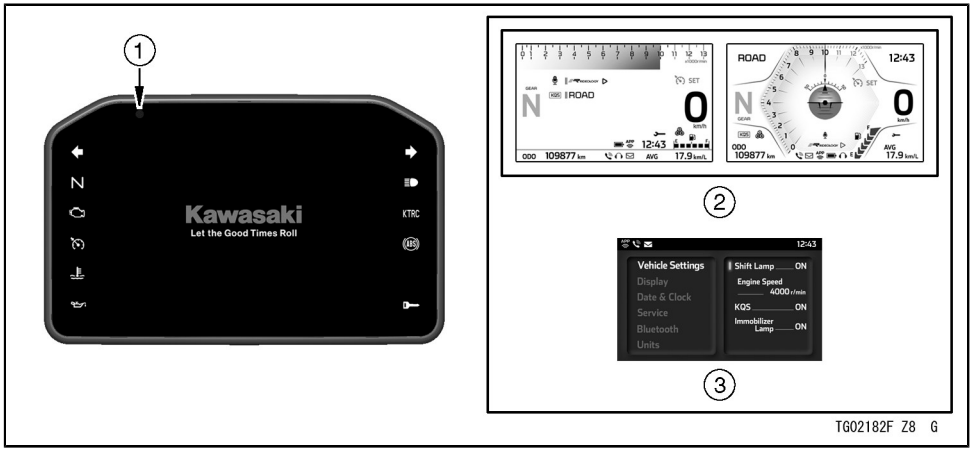
車台番号



メータの見方・使い方

メータユニット

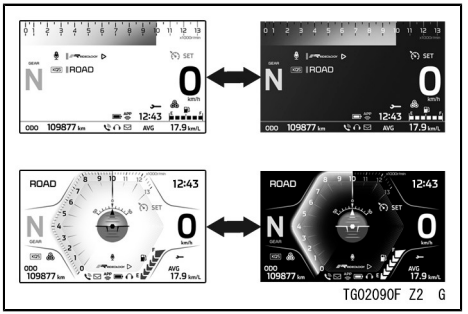
画面表示は2つのタイプから切り替えることができます。「セッティング画面」の項、「モード」を参照してください。(72ページを参照)



1. 光度センサ
2. ホーム画面
3. セッティング画面

背景色の切り替え

画面の背景色は、周囲の明るさに応じて自動的に反転します。



アドバイス

○ 光度センサを覆ったり、影になるものを取り付けたりすると、自動調整機能が正常に作動しない可能性があります。

背景色の設定

画面の背景色は手動で設定することもできます。「セッティング画面 」の項、「背景」を参照してください。(74ページを参照)

光度センサ

画面の明るさは、周囲の明るさに応じて自動調整されます。

アドバイス

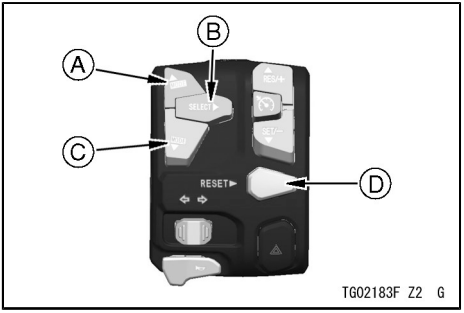
○ 光度センサを覆ったり、影になるものを取り付けたりすると、自動調整機能が正常に作動しない可能性があります。

画面の明るさの設定

画面の明るさを、手動で2段階に調整できます。「セッティング画面 」の項、「明るさ」を参照してください。(73ページを参照)

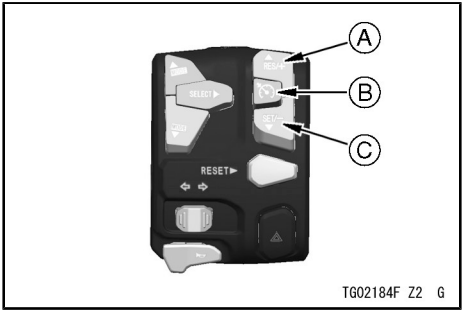
操作ボタン

左ハンドルスイッチの上MODEボタン、下MODEボタン、SELECTボタンとRESETボタンで画面表示を切り替えます。



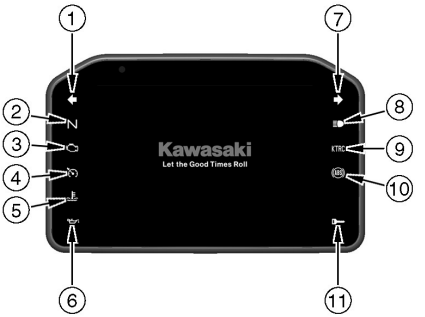
A. 上MODEボタン
B. SELECTボタン
C. 下MODEボタン
D. RESETボタン

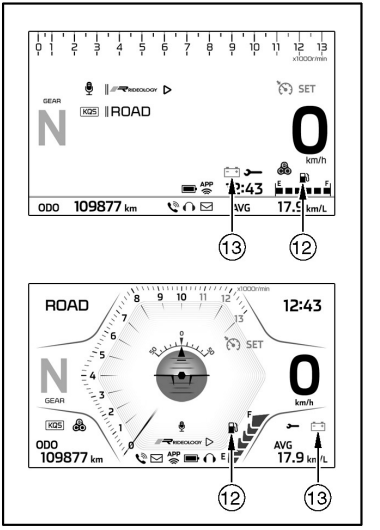
ハンドルのボタンは車の機能の切り替えにも使用し、画面表示にも影響します。詳細は「正しい運転操作」の章の各項を参照してください。



A.「RES/+」ボタン
B. クルーズコントロールボタン
C.「SET/−」ボタン

インジケータ



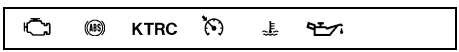


TG02185F Z6 G

1		左ターンシグナルインジケータ	緑色
2		ニュートラルインジケータ	緑色
3		エンジン警告インジケータ	黄色
4		クルーズコントロールインジケータ	白色
5		水温警告インジケータ	赤色
6		油圧警告インジケータ	赤色
7		右ターンシグナルインジケータ	緑色
8		ハイビームインジケータ	青色
9	KTRC	KTRCインジケータ	黄色
10		ABSインジケータ	黄色
11		イモビライザ警告インジケータ	赤色
12		燃料警告インジケータ	–
13		バッテリ電圧警告インジケータ	–

インジケータ初期動作

イグニションスイッチをオンにすると、以下のインジケータが点灯します。これらが点灯しない場合は、カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。



アドバイス

- ：エンジンが始動すると消灯します。
- ：車両が動き出して間もなく消灯します。

警告インジケータが点灯または点滅したとき

警告インジケータが表示された場合、車両に問題がある可能性があります。
安全な場所に停車した後、次の表に従って対応してください。

インジケータ	状態	対応／説明
	点滅（イグニッションスイッチがオンの時）	車に登録されているキーを使用しない場合、またはキーと車の間で通信不良が起こるとイモビライザ警告インジケータが点滅します。もし点滅したときは、登録された専用のキーを使用するか、またはキーの周りに他のキー等による金属部品がないことを確認してください。確認後も点滅する場合はカワサキ正規取扱店で点検をお受けください。
	点滅（イグニッションスイッチがオフの時）	イモビライザーシステムが作動していることを示す点滅*1が始まります。24時間後、イモビライザー警告インジケータは点滅を停止します。点滅が停止した後もイモビライザーシステムは作動し続けます。
	点灯	バッテリ電圧が11.0V以下または16.0V以上になっています。11.0V以下の場合は、バッテリを充電してください。 16.0V以上の場合もしくはバッテリを充電した後でも点灯する場合はカワサキ正規取扱店で点検をお受けください。

インジケータ	状態	対応／説明
	点灯	水温が高温になると点灯します。安全な場所に停車してエンジンを止め、エンジンが冷えてからリザーブタンクの冷却液の量を確認してください。冷却液の量が不充分な場合は、リザーバタンクに冷却液を補給してください。カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。
	点灯	油圧が低いときに点灯します。走行中に点灯した場合は、直ちにイグニッションスイッチをオフにし、エンジンオイルレベルを確認してください。エンジンオイルが不足している場合は補充してください。オイル量が正常でも点灯する場合はカワサキ正規取扱店で点検をお受けください。
	橙色に切り替わり点滅（1つのセグメントが一緒に点滅している場合）	点滅時の燃料残量： 約4.1 L
		燃料を早めに補給してください。サイドスタンド状態においては燃料計は燃料量を正確に表示しません。車体を正立状態にして、燃料量の確認を行ってください。
	橙色に切り替わり点滅（すべてのセグメントが一緒に点滅している場合）	燃料警告システムに問題があります。カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。

インジケータ	状態	対応／説明
	点灯 点滅	FI（フューエルインジェクション）システムに問題があります。カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。
	点灯	このインジケータは後述する特定の条件*2で点灯することがあります。このインジケータが点灯した場合、一旦イグニッションスイッチをオフにしてから再度オンにし、走行を始めると消灯します。ABSに問題がある場合は点灯し続けますので、カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。点灯中はABSが作動しませんが、通常のブレーキシステムは正常に作動します。

*1: イモビライザ警告インジケータの点滅モードは、オンまたはオフを設定できます。「セッティング画面 」の項、「イモビライザランプ」を参照してください。(71を参照)

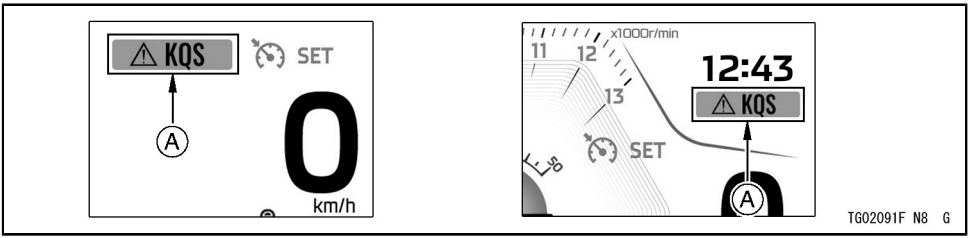
*2:
- 連続して悪い路面を走行したとき。
- スタンドで後輪を持ち上げ、ギヤを入れた状態でエンジンを始動して、後輪を回転させたとき。
- 前輪が地面から離れるような、急激な加速をしたとき。
- ABSが強力な電波障害を受けたとき。
- タイヤの空気圧が異常なとき。（空気圧を調整してください。）
- 標準とは異なるサイズのタイヤが使用されたとき。（標準タイヤを使用してください。）
- ホイールが変形しているとき。（ホイールを交換してください。）

その他のインジケータ

インジケータ	状態	説明
	点滅	ターンシグナルスイッチが左の方に入っています。
	点滅	ターンシグナルスイッチが右の方に入っています。
	点灯	ヘッドライトの照射がハイビーム（上向き）になっています。
	点灯	トランスミッションがニュートラルに入っています。
KTRC	点滅	KTRCが作動しています。
	点灯	クルーズコントロールシステムがオンになっています。

警告メッセージが表示されたとき

警告メッセージが表示された場合、その機能は無効になっています。電子制御システムに問題がある可能性がありますので、カワサキ正規取扱店にお問い合わせください。



A. 警告メッセージ

警告メッセージ	問題があるシステム
⚠KCMF	**Kawasaki Cornering Management Function** KCMFシステムに問題があります。
⚠POWER	**パワーモード** パワーモードシステムに問題があります。

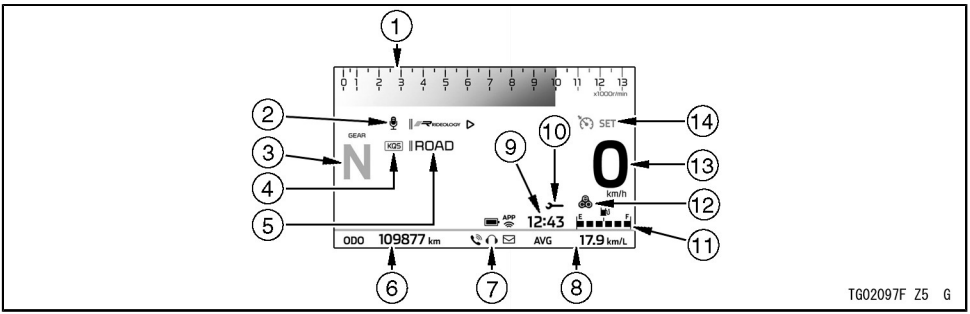
警告メッセージ	問題があるシステム
	**Kawasaki Traction Control** KTRCシステムに問題があります。
	**Kawasaki Quick Shifter** KQSシステムに問題があります。
	**Kawasaki Intelligent anti–lock Brake System** KIBSシステムに問題があります。

その他のメッセージ

メッセージ	説明
	日付または距離が設定した値に達したことを示します。カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。

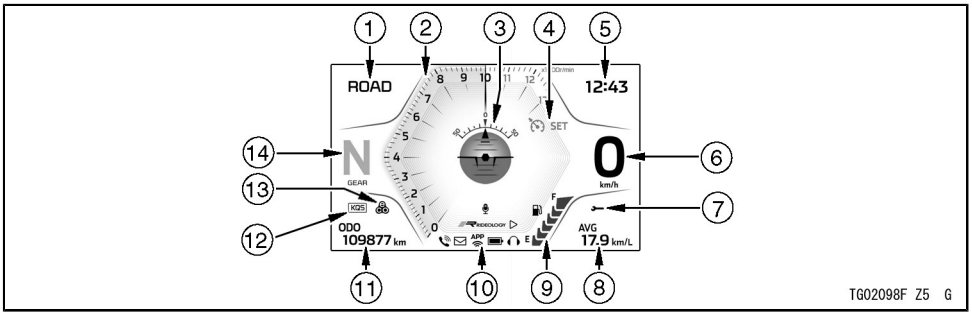
ホーム画面

画面タイプ1



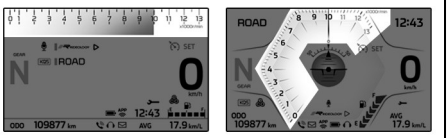
1. タコメータ
2. 接続機器通知エリア(上側)
3. ギヤポジションインジケータ
4. KQSモードインジケータ
5. インテグレイテッドライディングモードインジケータ
6. マルチファンクションディスプレイ(左側)
   – オドメータ
   – トリップメータA/B
   – 水温計
7. 接続機器通知エリア(下側)
8. マルチファンクションディスプレイ(右側)
   – 瞬間燃費
   – 平均燃費
   – 航続可能距離
   – 平均車速
   – 経過時間
   – バッテリ電圧
9. 時計
10. サービスインジケータ
11. 燃料計
12. ECO走行インジケータ
13. スピードメータ
14. クルーズコントロールシステムインジケータ

画面タイプ2



1. インテグレイテッドライディングモードインジケータ
2. タコメータ
3. リーン角／加速度／減速度インジケータ
4. クルーズコントロールシステムインジケータ
5. 時計
6. スピードメータ
7. サービスインジケータ
8. マルチファンクションディスプレイ(右側)
   – 瞬間燃費
   – 平均燃費
   – 航続可能距離
   – 平均車速
   – 経過時間
   – バッテリ電圧
   – 最大リーン角
9. 燃料計
10. 接続機器通知エリア
11. マルチファンクションディスプレイ(左側)
   – オドメータ
   – トリップメータA/B
   – 水温計
12. KQSモードインジケータ
13. ECO走行インジケータ
14. ギヤポジションインジケータ

タコメータ



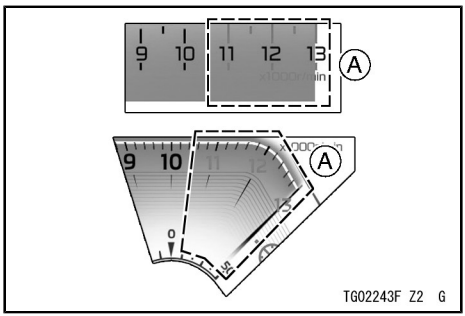
毎分のエンジン回転速度を示します。

タコメータはシフトアップインジケータも兼ねています。

タコメータにはレッドゾーンがあります。エンジン回転数がレッドゾーンに達すると、タコメータの色が赤に変わり、ギアポジションインジケータとタコメータがすばやく点滅します。エンジン回転数がレッドゾーンに入らないように運転してください。

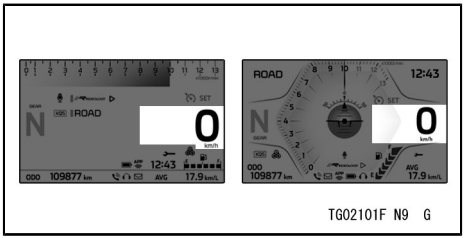
注意

レッドゾーンは、エンジンの許容回転速度を超える領域を示したもので、レッドゾーンに入るような運転あるいはレッドゾーン内での運転は、エンジン故障の原因となりますので、そのような運転をしないようにお願いします。



A. レッドゾーン

スピードメータ

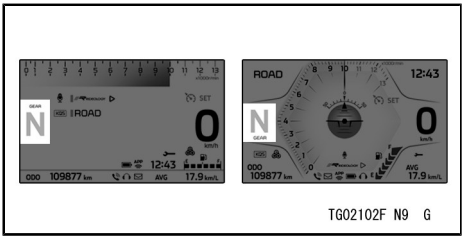


走行中の速度を示します。法定速度を守り安全走行してください。

アドバイス

○ 日本国内では、スピードメータの表示をキロメートル(km/h)に合わせてください。切り替え方法は「セッティング画面」の項、「表示単位」を参照してください。(84ページを参照)

ギヤポジションインジケータ



現在のギヤポジションを表示します。

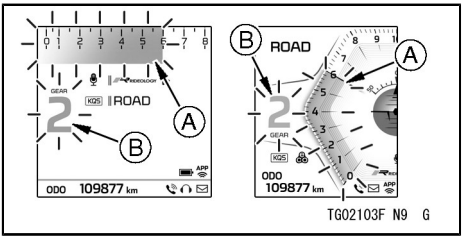
ギヤがニュートラルのときは“N”を表示します。

アドバイス

○ ギヤが正しく入っていない場合、「-」が表示されます。

ギヤポジションインジケータはシフトアップインジケータも兼ねています。

シフトアップインジケータ機能



A. タコメータ(オレンジ色へ変更と点滅)
B. ギヤポジションインジケータ(オレンジ色へ変更と点滅)

設定したエンジン回転速度になるとギヤポジションインジケータとタコメータが点滅し、シフトアップに最適なタイミングを運転者に知らせます。

アドバイス

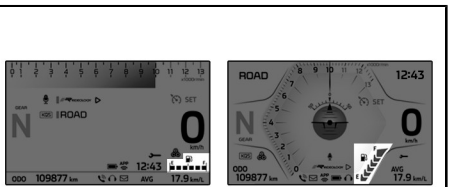
○ 設定したエンジン回転速度になる手前からギヤポジションインジケータがオレンジ色に変わりゆっくり点滅し始め、設定したエンジン回転速度 になると、タコメータの色もオレンジ色に変わりギヤポジションインジケータと共に速く点滅します。

シフトアップインジケータ機能の設定方法

シフトアップインジケータ機能はオン／オフおよび作動するタイミングを設定できます。

「セッティング画面」の項、「車両設定」を参照してください。(68ページを参照)

燃料計

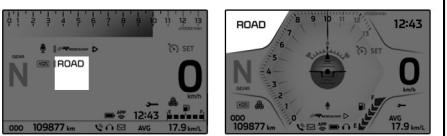


燃料タンクの残量がセグメントの数で表示されます。

アドバイス

- **燃料残量が少なくなると、燃料計（燃料警告インジケータとセグメント1つ）が点滅します。**
- **燃料計全体が点滅してる場合は、燃料計系統に問題があります。カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。**

インテグレイテッドライディングモードインジケータ

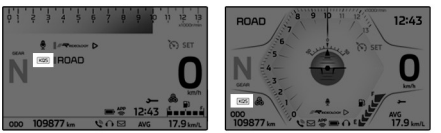


TG02105F N9 G

現在のライディングモードを表示します。

「正しい運転操作」の章の「インテグレイテッドライディングモード」の項を参照してください。(125ページを参照)

KQSモードインジケータ



TG02106F N9 G

KQSをオンにすると表示されます。

「正しい運転操作」の章の「KQS」の項を参照してください。(136ページを参照)

KQSの設定方法

「セッティング画面」の項、「車両設定（Vehicle Setting）」を参照してください(70ページを参照)。

クルーズコントロールシステムインジケータ

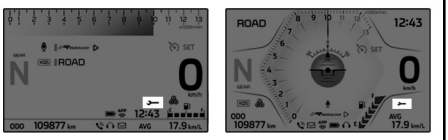


TG02107F N9 G

クルーズコントロールシステムの状況を表示します。

詳細は「正しい運転操作」の章の「クルーズコントロールシステム」の項を参照してください。(132ページを参照)

サービスインジケータ

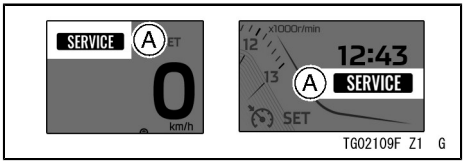


TG02108F N9 G

この車にはメンテナンスに関する通知機能を3種類（カワサキの標準設定および個人で指定できるエンジンオイル用とその他用）設定できます。

日付または距離が設定した値に達すると、イグニションスイッチをオンにしたときに、ホーム画面上にサービスインジケータとサービス通知メッセージが表示されるようになります。

サービス通知メッセージは30秒経過後に非表示となります。

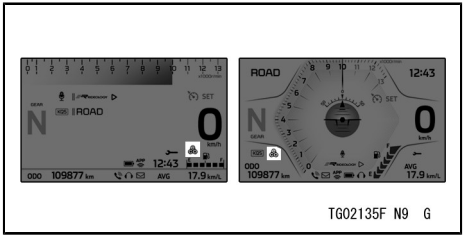


A. サービス通知メッセージ

メンテナンス通知機能の設定

「セッティング画面」の項、「サービス」を参照してください。(78ページを参照)

ECO走行インジケータ

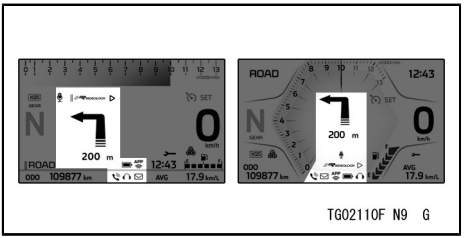


運転者が燃料消費を抑えた走行を行っているときはECO走行インジケータが表示され、低燃費走行であることが確認できます。ECO走行インジケータが表示される運転を心がけることで、燃料効率を高めることができます。

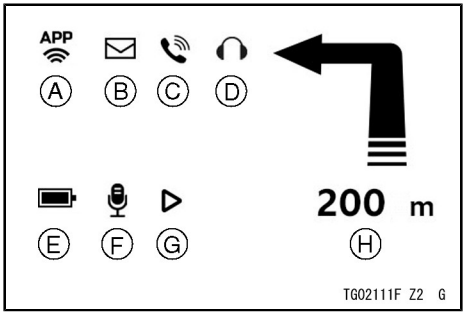
⚠ 警告

ECO走行インジケータに気を取られ過ぎて道路や交通の状況への注意を怠ると、死亡や傷害につながる事故を引き起こす可能性があります。常に広い視野をもって運転してください。

接続機器通知エリア



モバイル機器が車両に無線接続されている場合、このエリアにいくつかのアイコンが表示されます。



A. 接続アイコン
B. メールアイコン
C. 受話器アイコン
D. ヘルメット／ヘッドセット接続アイコン
E. バッテリ残量アイコン
F. システム音声アイコン
G. ライディングログアイコン
H. ナビゲーション

接続アイコン

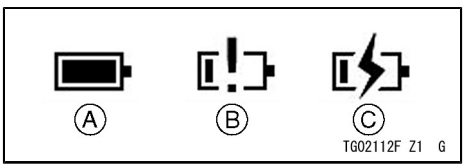
モバイル機器と車両を接続すると、このアイコンが表示されます。

メールアイコン
SMSまたはMMSを受信したときに表示されます。

受話器アイコン
電話の着信があると、このアイコンが表示されます。

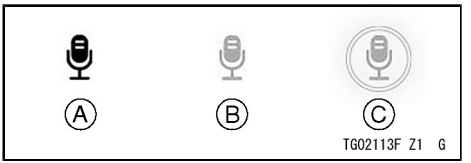
ヘルメット／ヘッドセット接続アイコン
ヘルメットまたはヘッドセットを、車両と接続中のモバイル機器に接続すると、このアイコンが表示されます。

バッテリ残量アイコン
接続しているモバイル機器のバッテリ残量を表示します。



A. 満充電
B. 要充電
C. 充電中

システム音声アイコン
音声アシスタント機能が作動しているときに表示されます。

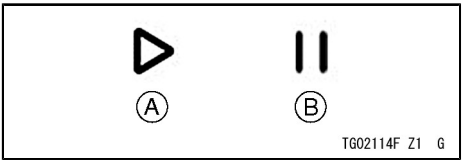


A.「ウェイクアップワード」待機状態（黒色アイコン）
B.「音声コマンド」受付状態（緑色アイコン）
C.「応答音声」の再生（緑色アイコン）

例文	
ウェイクアップワード	「ヘイ、カワサキ」
音声コマンド	「ライディングログを開始して」
応答音声	「ライディングログの記録を開始します」

ライディングログアイコン

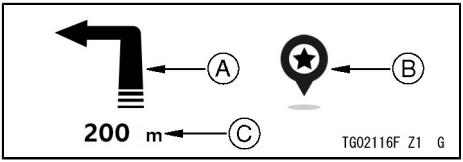
ライディングログ機能が作動しているときに表示されます。



A. 記録
B. 停止

ナビゲーション

ナビゲーションが作動しているときに表示されます。



A. 案内方向
B. 目的地
C. 案内点までの距離

Bluetooth®について

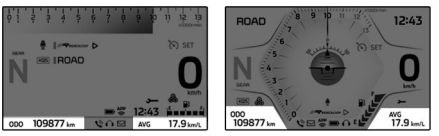
車両に内蔵されたブルートゥース無線接続技術を介してモバイル機器と接続できます。

専用アプリ「RIDEOLOGY THE APP MOTORCYCLE」を使用することで、車両の情報をモバイル機器に表示させたり、車両の設定を変更したりすることが可能です。詳細についてはアプリを参照してください。

アドバイス

- 安全のため、走行中はモバイル機器を使用しないでください。
- ご使用の機器がブルートゥースに対応していても、場合によっては接続できない可能性があります。

マルチファンクションディスプレイ



TG02115F N9 G

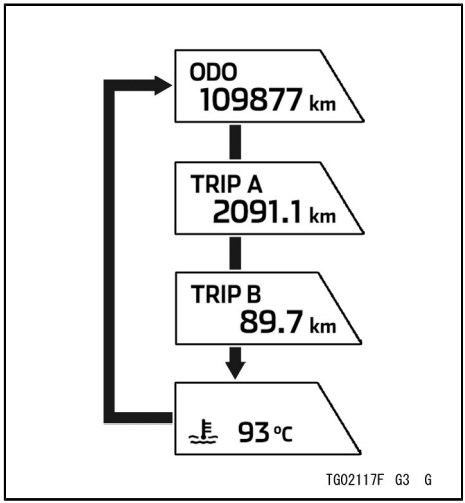
車両の状態に関する様々な情報を表示することができます。

切り替え方法

- 上MODEボタンを押すと、左側の項目が次の順序で切り替わります。

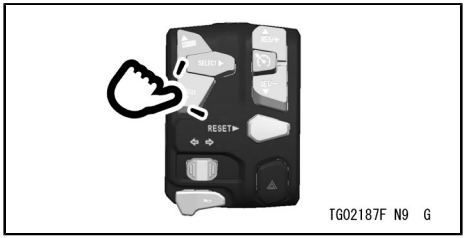


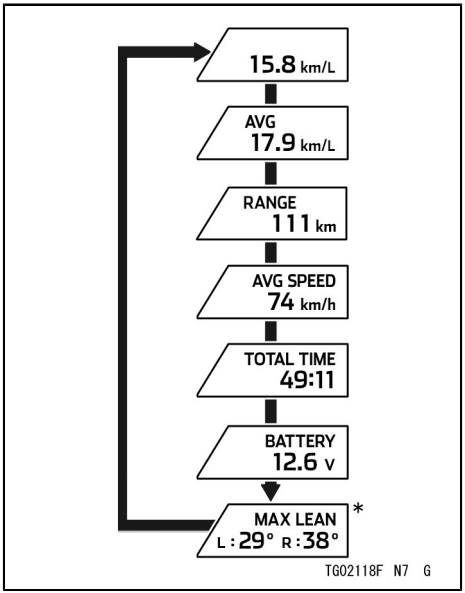
TG02186F N9 G



↓	オドメータ
↓	トリップメータA
↓	トリップメータB
↓	水温計

- 下MODEボタンを押すと、右側の項目が次の順序で切り替わります。





↓	瞬間燃費
↓	平均燃費
↓	航続可能距離
↓	平均車速
↓	経過時間
↓	バッテリ電圧
↓	最大リーン角*

*: 画面タイプ2のみ

リセット方法

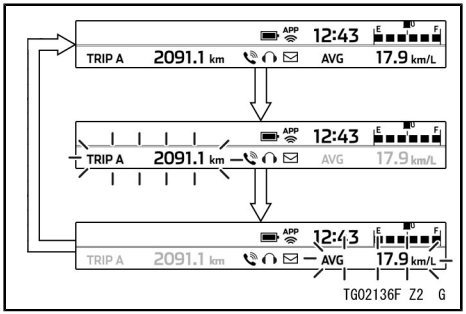
次の項目がリセットできます。

左側
トリップメータA
トリップメータB

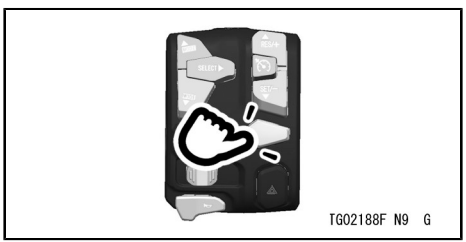
右側
平均燃費
平均車速
経過時間
最大リーン角

- RESETボタンを押すと、リセット可能な項目がハイライト表示されます。
- リセット可能な項目が両側に表示されている場合は、RESETボタンを押して項目を選択します。

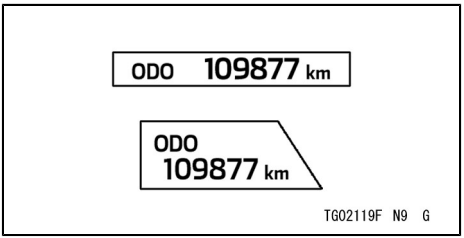




- リセットされるまでRESETボタンを押したままにしてください。



オドメータ

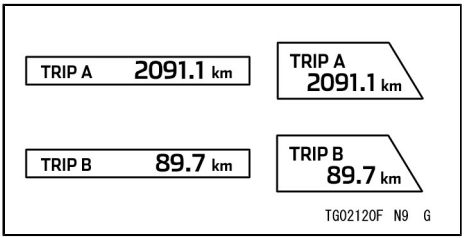


総走行距離を表示します。定期点検整備の目安となります。オドメータは“0 km”に戻すことはできません。

アドバイス

○ 値は“999999 km”までカウントされ、以降は固定されます。

トリップメータ

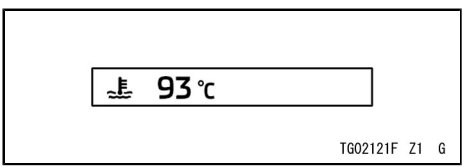


リセットした時点からの走行距離を表示します。

アドバイス

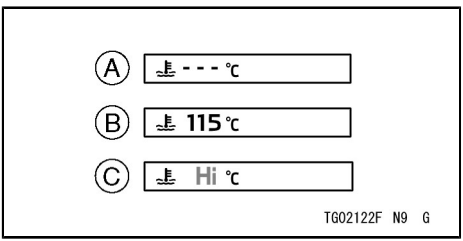
○ 値は“9999.9 km”を超えると“0.0 km”に戻ります。

水温計



冷却液の温度を表示します。水温計の表示は、下表のとおりです。

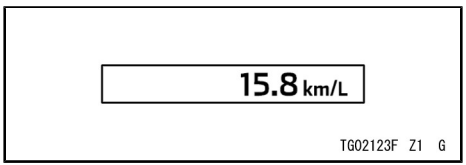
	水温	水温計表示
A	40°C以下	- - -
B	115°C以上	点滅
C	120°C以上	「Hi」の表示が点滅



注意

水温警告インジケータが点灯した時は走行しないでください。もし続けて走行すると、エンジンが損傷する原因となります。

瞬間燃費

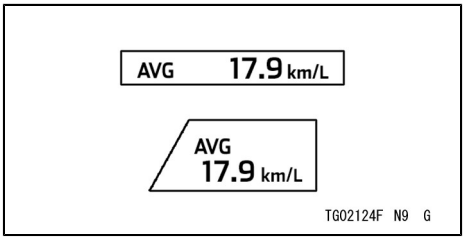


走行中にその瞬間の燃料消費率を表示します。

アドバイス

- **走行開始から数秒後に数値が表示されます。**

平均燃費

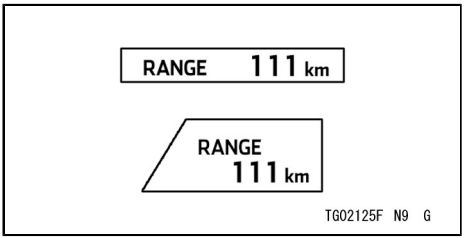


リセット時点以降の平均の燃料消費率を表示します。

アドバイス

○ 走行開始から数秒後に数値が表示されます。

航続可能距離



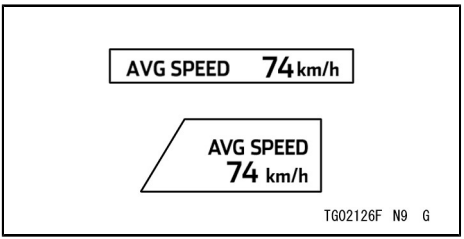
燃料タンクの残量に基づいて航続可能距離を表示します。

アドバイス

○ 燃料が充分にあるときは、数値の横に「(＋)」が表示されます。
○ 燃料が少なくなり燃料警告インジケータが点灯した後、しばらく走行を続けると航続可能距離は表示されなくなります。
○ 燃料を補給すれば燃料警告インジケータは消灯し、航続可能距離が表示されるようになります。航続可能距

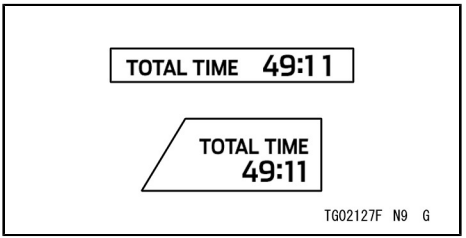
離は、燃料残量が少ないときにも表示されますが、正確ではありません。

平均車速



リセット時点からの平均の車速を表示します。

経過時間

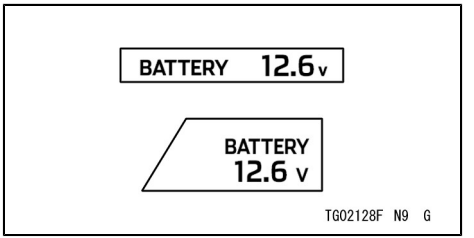


イグニッションスイッチをオンにしている間に経過した時間を表示します。

アドバイス

- 値は“99:59”(99時間59分)までカウントされ、以降は固定されます。

バッテリ電圧

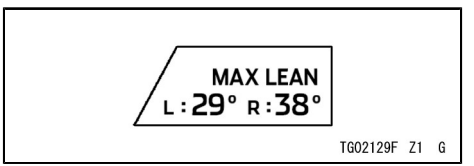


現在のバッテリ電圧を表示します。

アドバイス

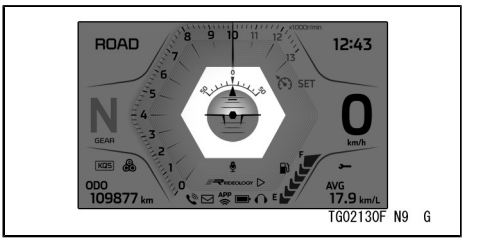
○ 表示される値は、他の電圧計で測定した値と異なる場合があります。

最大リーン角



リセット時点から最も大きい車体の左右の傾き（最大リーン角）を表示します。

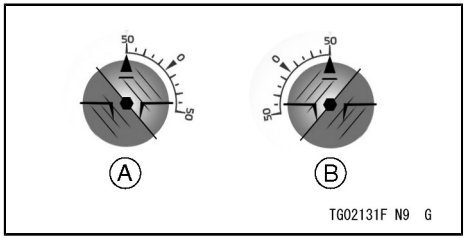
リーン角／加速度／減速度インジケータ



車体のリーン角と、加速度／減速度を表示します。

リーン角

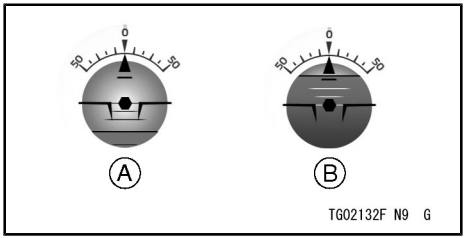
車体の左右の傾きを表示します。



A. 左の傾き
B. 右の傾き

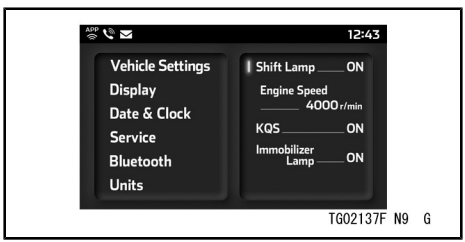
加速度／減速度

加速度が大きいほど、背面に向かって青い領域が大きくなります。減速度が大きいほど、前方に向かって青い領域が小さくなります。



A. 加速度が大きい
B. 減速度が大きい

セッティング画面



各種機能の設定変更ができます。設定前に各機能についてご確認ください。

アドバイス

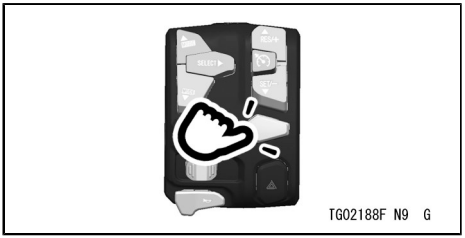
○ 車速が5 km/hを超えると、強制的にホーム画面に戻ります。

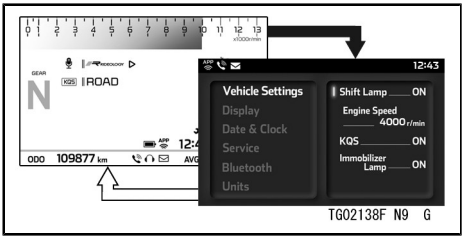
基本操作

● SELECTボタンを押し続けるとセッティング画面に切り替わります。



● RESETボタンを押し続けるとホーム画面に戻ります。



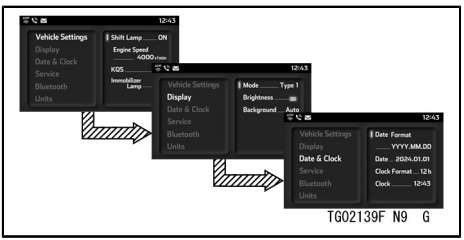


➡ : SELECTボタンを押し続けたときの切り替わり方

⇨ : RESETボタンを押し続けたときの切り替わり方

- 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押すと、選択項目の切り替えや移動ができます。

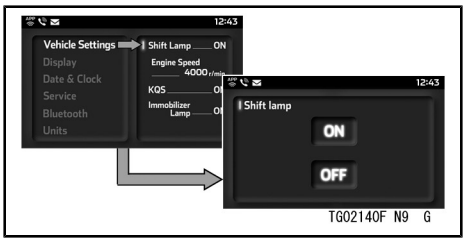




: 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

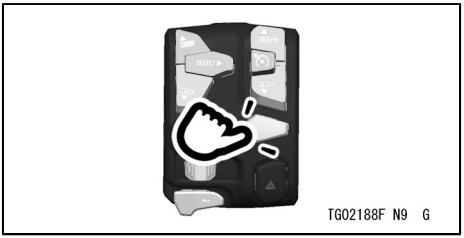
- SELECTボタンを押すと、次の画面に進みます（決定）。

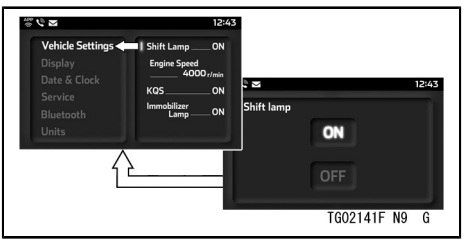




: SELECTボタンを押したときの切り替わり方

- RESETボタンを押すと、前の画面に戻ります（キャンセル）。





⟹：RESETボタンを押したときの切り替わり方

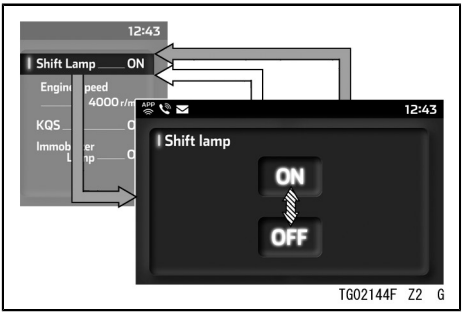
車両設定



シフトランプ



シフトアップインジケータ機能のオン／オフを切り替えます。



: SELECTボタンを押したときの切り替わり方
: RESETボタンを押したときの切り替わり方
: 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

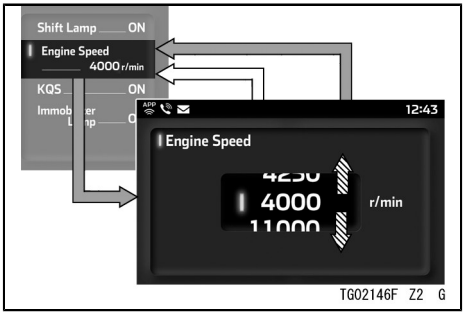
エンジン回転速度



シフトアップインジケータ機能が作動するタイミングを設定します。

アドバイス

- 「Shift Lamp」の設定がオフのときは選択できなくなります。

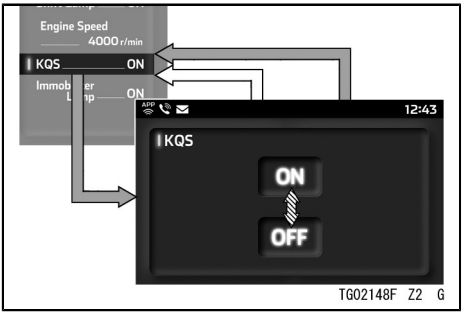


⇒:SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇒:RESETボタンを押したときの切り替わり方
⇒:上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

KQS



KQS（Kawasaki Quick Shift）のオン／オフを切り替えます。

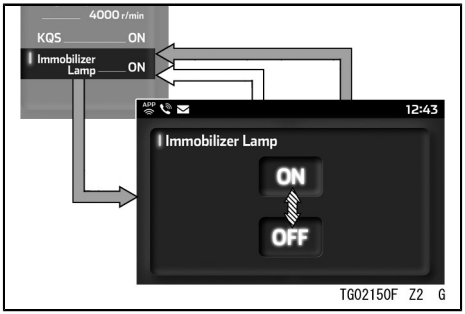


: SELECTボタンを押したときの切り替わり方
: RESETボタンを押したときの切り替わり方
: 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

イモビライザランプ



駐車時のイモビライザ警告インジケータ点滅モードのオン／オフを切り替えます。



⇒ : SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇒ : RESETボタンを押したときの切り替わり方
⇒ : 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

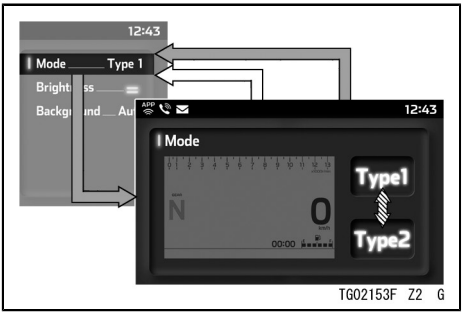
ディスプレイ



モード



画面の表示レイアウトを切り替えます。

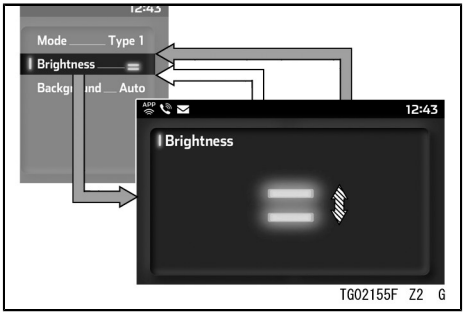


: SELECTボタンを押したときの切り替わり方
: RESETボタンを押したときの切り替わり方
: 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

明るさ



画面のバックライトの明るさを2段階で切り替えます。

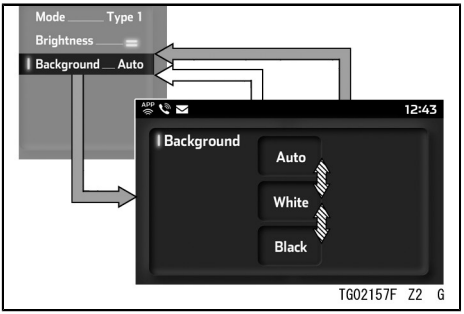


⇒:SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨:RESETボタンを押したときの切り替わり方
⇛:上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

背景



画面の背景色を切り替えます。また、自動モード（Auto）に設定することもできます。



: SELECTボタンを押したときの切り替わり方
: RESETボタンを押したときの切り替わり方
: 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

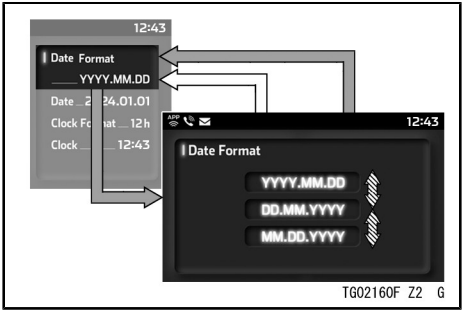
日付と時刻



フォーマット（日付）



日付の表示方法を切り替えます。



: SELECTボタンを押したときの切り替わり方
: RESETボタンを押したときの切り替わり方
: 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

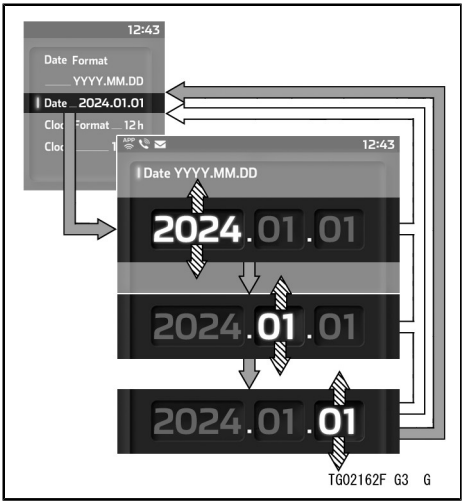
日付



日付を設定します。

アドバイス

○ 年は2024年から2099年の間で選択できます。

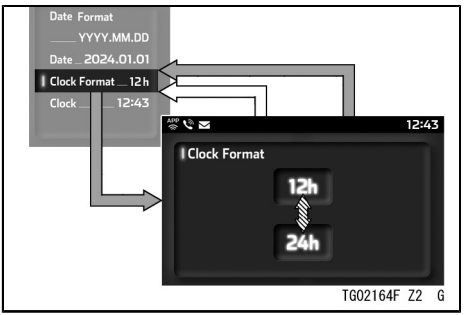


: SELECTボタンを押したときの切り替わり方
: RESETボタンを押したときの切り替わり方
: 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

フォーマット(時計)



時計の表示方法を切り替えます。

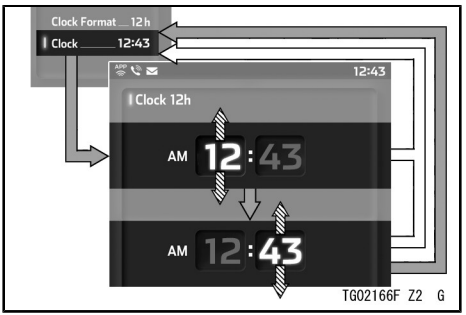


: SELECTボタンを押したときの切り替わり方
: RESETボタンを押したときの切り替わり方
: 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

時計



時刻を設定します。



: SELECTボタンを押したときの切り替わり方
: RESETボタンを押したときの切り替わり方
: 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

サービス



カワサキサービス



この項目はカワサキ正規取扱店にて設定が可能です。

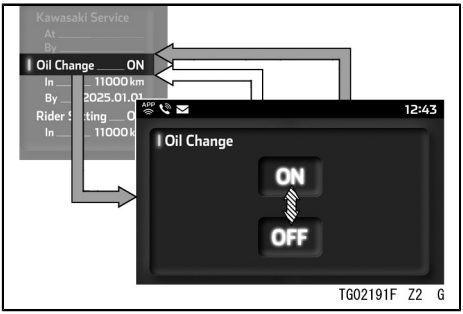
オイル交換



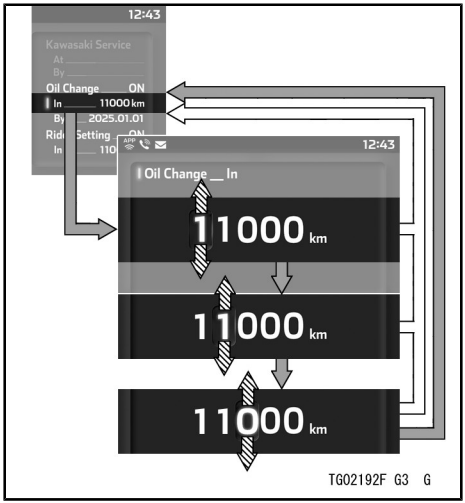
エンジンオイルについての通知のオン／オフを切り替えます。距離の設定が可能です。

アドバイス

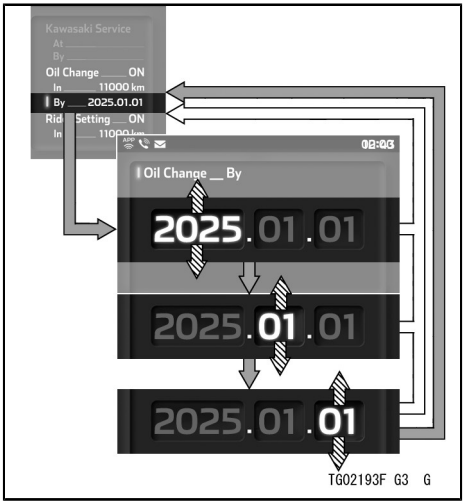
- 距離は0 kmから12 000 kmの間で設定できます。
- 年は2024年から2099年の間で選択できます。



: SELECTボタンを押したときの切り替わり方
: RESETボタンを押したときの切り替わり方
: 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方



: SELECTボタンを押したときの切り替わり方
: RESETボタンを押したときの切り替わり方
: 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方



: SELECTボタンを押したときの切り替わり方
: RESETボタンを押したときの切り替わり方
: 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

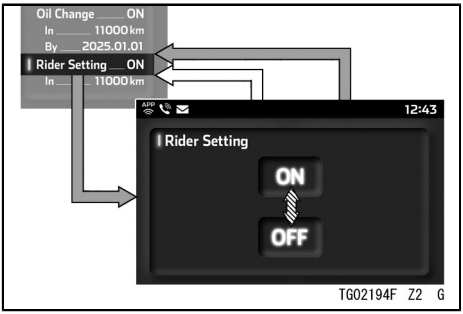
ライダセッティング



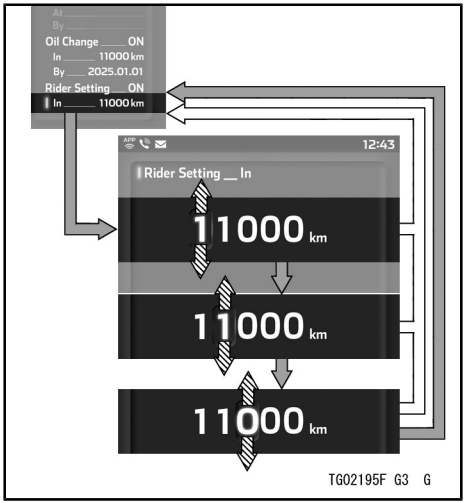
この項目はユーザーが設定できる項目です。お好みのメンテナンス距離を設定してください。

アドバイス

○ 距離は0 kmから12 000 kmの間で設定できます。



: SELECTボタンを押したときの切り替わり方
: RESETボタンを押したときの切り替わり方
: 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方



: SELECTボタンを押したときの切り替わり方
: RESETボタンを押したときの切り替わり方
: 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

ブルートゥース®

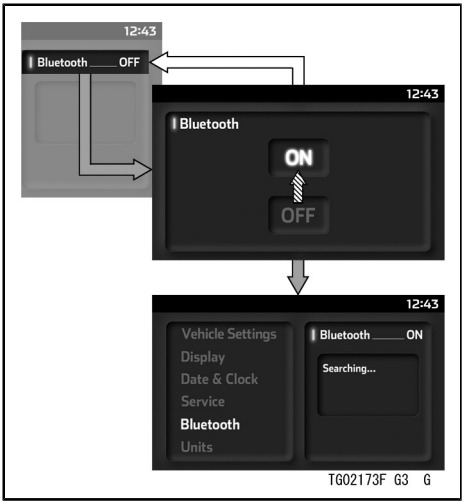


ブルートゥース



ブルートゥースのオン／オフを切り替えます。

この項目をオンにすると、車両がモバイル機器の検索を開始します。



: SELECTボタンを押したときの切り替わり方
: RESETボタンを押したときの切り替わり方
: 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

アドバイス

○ ブルートゥース機能を使用するには、専用アプリ「RIDEOLOGY THE APP MOTORCYCLE」が必要です。
○ ブルートゥース設定画面でブルートゥースをオンにすると、ペアリングモードが自動的に「オープン（Open）」に切り替わります。

アプリのダウンロードおよびご利用方法
https://www.kawasaki-cp.khi.co.jp/kawasaki_connect/jp/mc.html

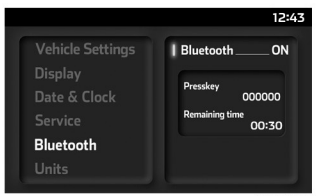
TG02048FZ1 S

ペアリング

● ブルートゥースをオンにすると、車両がモバイル機器の検索を開始します。接続するモバイル機器のブルートゥースをオンにし、アプリを起動します。
● 車両とモバイル機器がお互いを検出すると、モバイル機器に製品が表示されます。
● 製品を選択し、車両に表示されたパスキー（PIN）をモバイル機器に入力します。

アドバイス

○ 車両がモバイル機器を検知しない場合は、機器をメータに近付けてください。



TG02174F N9 G

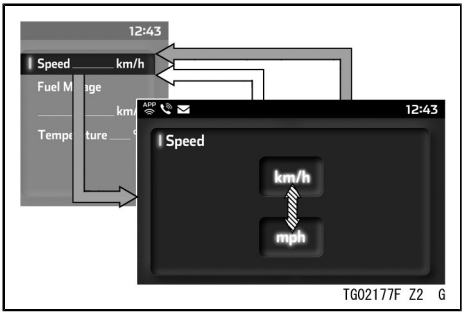
表示単位



速度



速度の単位を切り替えます。

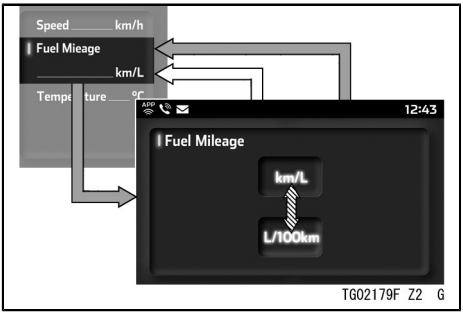


: SELECTボタンを押したときの切り替わり方
: RESETボタンを押したときの切り替わり方
: 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

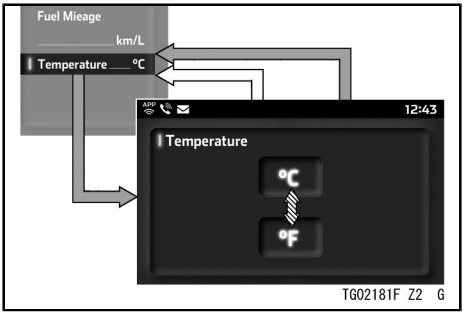
燃費



燃費の単位を切り替えます。



: SELECTボタンを押したときの切り替わり方
: RESETボタンを押したときの切り替わり方
: 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方



: SELECTボタンを押したときの切り替わり方
: RESETボタンを押したときの切り替わり方
: 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

温度

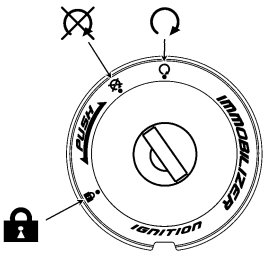


温度の単位を切り替えます。

スイッチの使い方

イグニションスイッチ

イグニションスイッチは3段切換えです。キーを回してオン、オフ、ロックを切り替えます。



TGO4304B Z2 S

- **ON**
  - エンジンは始動し走行できる。
  - すべての電装部品が使用できる。
  - キーは**抜けない**。
- **OFF**
  - エンジンが停止する。
  - エンジンは始動できない。
  - 電気回路を遮断する。
  - キーは**抜ける**。
- **LOCK**
  - エンジンは始動できない。
  - 電気回路を遮断する。
  - ステアリングがロックされる。
  - キーは**抜ける**。

⚠ 警告

走行中にイグニションキーをオフやロックに操作すると電気系統の作動が停止し、負傷や死亡事故につながる可能性があります。イグニションキーは必ず停車中に操作してください。

アドバイス

○ イグニションスイッチをオンにしたとき、ヘッドライト、ポジションライト、テールライト、ライセンスプレートライトが点灯します。

⚠ 警告

- **イグニションスイッチをオンにしたまま、またはエンジン始動後、アイドリング状態で長時間放置すると、バッテリあがりの原因となります。**
- **車から離れるときは必ずステアリングロックをかけ、キーを抜いてお持ちください。金属製キーホルダは、使用しないでください。また、イグニションキーにリング等で他のキーをつなげないでください。走行中、キーホルダや他のキーが車の部品を傷つけたり、キーシリンダの損傷の原因となります。**

イモビライザシステム

この車は、電子的に車に登録されているイグニションキーを使用しないとエンジンが始動できないイモビライザシステムを装備しております。

この車専用に登録されている2本のイグニションキーでエンジンを始動することができます。1本は紛失しないように保管しておくことをおすすめします。

イグニションキーは最大5本まで登録することができます。新しくイグニションキーを追加されるときは、全てのイグニションキーをお車に添えてカワサキ正規取扱店にお申しつけください。

もし5本のイグニションキーを全て紛失された場合は、新しくイグニションキーを登録することができなくなりますので、ご注意ください。

⚠ 警告

キーの保護のために次の注意事項をお守りください。

- **リング等で他のキーをつなげないでください。**
- **水につけたり、高温にさらしたり、磁気を近づけたりしないようにしてください。**
- **キーの上に重い物を置かないようにしてください。**
- **キーを分解しないようにしてください。**
- **キーを落とすまたは、強い衝撃を与えないようにしてください。**
- **イグニションキーを紛失されたときは、ただちにカワサキ正規取扱店にご相談してください。イグニションキーを紛失した場合は残りのイグニションキーすべての再登録をお勧めいたします。**
- **全てのイグニションキーを紛失されたときは、ECUの交換と、新しいイグニションキーの登録が必要となります。**

登録された専用のイグニションキーでないと、エンジンは始動しません。エンジンの始動の際には、登録された専用のイグニションキーをご使用ください。

イグニションスイッチをオフにすると、警告インジケータが点滅し、イモビライザシステムが作動します。警告インジケータは24時間経過後に消えますが、イモビライザシステムは作動しています。

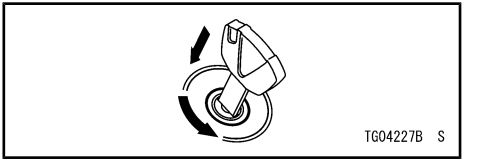
ステアリングロック

車から離れるときは、盗難予防のため必ずステアリングロックをかけ、キーを抜いてお持ちください。

チェーンロック等のご使用もおすすめします。

かけ方

- ハンドルを左にきります。
- ロックの位置にするときは、オフの位置でキーを押し込み、そのままロックの位置まで回します。



- ハンドルを軽く左右に動かし確実にロックされているか確認します。
- キーを抜きます。

⚠ 警告

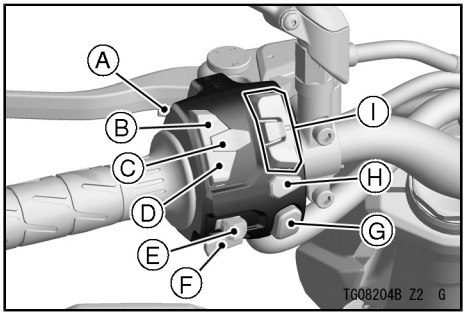
エンジンや排気系統は運転中や停止後しばらくの間は高温のため、やけどをおこす可能性があります。
- **エンジンや排気系統には触れないでください。**
- **駐車するときは交通の邪魔にならない、安全な場所で他の方がマフラ、エンジンに触れることのない場所に駐車してください。**

はずし方
- キーを差し込みます。
- キーをオフの位置まで回します。

⚠ 警告

ハンドルのきれ角が左右均等でないと、死亡または重大な傷害となる事故につながる可能性があります。走行前にハンドルを左右に動かして、ハンドルのきれ角が左右均等であることを確認してください。

左ハンドルスイッチ



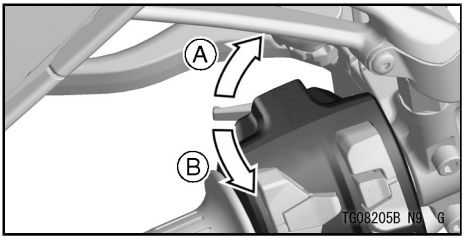
A. ディマ/パッシングボタン
B. 上MODEボタン
C. SELECTボタン
D. 下MODEボタン
E. ターンシグナルスイッチ
F. ホーンボタン
G. ハザードボタン
H. RESETボタン
I. クルーズコントロールボタン

ディマ／パッシングボタン

ヘッドライトの照射の上下切り替えは、ディマ／パッシングボタンで行います。ハイビーム（上向き）に切り替えると、メータのハイビームインジケータが点灯します。

ハイビーム（上向き）を使用するときは、ボタンを前方に押し出してください。ロービームに戻す場合は、ボタンを手前に引いてください。

他車に対して合図をするときは、ボタンを手前に引いてください。ボタンを手前に引いている間だけハイビームが点灯します。



A. (押す)ハイビーム点灯
B. (引く)ハイビーム消灯／パッシング

上向き　下向き　パッシング

アドバイス

○ ヘッドライト点灯時にレンズ部分を衣類等でさえぎらないでください。ヘッドライトの熱によりレンズ部が変色、溶損等を引き起こす可能性が有ります。また、さえぎった衣類等にも影響を及ぼす可能性がありますので、行わないでください。

上MODEボタン／下MODEボタン

メータ表示やインテグレイテッドライディングモードの切り替え等に使用します。

メータ表示

- 「メータの見方・使い方」の章を参照してください。(32ページを参照)

ライディングモード

- 「正しい運転操作」の章、「インテグレイテッドライディングモード」の項を参照してください。(125ページを参照)

SELECTボタン

メータ表示の切り替え等に使用します。

メータ表示

- 「メータの見方・使い方」の章を参照してください。(32ページを参照)

ホーンボタン

ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。ホーンが正常に作動しないときは、ホーンが故障しています。

アドバイス

- **必要なとき以外は使用しないでください。**

ターンシグナルスイッチ

右左折するときや進路を変更するときは、ターンシグナルで合図します。スイッチを左または右に入れると、メータユニットのターンシグナルインジケータが、ターンシグナルライトと共に点滅します。

左折　　右折

⚠ 警告

ターンシグナルスイッチは自動的に解除しません。使用後は必ずスイッチを操作して解除してください。つけたままにしておくと他の方の判断を誤らせて事故をまねく可能性があります。

ハザードボタン ⚠

路肩で緊急停車するときは、ハザードライトで他の運転者に停車していることを警告します。

イグニションスイッチをオンにしてハザードボタンを押すと、ターンシグナルインジケータとすべてのターンシグナルライトが点滅します。

アドバイス

○ ハザードボタンを長時間使用すると、バッテリが上がる原因になるため、ハザードボタンは長時間使用しないでください。

RESETボタン

メータ表示

- 「メータの見方・使い方」の章を参照してください。(32ページを参照)

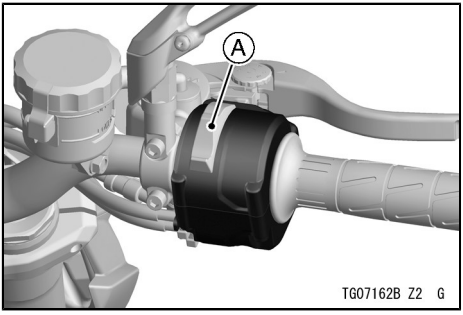
クルーズコントロールボタン

クルーズコントロールシステムの操作に使用します。

クルーズコントロールの設定

- 「正しい運転操作」の章、「クルーズコントロールシステム」の項を参照してください。(132ページを参照)

右ハンドルスイッチ



A. エンジンスタート／ストップスイッチ

アドバイス

○ 右ハンドルスイッチに磁石を近づけないでください。スロットルセンサに影響を与える可能性があります。

エンジンスタート／ストップスイッチ

エンジンを始動する手順については、「正しい運転操作」の章、「エンジンのかけ方」の項を参照してください。
(112ページを参照)

注意

スタータモータを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリあがりの原因となります。

非常時にエンジンを停止するには、エンジンストップスイッチを ⊠ の位置にします。

通常、車を作動させるためには、エンジンストップスイッチを ⟲ の位置にしなければなりません。

アドバイス

○ エンジンストップスイッチは、転倒またはスロットル系統に故障を生じたときなどの非常時にエンジンを停止させるために使用します。
○ 通常、エンジンを停止するときは、イグニションスイッチを使用します。

注意

- エンジンストップスイッチでエンジンを停止した場合は、すぐにイグニションスイッチをオフにしてください。オンのままにしておくとバッテリあがりの原因となります。
- 走行中にエンジンストップスイッチを ↺ → ⊠ → ↺ にするとエンジン回転が円滑に作動しなくなり、エンジンに悪影響を及ぼす原因となります。

各部の取り扱い方

サイドスタンド

この車にはサイドスタンドがあります。

サイドスタンドを使ったときは、発進する前に、サイドスタンドを確実に格納する習慣をつけてください。サイドスタンドが下りたままギヤを入れると、サイドスタンドスイッチとスタータロックアウトスイッチが働いて、自動的にエンジンが止まります。

サイドスタンドを使ったときは、発進する前に、サイドスタンドを確実に格納する習慣をつけてください。サイドスタンドが下りている間は、サイドスタンドスイッチが働いて、車はニュートラル状態から切り換わりません。

サイドスタンドを使ったときは、発進する前に、サイドスタンドを確実に格納する習慣をつけてください。サイドスタンドが下りたままギヤを入れると、サイドスタンドスイッチが働いて、自動的に駆動システムが止まります。

アドバイス

- **サイドスタンドを使用するときは、ハンドルを必ず左にきってください。**
- **車から離れる前にサイドスタンドが確実にセットされているか確認してください。**

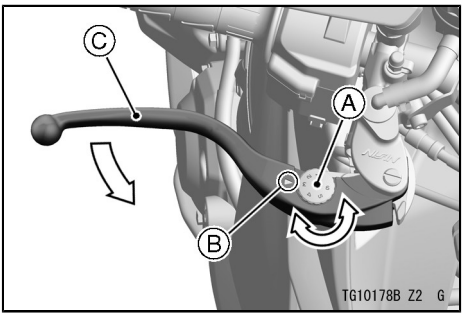
ブレーキレバーアジャスタ

ブレーキレバーとグリップの距離をお好みの位置に調整できます。

- レバーを前方に押しながらアジャスタを回して、アジャスタの番号をレバーのマークに合わせ、レバーを放します。

［ブレーキレバーの位置調整］

アジャスタの位置：					
1	2	3	4	5	6
レバーとグリップの距離：					
遠い		←→		近い	



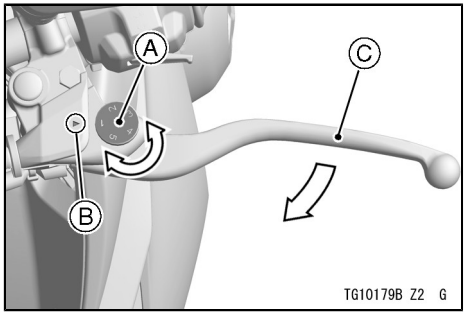
A. アジャスタ
B. マーク
C. ブレーキレバー

クラッチレバーアジャスタ

クラッチレバーとグリップの距離をお好みの位置に調整できます。

［クラッチレバーの位置調整］

アジャスタの位置：				
1	2	3	4	5
レバーとグリップの距離：				
遠い		←→		近い



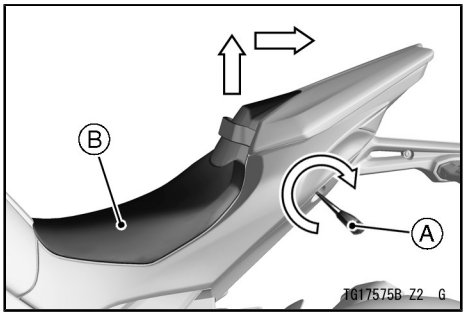
A. アジャスタ
B. マーク
C. クラッチレバー

シート

運転者用シート、同乗者用シートの順で取り外すことができます。

運転者用シートの取り外し

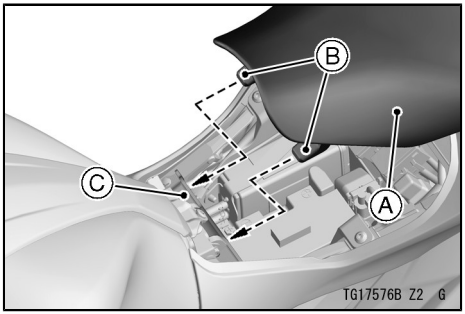
- シートロックにキーを差し込みます。
- キーを時計回りに回し、運転者用シートの後側を引き上げます。
- シートを後方へ取り外します。
- キーを抜き取ります。



A. キー
B. 運転者用シート

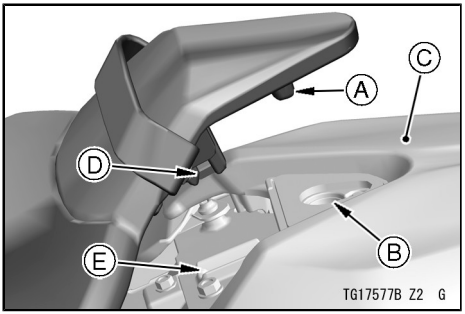
運転者用シートの取り付け

- 運転者用シートの前側にあるタブを燃料タンクブラケットの下に差し込みます。



A. 運転者用シート
B. タブ
C. 燃料タンクブラケット

- シートの後側にある突起を同乗者用シートの穴に差し込みます。
- シートの後側にあるフックを車体のスロットに差し込みます。

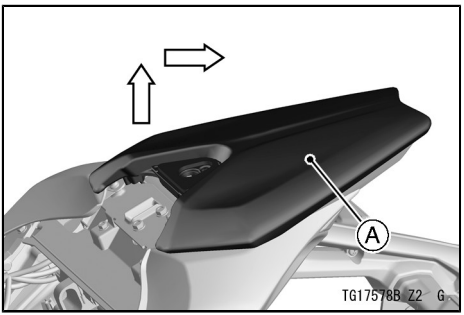


A. 突起
B. 穴
C. 同乗者用シート
D. フック
E. スロット

- シートの後側を上から押してロックします。
- シートの前後を引き上げて確実にロックされていることを確認します。

同乗者用シートの取り外し

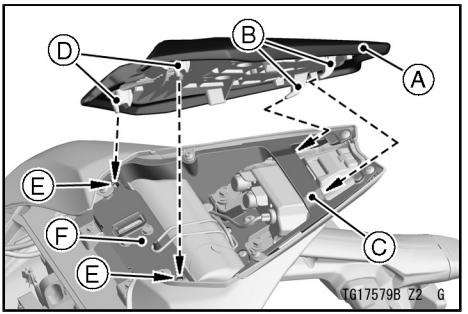
- 運転者用シートを取り外します。(99ページを参照)
- シートの前側を引き上げ、後方へ取り外します。



A. 同乗者用シート

同乗者用シートの取り付け

- 同乗者用シートの後側にあるタブをフレームブラケットに差し込みます。
- シートの前側にある突起をフレームの穴に差し込みます。



A. 同乗者用シート
B. タブ
C. フレームブラケット
D. 突起
E. 穴
F. フレーム

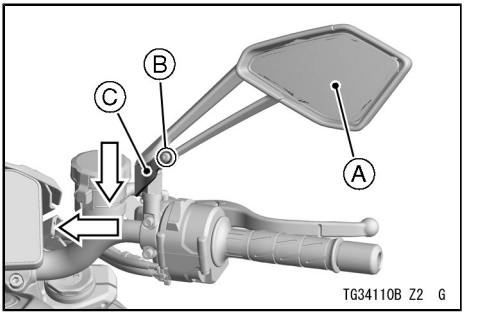
- 運転者用シートを取り付けます。(99ページを参照)

バックミラー

乗車位置から後方の安全を充分確認できる位置にミラーを合わせます。

バックミラーの調整の仕方

- ミラー部を動かして微調整をします。
- ミラー部で十分に調整できない場合は、次のように調整してください。
- ミラーステーカバー取り付けボルトを取り外します。
- ミラーステーカバーを取り外します。

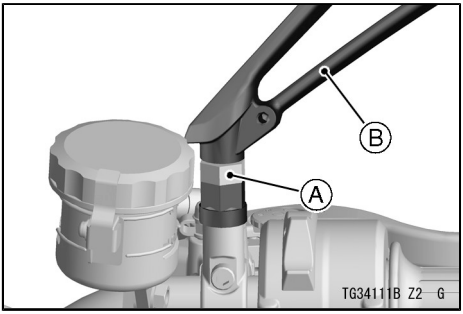


A. バックミラー
B. ミラーステーカバー取り付けボルト
C. ミラーステーカバー

- ロックナット（上側）をゆるめ、ステーを手で回して調整します。

注意

ロックナットとステー取り付け部分は左ねじを使用しているので、回転方向を間違わないようにしてください。反対方向に回すとねじを傷めて使用不能になる可能性があります。



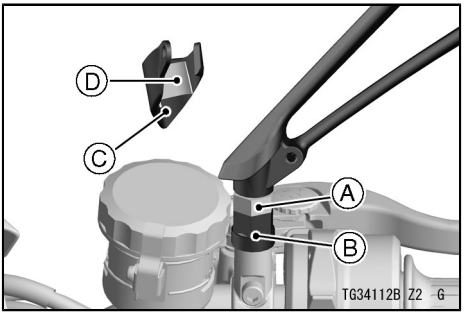
A. ロックナット（上側）
B. ステー

- ロックナット（上側）を締め付けます。

締め付けトルク

ロックナット（下側）：
30 N·m (3.1 kgf·m)
ロックナット（上側）：
18 N·m (1.8 kgf·m)

- パッドがミラーステーカバーの所定の位置に付いていることを確認します。
- ミラーステーカバーを取り付けます。



A. ロックナット（上側）
B. ロックナット（下側）
C. ミラーステーカバー
D. パッド

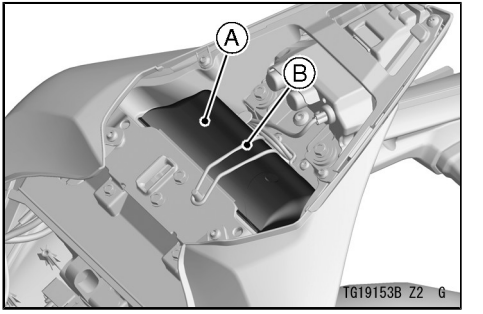
● ミラーステーカバー取り付けボルトをしっかりと締め付けます。

アドバイス

○ トルクレンチがない場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

ツールキット

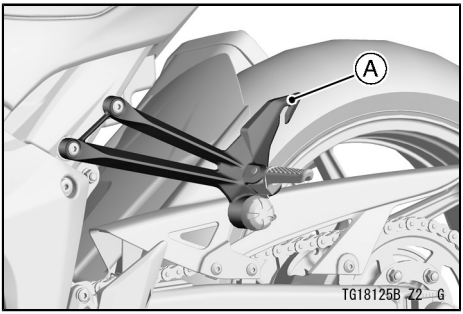
ツールキットは同乗者用シートの下側にあります。整備や調整などに使用しますので、常備してください。



A. ツールキット
B. バンド

荷掛けフック

シートに軽い荷物を結びつける場合、リヤステップ後方にある左右の荷掛けフックを使用してください。



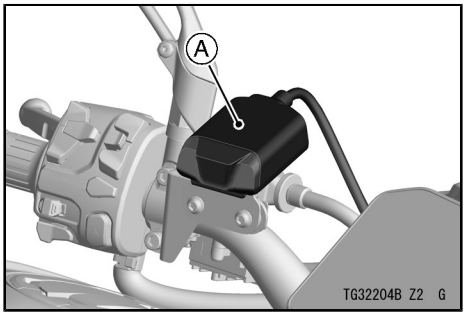
A. 荷掛けフック

⚠ 警告

エンジンや排気系統は運転中や停止後しばらくの間は高温のため、やけどをおこす可能性があります。
- **作業する場合はエンジンや排気系統には触れないでください。**

USBソケット（装備モデル）

USBソケットからバッテリ電源を取り出すことができます。以下の注意事項に従ってご使用ください。



A. USBソケット

注意

ソケットにアクセサリを接続するときは、アクセサリ部品またはリード線がハンドル操作を妨げないようにしてください。

注意

- ソケットにアクセサリを接続している場合は、雨天時の走行や洗車はしないでください。USB端子が腐食し、充電ができなくなる可能性があります。もしソケットを濡らしてしまった場合は、イグニションスイッチをオフにした状態で充分に乾燥したのち、使用してください。
- 携帯電話端末以外の充電、給電に使用した場合、正常に動作しない場合があります。
- アクセサリを使用しないときには、必ずソケットにキャップを取り付けてください。

⚠ 警告

- **動作中はUSBソケット表面が熱くなります。やけどの可能性があるため、充電中、充電直後はUSBソケットに触らないようにしてください。**
- **USB端子に5.5 V以上の電圧を加えないでください。USBソケットの故障および発煙、発火の可能性があります。**

燃料の補給

⚠ 警告

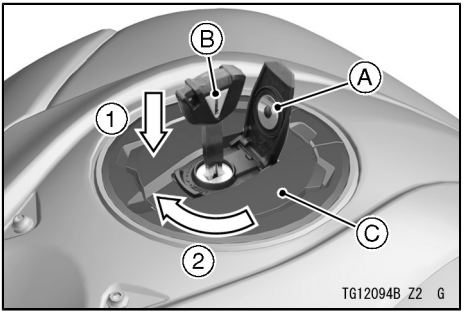
燃料は非常に引火性が強く、一定の条件下では火災や爆発の可能性があります。燃料を取り扱うときあるいは、給油するときは必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。

- **タバコを吸うなど火気を近づけないでください。**
- **ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。**
- **給油は必ず風通しのよい屋外で行ってください。**

身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があります。次のことは必ず守ってください。

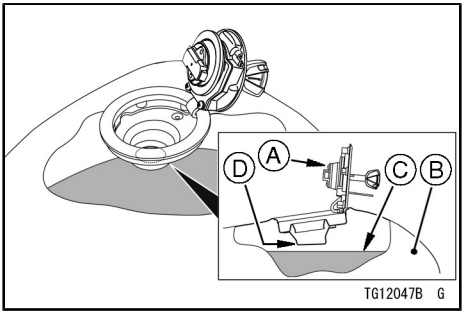
- **タンクキャップを開ける前に車体または、給油機等の金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。**
- **ガソリンまたは燃料がこぼれた場合は、布などで完全に拭きとってください。**
- **タンクキャップを開けるなど、給油機の操作は必ず、静電気の除去を行った人お1人で行ってください。**
- **給油口に他の人を近づけないでください。**

- キーホールカバーを引き上げます。
- 燃料タンクキャップのロックにキーを差し込み、燃料タンクキャップを軽く押しながらキーを時計回りに回します。



A. キーホールカバー
B. キー
C. 燃料タンクキャップ

- 燃料タンクキャップを開けます。
- 燃料を給油します。燃料は注入口にあるレベルプレートの下端以上入れず、図のように少し控え目に入れてください。



A. 燃料タンクキャップ
B. 燃料タンク
C. トップレベル
D. レベルプレートの下端

注意

- **必ず無鉛プレミアムガソリンを使用してください。燃料を補給するときは、必ず無鉛プレミアムガソリンであることを確認してから行ってください。無鉛レギュラガソリンを使用すると、エンジンに悪影響を及ぼす原因となります。**
- **高濃度アルコール燃料を使用しないでください。高濃度アルコール燃料を使用すると、エンジンや燃料系の部品を損傷させる原因となります。**
- **粗悪ガソリンまたは燃料に不適切な添加剤を使用しないでください。粗悪ガソリンまたは不適切な添加剤を使用すると、エンジンに悪影響を及ぼす可能性があります。**

- タンクキャップを閉じるときは、キーをキャップに差し込んだ状態で、キャップを手で押し下げます。
- キーを"LOCK"の位置に回して抜きます。

アドバイス

○ タンクキャップはキーを差し込んでいないとロックできません。また、キャップが確実にロックされていないとキーは抜けません。
○ タンクキャップを閉じるときに、キーを持って押し付けないでください。正しくロックできません。

- キーホールカバーを閉めます。
- サイドスタンド状態においては燃料計は燃料量を正確に表示しません。車体を正立状態にして、燃料量の確認を行ってください。

⚠ 警告

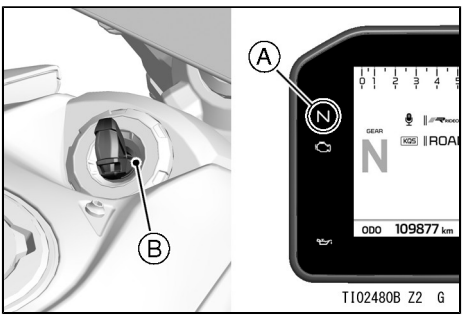
燃料は非常に引火性が強く、一定の条件下では火災や爆発の可能性があります。燃料を取り扱うときあるいは、給油するときは必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。

- **燃料タンクに燃料を入れすぎると、走行中燃料が膨張してタンクキャップのブリーザホースからにじみ出ることがあります。燃料は入れすぎないでください。**
- **タンクキャップは確実に閉めてください。**
- **燃料がこぼれた場合は、ただちに布などで完全に拭きとってください。**

正しい運転操作

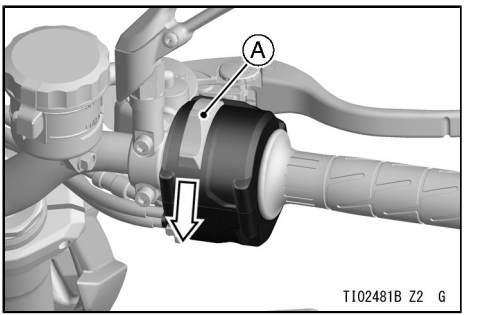
エンジンのかけ方

- イグニションスイッチをオンにします。
- トランスミッションをニュートラルにします。ニュートラルに入っているかどうかニュートラルインジケータで確認します。



A. ニュートラルインジケータ
B. イグニションスイッチ

- メータの初期動作が終了したのち、スロットルグリップを動かさずにクラッチレバーを握り、エンジンスタート／ストップスイッチを の位置にスライドし、エンジンを始動させます。



A. エンジンスタート／ストップスイッチ

アドバイス

○ エンジン冷間時にはファストアイドル機構が自動的に働き、エンジン回転速度が高くなります。このとき、無理なスロットル操作を行うとエンジン警告インジケータが点灯する可能性があります。

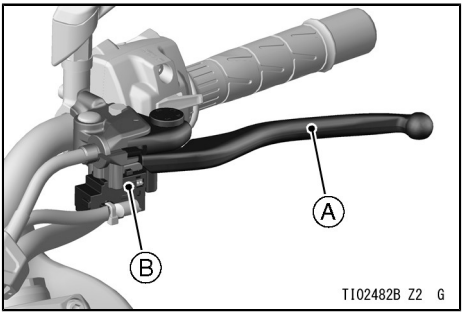
○ この車には、転倒した際に自動的にエンジンを停止させるための転倒センサを採用しています。再度エンジンを始動させるには車体を垂直に起こした後、一旦イグニションスイッチをオフにして、それから再度イグニションスイッチをオンにします。

⚠ 危険

排気ガスには、無色無臭の有毒ガスである一酸化炭素が含まれています。排気ガスを吸い込むと、意識不明になったり、死亡する可能性があります。閉め切った場所でエンジンを運転しないでください。換気の良い場所で作業してください。

アドバイス

○ スタータロックアウトシステムにより、サイドスタンドが下りているときは、ニュートラル以外でエンジンは始動できません。



A. クラッチレバー
B. スタータロックアウトスイッチ

アドバイス

○ エンジンスタート／ストップスイッチをスライドして5秒以内でエンジンが始動しないときは、一旦イグニションスイッチをオフにし、10秒くらい休んでから再度イグニションスイッチをオンにしてエンジンスタート／ストップスイッチをスライドしてください。これはバッテリ電圧を回復させるためです。

○ 不必要な空吹かしはしないでください。燃料の無駄使いになるばかりでなく、エンジンに悪影響を及ぼします。

○ アイドリング状態で長時間放置すると、充電不良を起こし、バッテリに悪影響を及ぼします。

ならし運転

最初の1 000 kmを走行するまでは下表のエンジン回転速度以下でならし運転をしてください。ならし運転を行うと、車の性能を維持し寿命を延ばします。

走行距離	エンジン回転速度
0 ~ 350 km	4 000 rpm
350 ~ 600 km	6 000 rpm
600 ~ 1 000 km	控えめな運転

アドバイス

○ 必要に応じて一時的に制限回転速度を超えることは問題ありません。

○ 不必要な空吹かし、急加速、急減速はつつしんでください。
○ 法定速度を守って走行してください。

走り方

● サイドスタンドが完全に戻っているかを確認します。

アドバイス

○ サイドスタンドが下りたままギヤを入れると、サイドスタンドスイッチとスタータロックアウトスイッチが働いて、自動的にエンジンが止まります。
○ サイドスタンドが滑らかに作動しないときは取り付け部に注油を行い、滑らかに作動するか確認してください。

⚠ 警告

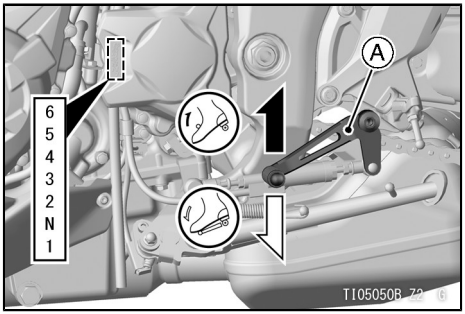
走行中はサイドスタンドを操作しないでください。走行中にサイドスタンドを操作するとエンジンが止まり、思わぬ事故の原因となることがあります。

● クラッチレバーを握り、シフトペダルを操作してギヤを１速に入れ、静かに発進します。

アドバイス

○ 車が静止状態のときは、ニュートラルから1速にしか入りません。

● 車のスピードに応じてギヤチェンジをします。ギヤチェンジは6段リターン式です。



A. シフトペダル

アドバイス

- ギヤチェンジは、スロットルグリップを一旦戻し、クラッチレバーを完全に握ってから行ってください。
- チェンジ操作は、ペダルにコツンと感じるまで確実に行ってください。
- チェンジ操作が堅く感じられるときは、カワサキ正規取扱店にご相談ください。
- 不必要な急加減速をつつしんで走ることが、燃料の節約と車の寿命を延ばします。

⚠ 警告

- **無理なチェンジ操作やシフトペダルに足を乗せたままでの走行は、チェンジ機構やクラッチを傷める原因となります。**
- **走行中に異常を感じたときは、ただちにカワサキ正規取扱店で点検をお受けください。**

シフトダウンの仕方

- 追い越しするとき等、強力な加速が必要な場合は、シフトダウン（低速ギヤにチェンジ）をすると加速力が得られます。あまり高い速度で行うとエンジンの回転が上がりすぎて、エンジン、ミッションに悪影響を及ぼします。各ギヤ共、5 000 rpm以下で行ってください。

⚠ 警告

急激なシフトダウンは、走行安定性を損ない転倒等の原因となりますので行わないでください。

ブレーキの使い方

- ブレーキは前後輪同時に使用してください。

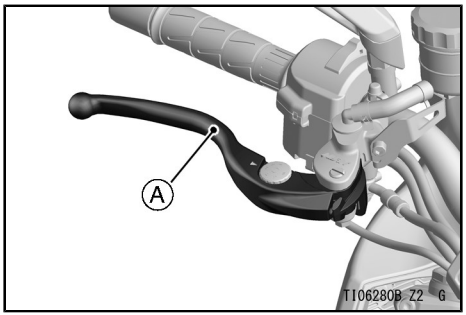
⚠ 警告

前輪または後輪ブレーキだけを使うと、走行安定性を損ない横すべりや転倒の原因となる場合があります。必ず前後ブレーキを同時にかけてください。

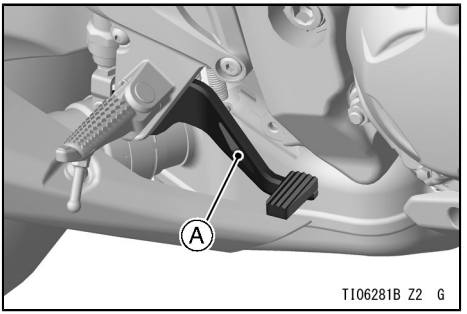
- 不必要な急ブレーキはかけないでください。

⚠ 警告

急ブレーキをかけると、走行安定性を損ない横すべりや転倒の原因となる場合があります。不必要な急ブレーキは行わないでください。



A. フロントブレーキレバー



A. リヤブレーキペダル

アドバイス

- 雨の日や路面が濡れているところ、雪道や凍った道路では路面が滑りやすく、晴天時よりも制動距離が長くなります。スピードを落として、余裕をもって運転してください。
- 長い坂道を下るとき等に連続してブレーキを使用すると、ブレーキ部の温度が上昇しブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。このようなときはエンジンブレーキと断続的なブレーキ操作を併用してください。
- 雨の日や水たまりを走行した後は、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。ブレーキの効きが悪いときは、周囲の交通状況に充分注意して低速で走行しながら、ブレーキの効きが回復するまでブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りを乾燥させてください。

エンジンブレーキ

走行中、スロットルグリップを戻したときにかかる制動力です。低速ギヤほどエンジンブレーキはよく効きます。

ABS

ABS（アンチロックブレーキシステム）は、直線走行中に急ブレーキをかけたとき、車輪がロックしないように設計されています。

ブレーキの操作は通常の車と同じです。前輪ブレーキはブレーキレバーで、後輪ブレーキはブレーキペダルでかけます。

ABSは車輪のロックを防いで車を安全に停止させますが、次のような特徴がありますので注意してください。

- ABSは悪い路面、誤った判断、または間違ったブレーキのかけ方を良い方向に補うことはできません。ABSがついていない車と同じような注意が必要です。
- ABSは停止距離を縮めるようには設計されていません。すべりやすい、凹凸が多い、あるいは下りの道路などでは、ABS搭載の車の方が搭載されていない車より停止距離が長くなる場合があります。このようなところを走行するときは特に注意してください。
- ABSは直線走行中にブレーキをかけたとき車輪がロックすることを防ぐのに役立ちます。しかし、コーナリング中にブレーキをかけたときに起こる車輪の横すべりをコントロールすることはできません。コーナリング中のブレーキはかけない方が安全です。もしかける必要がある場合は、前後輪共、軽くかけるだけにします。

アドバイス

○ コーナに入る前にシフトダウンをして、充分に減速してください。

- ABSに組み込まれているコンピュータは、車の走行速度と車輪の回転速度を比べています。指定サイズ以外のタイヤは車輪の回転速度を変え、コンピュータを誤作動させて停止距離を長くすることがあります。

⚠ 警告

指定外のタイヤを使用するとABSが誤作動を起こし、停止距離が長くなって事故につながる可能性があります。必ず指定されたタイヤを使用してください。

⚠ 警告

ABSシステムの機能には限界があり、あらゆる状況下で運転者を補助するものではありません。天候、路面状況、交通事情にふさわしいスピードと方法で運転し、安全を確保することは運転者の責任です。

アドバイス

○ ABSの作動中に、ブレーキレバーやペダルに振動を感じることがあります。これは異常ではありませんので、ブレーキをかけているのを中断する必要はありません。

○ バッテリが上がっている場合、ABSは作動しません。また、下記の車速ではABSは作動しません。

約10 km/h以下

KIBS

KIBS（カワサキインテリジェントアンチロックブレーキシステム）はスポーツライディングにおいて、よりスムーズなブレーキ制御を行うシステムです。

KIBSは減速中の車輪のロックを防ぐために、前後輪の車輪回転速度に加えてエンジンのデータも使用して自動的にブレーキの強さを制御します。

⚠ 警告

KIBSの機能には限界があり、あらゆる状況下で運転者を補助するものではありません。天候、路面状況、交通事情にふさわしいスピードと方法で運転し、安全を確保することは運転者の責任です。

エンジンの止め方

- スロットルグリップを全閉にします。
- トランスミッションをニュートラルにします。
- イグニションスイッチをオフにします。

エンジンの非常停止

何らかの原因でエンジンがスロットルコントロールを失うと、非常に危険な状態に陥ることがあります。このような非常時において、イグニションスイッチで停止できないときはエンジンストップスイッチを ⊠ の位置にしてください。ハンドルから手をはなさずにエンジンを停止することができます。

駐車の仕方

⚠ 警告

可燃物近くでの運転、駐車は、火災の原因となる可能性があります。背の高い植物、枯れ木、枯れ葉、等の可燃物がマフラ等の排気系部品に触れるような場所で、アイドリングしたり駐車したりしないでください。

⚠ 警告

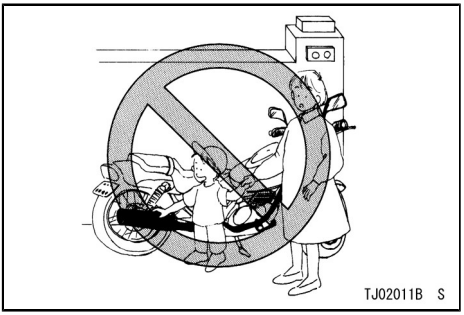
エンジンや排気系統は運転中や停止後しばらくの間は高温のため、やけどをおこす可能性があります。
- **エンジンや排気系統には触れないでください。**
- **駐車するときは交通の邪魔にならない、安全な場所で他の方がマフラ、エンジンに触れることのない場所に駐車してください。**

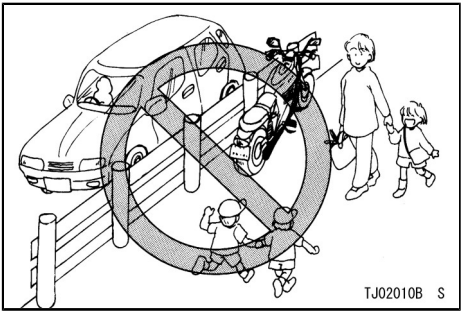
- 車を止め、トランスミッションをニュートラルにします。
- イグニションスイッチをオフにしてエンジンを停止させます。
- 車を止め、メインスイッチをオフにします。
- メインスイッチをオフにして、駆動システムを停止させます。
- サイドスタンドを使って、水平でしっかりとした場所に駐車します。

⚠ 警告

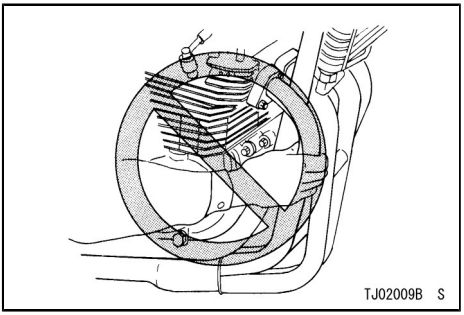
坂道、砂利道や凸凹な所に駐車すると、スタンドが不安定になり転倒する可能性があります。車が安定するところに駐車してください。

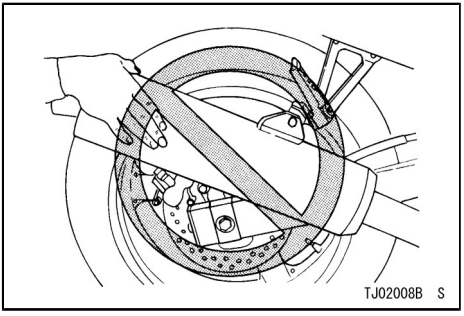
- 交通の邪魔にならない安全な場所に駐車してください。





- エンジン回転中や停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンに触れないでください。
- マフラ、エンジンが熱くなっています。他の方が触れることのない場所に駐車してください。やむをえず子供が遊ぶ施設や人通りの多いところに駐車するときは他の方がマフラ、エンジンに触れないように配慮してください。


TJ02009B S


TJ02008B S

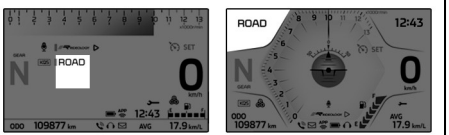
- ガレージまたはその他の建物の内部に駐車するときは、風通しが良く、火気のない所にします。

⚠ 警告

ガソリンは引火性が高く火災の原因になることがあります。ガソリンを取り扱うとき、あるいは燃料を給油するときは必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。

- ステアリングをロックします。盗難防止のため、**車から離れるときは必ずステアリングをロックし、キーを抜いてお持ちください。**

インテグレイテッドライディングモード



TG02105F N9 G

この車両は、ボタンひとつでその性能特性を変更できます。各ライディングモードはエンジンを統合制御します。

ROAD:

パワーモード	F
KTRC	2

SPORT:

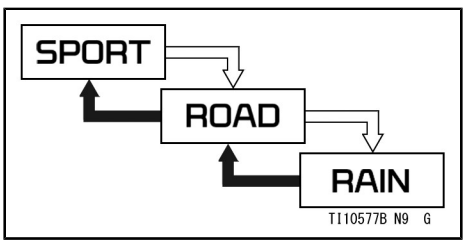
パワーモード	F
KTRC	1

RAIN:

パワーモード	L
KTRC	3

ライディングモードの切り替え方法

- 上下のMODEボタンを長押ししてモードを切り替えます。



TI10577B N9 G

➡ :上MODEボタンを押し続けたときの切り替わり方

⇨ :下MODEボタンを押し続けたときの切り替わり方

- 下記の状態では切り替えができません。
  - スロットルを開けているとき
  - クルーズコントロールを使用しているとき

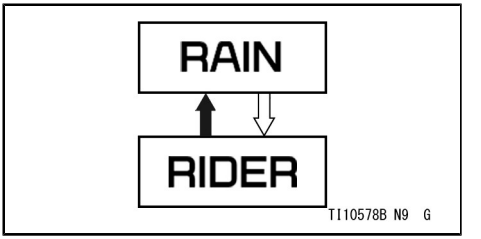
ライダモード(RIDER)

3種類のライディングモードに加えて、好みに合わせて設定を変えられる「ライダモード」が利用できます。

パワーモードとKTRCの2つのパラメータを調整できます。

ライダモード(RIDER)への切り替え方法

- "RAIN"モードのときに下MODEボタンを押し続けて切り替えます。



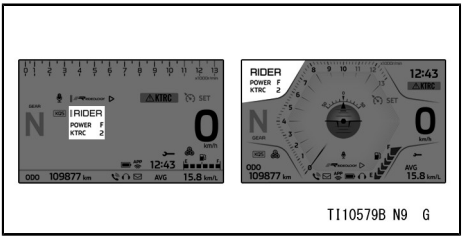
➡ :上MODEボタンを押し続けたときの切り替わり方

⇨ :下MODEボタンを押し続けたときの切り替わり方

- 下記の状態では切り替えができません。
  - スロットルを開いているとき
  - クルーズコントロールを使用しているとき

アドバイス

○ ライダモードに切り替えると、KTRCとパワーモードの各パラメータの設定状態が図のように表示されます。

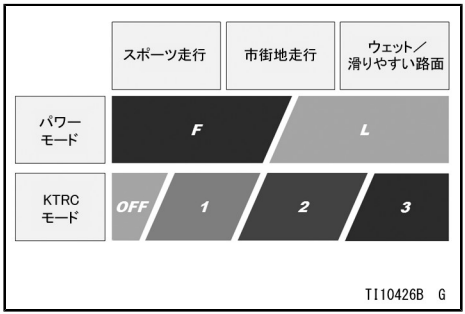


ライダモードのパラメータ

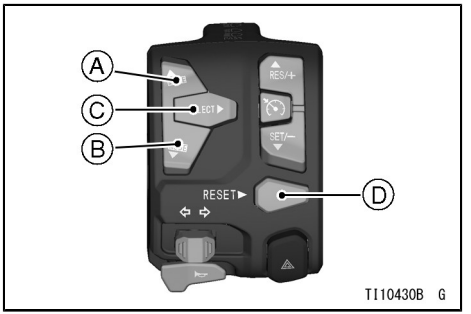
パワーモードとKTRCのパラメータを組み合わせることにより、好みに合わせた設定を作成できます。

各モードの組み合わせは運転者の技量や路面状況により異なります。組み合わせは、次の表を参考に、運転者自身の判断で行ってください。

組み合わせの例

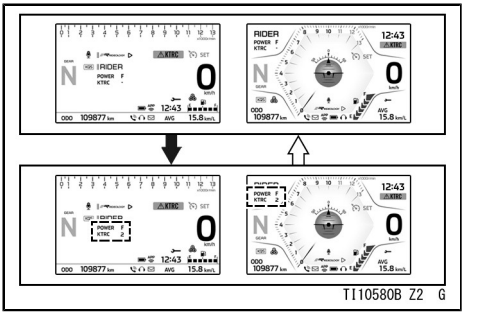


パラメータの変更方法



A. 選択項目の移動
B. 選択項目の移動
C. 次の画面に進む(決定)
D. 前の画面に戻る(キャンセル)

- SELECTボタンを押すと詳細設定画面に切り替わります。
- 下記の状態では切り替えができません。
  - スロットルを開けているとき
  - 車速が5 km/hを超えているとき

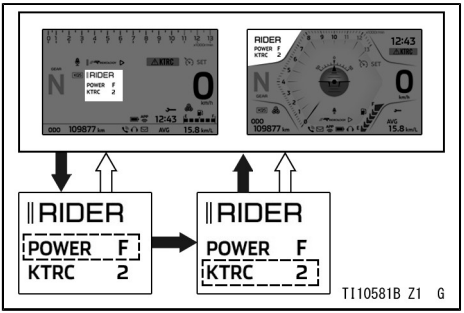


➡:SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨:RESETボタンを押したときの切り替わり方

- 上下のMODEボタンを使って"POWER"を選択してください。
- SELECTボタンを押し、上下のMODEボタンでパラメータを選択してください。

パラメータ	出力特性
F	フルパワー
L	ローパワー

- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。



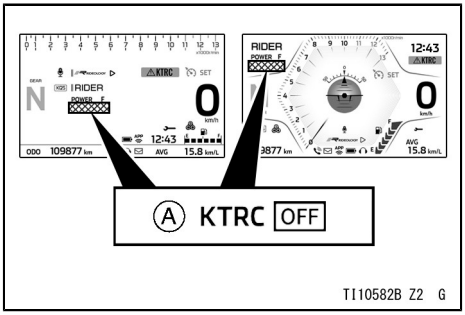
➡:SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨:RESETボタンを押したときの切り替わり方

- 同じ要領でKTRCのパラメータを変更します。

パラメータ	システム介入頻度
1	少
2	中
3	多
OFF	なし

アドバイス

- KTRCをオフにすると後輪の空転が制御されなくなりますので、スロットル操作に注意してください。
- KTRCをオフにするとディスプレイスクリーンにKTRC OFFインジケータが表示されます。



A. KTRC OFFインジケータ

KTRC

KTRC（Kawasaki TRaction Control）は、加速時の後輪スリップ（ホイールスピン）を検出し、ライディング状況に応じた最適なスリップ率を制御するインテリジェントシステムです。スポーツ走行だけでなく、ツーリング先の荒れた路面や滑り易い路面でも安定した走行をサポートします。

KTRCは、公道で使用することを目的にしていますが、あらゆる状況に対応できるものではありません。路面状態によってはホイールスピンが生じ、車両の加速に遅れが生じることがあります。

⚠ 警告

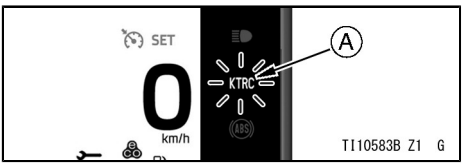
KTRCシステムの機能には限界があり、あらゆる状況下で運転者を補助するものではありません。天候、路面状況、交通事情にふさわしいスピードと方法で運転し、安全を確保することは運転者の責任です。

極端な加速により前輪が浮き上がると、KTRCはエンジン出力を抑制し、前輪を接地させようとします。このような場合には、スロットルグリップを少し戻してできるかぎり早く前輪を接地させてください。

⚠ 警告

指定外のタイヤを使用するとKTRCが誤作動を起こし、正しく機能しなくなって事故につながる可能性があります。必ず指定されたタイヤを使用してください。

KTRCインジケータ



A. KTRCインジケータ

システム介入中にKTRCインジケータが点滅します。

KTRCモード

KTRCは、道路状況に応じて3種類の作動モードが選択できます。また、KTRCをOFFにすることもできます。

モード1:
スリップ抑制を最も控えめにしたモードです。スポーツライディングに適した加速力が得られます。

モード2:
システムの介入頻度は中程度で、モード1と3の中間レベルになります。

モード3:
システムが早期に介入し、可能なかぎり後輪の空転が抑制されます。路面のグリップ力が弱い場合に使用してください。

OFF:
KTRCが介入しないモードです。後輪の空転が抑制できませんので、スロットルは慎重に操作してください。

パワーモード

パワーモードは、2種類のエンジン出力特性が選択できます。

モードF(フルパワー):
最高出力を発揮するモードです。エンジンが持つ本来のスロットルレスポンスを発揮します。

モードL(ローパワー):
モードFに比べてスロットルレスポンスが穏やかになります。

クルーズコントロールシステム

クルーズコントロールは、スロットルを操作することなく、車速を一定に維持することができるシステムです。

アドバイス

○ エンジン回転速度が低い場合やギヤがニュートラル、1速、2速の場合、クルーズコントロールはセットされません。
○ 3速ギヤの場合、クルーズコントロールは車速約33 km/h以上で使用できます。
○ 6速ギヤの場合、クルーズコントロールは車速約200 km/hまで使用できます。

アドバイス

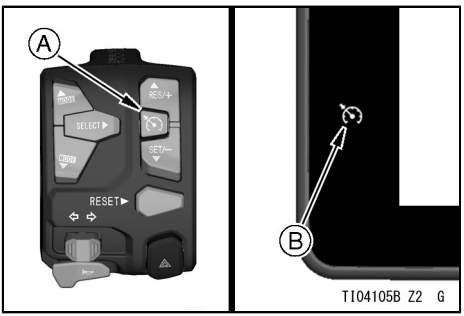
○ 公道では法定速度以下でご使用ください。
○ エンジン保護のため、設定可能車速はギヤ位置によって異なります。

⚠ 警告

クルーズコントロールは、一定速度で安全に運転できない場合には危険を伴います。交通量の多い道路、起伏やカーブの多い道路では、死亡または重大な傷害に至る事故を引き起こす危険性があるため、クルーズコントロールを使用しないでください。

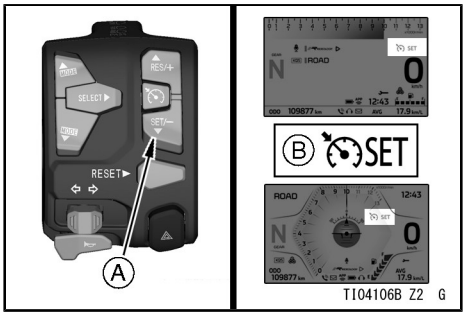
クルーズコントロールの使用方法

- 左ハンドルのクルーズコントロールボタン を押してください。システムが起動してクルーズコントロールインジケータが点灯します。



A. クルーズコントロールボタン
B. クルーズコントロールインジケータ

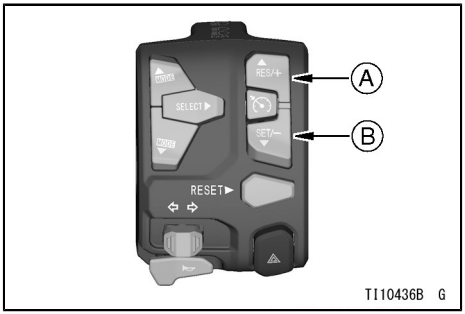
- 希望する車速で「SET/-」ボタンを押してください。クルーズコントロールが現在車速でセットされ、ディスプレイスクリーンにセットマークが表示されます。



A.「SET/-」ボタン
B. セットマーク

設定車速の変更方法

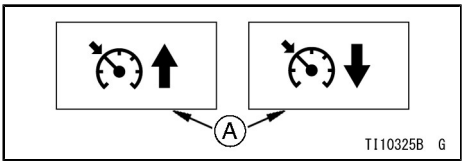
- 設定車速を上げるには、希望の速度になるまで「RES/+」ボタンを押し続けます。
- 設定車速を下げるには、希望の速度になるまで「SET/-」ボタンを押し続けます。



A.「RES/+」ボタン
B.「SET/−」ボタン

アドバイス

○ 「RES/+」ボタンを素早く放したときは、設定車速が1.5 km/hずつ増加します。
○ 誤操作による設定速度の上昇を防ぐため、「RES/+」ボタンの連打入力は受け付けない場合があります。
○ 「SET/−」ボタンを素早く放したときは、設定車速が1.5 km/hずつ減少します。
○ 「RES/+」または「SET/−」ボタンを押している間は、ディスプレイスクリーンに矢印が表示されます。



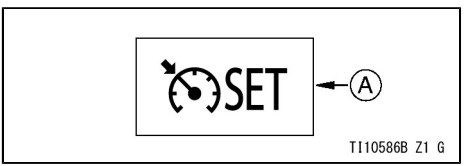
A. 矢印

○ 一時的に加速する場合は、通常のスロットル操作で速度を上げてください。このときブレーキを使わずにスロットルを戻せば、元の設定車速に戻ります。

設定車速の解除方法

- 設定車速は以下の条件で一時的に解除されます。
  – ブレーキレバーを引いたとき
  – ブレーキペダルを踏んだとき
  – クラッチレバーを引いたとき
  – ギヤチェンジを行ったとき

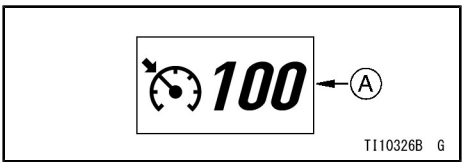
– スロットルをアイドリング位置より奥に戻したとき
- クルーズコントロールは以下の条件で解除され、設定車速が消去されます。
  – エンジン回転速度が約2 000 rpmを下回ったとき
  – 現在車速が設定車速より15 km/h低下したとき
  – クルーズコントロールボタン を押したとき
- セットマークが消えます。



A. セットマーク

設定車速への復帰方法

- 「RES/+」ボタンを押します。
- 設定車速に復帰するまで、設定車速がメインディスプレイに表示されます。



A. 設定車速

アドバイス

○ 設定車速への復帰中に「RES/+」または「SET/−」ボタンを押すと、設定車速は現在車速で再設定されます。

- 現在車速が設定車速に復帰すると、セットマークが再表示されます。

クルーズコントロールの終了方法

- クルーズコントロールボタン を押します。

- システムが終了してクルーズコントロールインジケータが消灯します。設定車速も消去されます。

KQS

KQS（Kawasaki Quick Shifter）はクラッチ操作をせずにシフトアップ／ダウンが可能となる機能です。

KQSは自動的にギヤチェンジする機能ではありませんので、KQSが搭載されていない車両と同様のシフトペダル操作が必要です。

アドバイス

- **クラッチレバーを引いたときには、KQSは作動しません。**
- **エンジン回転数が約1 500 rpm以下のときには、KQSは正しく作動しません。**
- **KQSを繰り返し作動させるには、ギヤチェンジ後にシフトペダルを完全に戻す必要があります。**

シフトアップ

車両加速時、クラッチ操作をせずに、かつ、スロットルグリップを戻すことなく、シフトアップ操作が可能となります。

アドバイス

- **スロットルグリップが閉じているときには、KQSのシフトアップ機能は働きません。**

シフトダウン

車両減速時、クラッチ操作をせずにシフトダウンが可能となります。

アドバイス

- **KQSのシフトダウン機能は、スロットルグリップが閉じているときのみ働きます。**
- **エンジン回転数が高い（レッドゾーン付近）ときには、KQSのシフトダウン機能は働きません。**

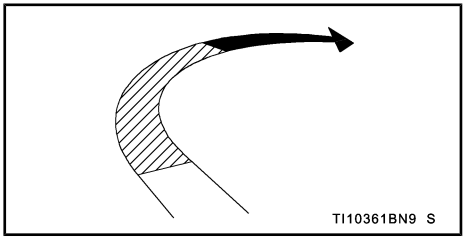
KQSの設定方法

- メニューモードでKQSのオン、オフを選択できます。「メータの見方、使い方」の章の［KQS］の項を参照してください(70ページを参照)。

KCMF

KCMF (Kawasaki Cornering Management Function) は、走行中にIMU (慣性計測装置) から得られる精細な車体姿勢の情報を基にして、コーナの入り口から出口に至る全域でエンジン・車体制御のパラメータを監視することでブレーキ力とエンジン出力を調整します。それにより減速から加速に至るまでスムーズに移行でき、意図したとおりにコーナリングを行えるように運転者をアシストします。

- KCMFは、以下の機能を統合制御しています。
  - KTRC
  - KIBS



⇨:カーブの手前(KTRC)
⇨:カーブ(KIBS)
➡:カーブの出口(KTRC)

慣性計測装置(IMU)

IMUは車体姿勢の分析に使用されています。

車両に搭載された電子システムは、IMUの情報を利用することで、よりスムーズな制御を行えるようになります。

点検整備について

法令で定められた点検整備

お車を安全かつ快適にご使用いただくため、法令により日常点検と定期点検整備を行うことが義務付けられています。必ず実施してください。

1. 日常点検

走行距離や運行時の状態などから判断した適切な時期に実施する点検です。

2. 定期点検整備

車を使用する人自身の責任において定期的に行う点検整備です。
二輪車については1年点検と2年点検があります。
なお、詳細についてはメンテナンスノートをご覧ください。

カワサキが指定する点検整備（メーカ指定点検整備）

- **1か月目（または1 000 km）点検整備**

登録日から1か月目または1 000 km走行時点に行う点検です。
お買いあげいただいたカワサキ正規取扱店にてお受けください。

- **メーカ指定点検整備**

法令で定められた定期点検整備項目のほかに、カワサキが指定する定期点検整備項目があります。所定の時期になりましたら、法令で定められた定期点検整備と同時に実施してください。

なお、点検整備の詳細についてはメンテナンスノートの「お車を安全、快適にご使用いただくために」をご覧ください。

アドバイス

○ 総排気量が251 cm³以上の車の場合、初回3年目、以降2年毎の継続検査（車検）を受けなければ、引き続き使用することができません。車検有効期間の満了前に必ずお受けください。

簡単な整備

ここでは、点検の結果、清掃、調整、交換等の整備が必要となった場合、通常行われることの多い代表例について、その整備の実施方法を述べています。

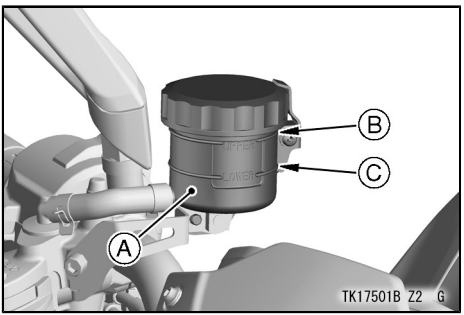
⚠ 警告

整備は安全のためご自身の知識、技量の範囲内で行ってください。難しいと思われる内容、あるいは整備後に何か不審を感じられた場合はカワサキ正規取扱店にご相談ください。整備を行うときは、安全に充分注意してください。

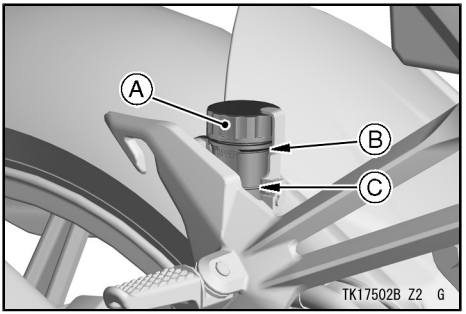
- **場所は、平坦で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
- **エンジンを停止し、キーを抜いた状態で行ってください。**
- **排気ガスには有害な一酸化炭素等の成分が含まれています。エンジンをかけた状態で点検整備を行うときは、通気性の良い場所で行ってください。**
- **エンジンの運転時や停止後しばらくの間は、マフラ、エンジン、ラジエータ等が熱くなっています。触れてやけどをしないようにしてください。**
- **適切な工具を使用してください。もし、不適切な工具を使用して整備作業を行うとけがをする可能性があります。**

ブレーキ液量の点検

- 平坦な場所で車を垂直にし、ブレーキリザーバを水平にします。
- 前後のブレーキリザーバ内の液量が上限ラインと下限ラインの間にあるかを点検します。



A. フロントブレーキリザーバ
B. 上限ライン（UPPER）
C. 下限ライン（LOWER）



A. リヤブレーキリザーバ
B. 上限ライン（UPPER）
C. 下限ライン（LOWER）

アドバイス

○ もし液面が下限ライン以下の場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

⚠ 警告

- **液面はブレーキパッドの摩耗と共に下がってきますが、ブレーキ液が早く減少する場合、ブレーキ系統からの液漏れが考えられます。重大な事故につながる可能性がありますので、カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。**
- **ブレーキ液は安全のため、2年毎の交換をおすすめします。**

⚠ 警告

- **リザーバキャップを取り外す前に清掃する。密閉された容器に入ったDOT4ブレーキ液を使用すること。**

注意

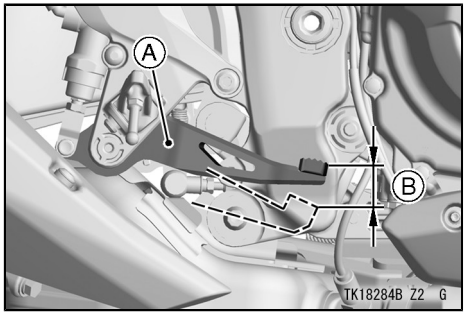
- **ブレーキ液を混用すると変質するので、銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。**
- **ブレーキ液は塗装をいためますので、部品類に付着させないでください。もし付着したら、すぐに洗い流してください。**

ブレーキライトスイッチの調整

適正な量だけブレーキペダルを踏み込んだときに、ブレーキライトが点灯します。

[踏み込み量]

標準値：10 mm

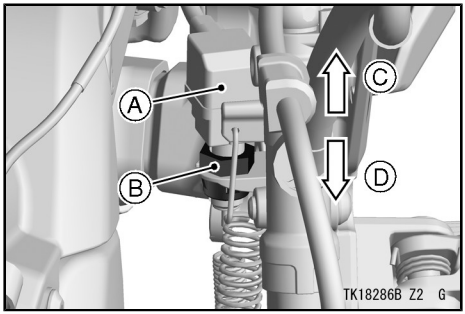


A. ブレーキペダル
B. 踏み込み量

- スイッチを指で押さえ、調整ナットを回して調整します。

アドバイス

○ スイッチの取り付け位置が高くなれば早く点灯し、低くなれば遅く点灯します。



A. リヤブレーキライトスイッチ
B. 調整ナット
C. 点灯が早くなる
D. 点灯が遅くなる

注意

リヤブレーキライトスイッチを調整する際、配線を損傷させないためにスイッチ本体を回さないようにしてください。

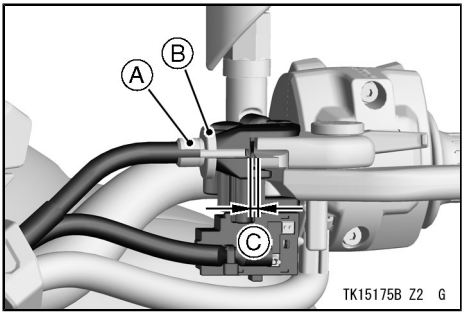
- フロントブレーキをかけたときもブレーキライトが点灯するか確認します。もし異常があれば、カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。

クラッチレバーの遊びの調整

クラッチレバーを手で抵抗を感じるまで引いたとき、クラッチレバーとレバーホルダとの間に遊びがあるのが適正です。もし、クラッチレバーの遊びが適正でない場合は、クラッチケーブルを調整します。

[クラッチレバーの遊び]

標準値：2 ~ 3 mm



A. アジャスタ
B. ロックナット
C. 遊び

- 調整は、クラッチレバー側のロックナットをゆるめ、アジャスタを回して行います。
- 調整ができない場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

⚠ 警告

- **クラッチケーブルの遊びが大きすぎるとクラッチが切れなくなり、負傷や死亡事故につながる可能性があります。**
- **クラッチケーブルを調整するときは、停車中に行い、アウターケーブルの上端がアジャスタ穴に正しく取り付けられている事を確認してください。**

アドバイス

○ 調整後にエンジンをかけ、チェンジ操作がスムーズであるか、エンストまたは飛び出しがないかを確認します。
○ 1か月に1度はクラッチケーブルの取り付け部に注油を行ってください。

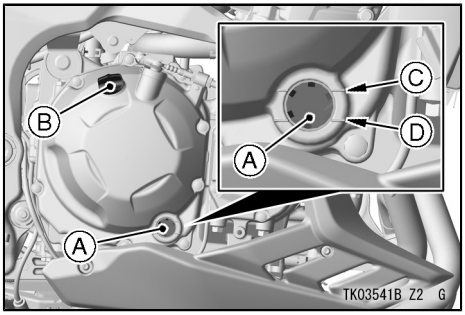
エンジンオイルの補給

- 平坦な場所で、エンジンを2～3分間アイドリング運転で暖機し、エンジンを停止します。

アドバイス

○ 走行直後でエンジンが充分に暖機していればアイドリング運転は不要です。

- 車体を垂直にし、エンジンを停止して2～3分後に、オイル量がオイルレベル点検窓の上限ラインと下限ラインの間にあることを確認します。
- もしオイルが多いときは、スポイトや適切な器具を使用してオイルを排出します。
- オイル量が下限ラインに近ければ、オイル注油口キャップを取り外し、オイルレベル点検窓で確認しながら、上限ラインと下限ラインの間に入るまでエンジンオイルを補給します。
- オイル注油口キャップを確実に取り付けます。



A. オイルレベル点検窓
B. オイル注油口キャップ
C. 上限ライン
D. 下限ライン

＜推奨オイル＞

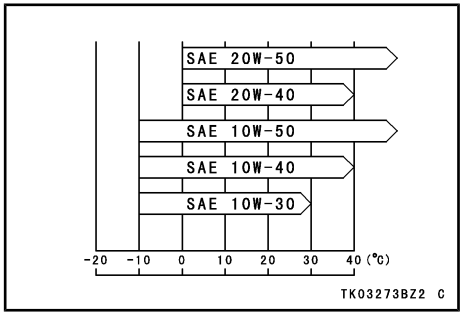
カワサキ純正4サイクルオイル
R4 SJ 10W-40 JASO MA
S4 SG 10W-40 JASO MA

または
API SG、SH、SJ、SLまたはSM（JASO MA、MA1またはMA2適合品）
SAE 10W-40

アドバイス

○ クラッチの滑りやエンジンの性能、耐久性に悪影響を与えることがあるので、エンジンオイルに摩擦を低減させる添加物は加えないでください。

エンジンオイルの粘度は、次の図を参考にして使用する地域の外気温によって使いわけてください。なお、前述の推奨オイルと同じAPI分類とSAE規格のエンジンオイルでも、それぞれオイルの特性等が微妙に異なっているため、この車には適合しない場合があります。



交換時期は“走行キロ毎交換”と“年（月）毎交換”のどちらか早い方で実施してください。

＜エンジンオイル交換時期＞

初回： 1 000 km時 または 1か月時

2回目： 6 000 km時 または 1年時

以後： 6 000 km毎 または 1年毎

[エンジンオイル量]

オイルフィルタを取り外していないとき
3.2 L

オイルフィルタを取り外したとき
3.8 L

＜オイルフィルタ交換時期＞

初回： 1 000 km時または1か月時

2回目： 18 000 km時

以後： 18 000 km毎

アドバイス

- **補給するときには、オイル注油口からゴミなどが入らないようにしてください。**
- **オイル量は、規定範囲の上限レベルを超えないようにしてください。**

⚠ 警告

エンジンや排気系統は運転中や停止後しばらくの間は高温のため、やけどをおこす可能性があります。
- **エンジンや排気系統には触れないでください。**
- **オイルをこぼしたときは、完全に拭きとってください。**

注意

銘柄や等級の違うオイルを混用したり、低品質のオイルを使用すると変質してエンジンの故障の原因になることがあります。同一銘柄、等級の良品質オイルを使用してください。銘柄、等級が不明の場合はオイル全てを交換してください。

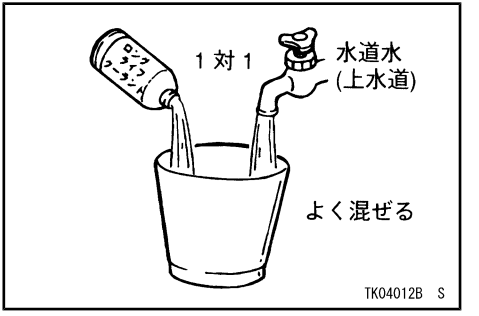
アドバイス

○ 油脂類の廃液は法令で適切な処理を行うことが義務づけられていますので、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

冷却液

冷却液の作り方

カワサキ純正ロングライフクーラントと水道水（上水道）を1：1に混ぜ合わせます。



⚠ 警告

冷却液には毒性があります。取り扱いには充分注意してください。
- **皮膚や衣類についた場合**
  すみやかに水で洗ってから、石けん水で洗ってください。
- **目に入った場合**
  水で充分洗い流してから、医師の診察を受けてください。
- **飲んだ場合**
  直ちにおう吐させ、医師の診察を受けてください。

注意

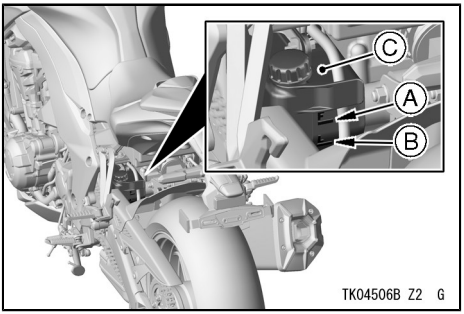
冷却液に混合または補充する水は水道水（上水道）を使用してください。井戸水や塩分を含む天然水はエンジンの損傷につながるので使用しないでください。

冷却液の点検

アドバイス

○ リザーブタンクはエンジン後方にあります。

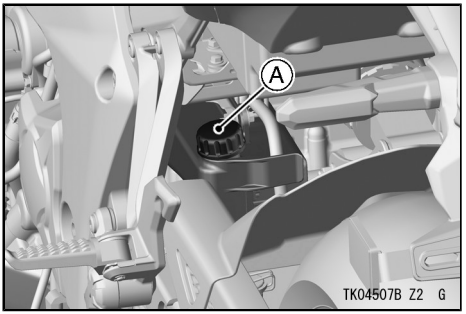
- 車体を地面と垂直に保持します。
- エンジンが冷えているときに、リザーブタンク内の冷却液の量を点検します。液面が下限ラインより下がっている場合は、冷却液を補給します。



A. 上限ライン（F）
B. 下限ライン（L）
C. リザーブタンク

冷却液の補給

- リザーブタンクのキャップをはずし、上限ライン（F）と下限ライン（L）の間に入るまで冷却液を補給します。



A. キャップ

アドバイス

○ 冷却液は上限ライン（F）を超えて補給しないでください。

注意

冷却液の減り具合が著しいときは、ラジエータ本体、エンジン内部、ホースなどからの液漏れが考えられますので、カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。冷却液の交換は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

- リザーブタンクキャップを取り付けます。

エアクリーナ

エアクリーナエレメントが詰まると吸入空気量が不足し、燃料消費量増加、出力低下、プラグかぶり等の原因になります。

アドバイス

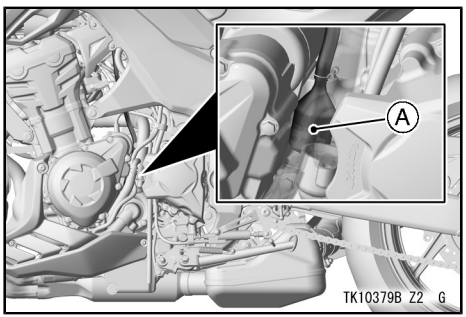
○ 著しくほこり等の多い場所を走行した場合は、定期点検期間よりお早めに点検を行ってください。

エレメントの交換

エレメントの交換は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

オイルの排出

- エンジンの左側にあるキャッチタンクに、エアクリーナハウジングから出た水やオイルがたまっていないか点検します。



A. キャッチタンク

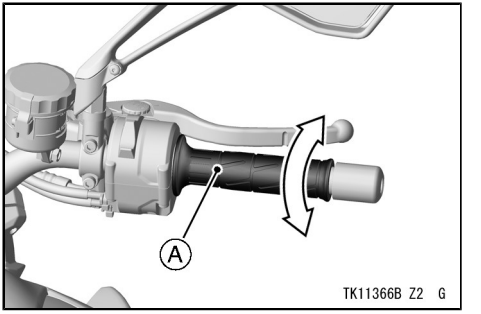
- キャッチタンクに水やオイルがたまっている場合は、キャッチタンクをはずして排出します。
- 排出後、取り外した部品は必ず元通りに取り付けてください。

⚠ 警告

キャッチタンクからオイルが漏れるとタイヤに付着し、タイヤが滑りやすくなり負傷や死亡事故につながる危険性があります。タンクは必ずしっかりと取り付けてください。

スロットルの点検

スロットルグリップが全閉から全開までスムーズに動くか点検します。もし異常を感じた場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。



A. スロットルグリップ

アイドリング回転速度の調整

アイドリング回転速度は電子制御されており、調整の必要はありません。

アイドリング回転速度が不安定な場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

[アイドリング回転速度]

標準値：1 000 ~ 1 200 rpm

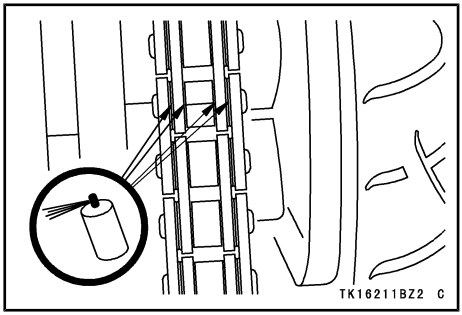
アドバイス

○ 効率的に暖機運転を行うため、エンジン冷間時はアイドリング回転速度が自動的に高くなります。

ドライブチェーン

給油

- 後輪を浮かした状態で、後輪を手でゆっくり回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥、汚れを柔らかいブラシ等で落とし、カワサキ純正チェーンクリーナを使用して洗浄します。
- 乾燥後、後輪を手でゆっくり回しながら給油を行います。オイルがチェーン各部によく行きわたるようにチェーンローラの両側に給油してください。



注意

- **オイルは、カワサキ純正チェーンオイルを使用してください。**
- **この車のチェーンは、ゴムシールを使用しています。ゴムシールの損傷を防ぐためスチーム洗浄は行わないでください。**
- **シンナ、ガソリン等の揮発性溶剤、ワイヤブラシを使用しての洗浄はしないでください。ゴムシールが損傷します。**

アドバイス

○ 雨天走行後、あるいは洗車後も給油してください。

● 給油後、余分なオイルは拭きとります。

たるみ点検

● サイドスタンドを立てます。

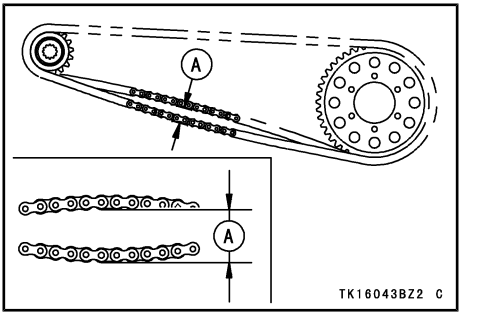
アドバイス

○ チェーンが汚れていたり、乾いている場合は、洗浄および給油を行ってください。

● 後輪を回し、たるみの最も少ない位置で、前後のスプロケットの中間部で垂直の動き（チェーンのたるみ）を測定します。

[ドライブチェーンのたるみ]

標準値：25 ~ 35 mm

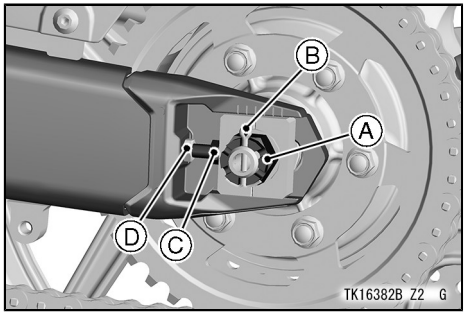


A. チェーンのたるみ

● 標準値から外れている場合は、調整してください。

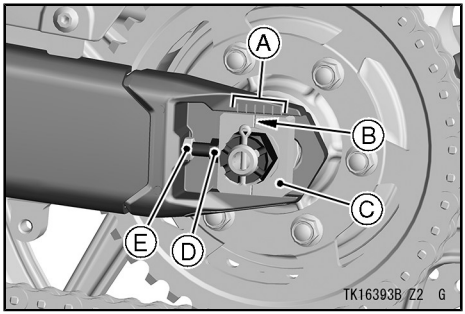
たるみ調整

● リヤアクスルナットからキャップを取り外します。
● 左右のチェーンアジャスタロックナットをゆるめます。
● リヤアクスルナットから割りピンを取り外し、リヤアクスルナットをゆるめます。



A. リヤアクスルナット
B. 割りピン
C. チェーンアジャスタ
D. チェーンアジャスタロックナット

- チェーンアジャスタを回して、たるみを標準値にします。
- ホイールアライメントインジケータとスイングアームの目盛りを左右同じ位置に合わせます。



A. 目盛り
B. 切り込み
C. ホイールアライメントインジケータ
D. チェーンアジャスタ
E. チェーンアジャスタロックナット

⚠ 警告

左右のアライメントインジケータの位置がずれていると、チェーンやスプロケットが異常に摩耗したり、走行安定性を損ない事故につながる可能性があります。アライメントインジケータの調整位置は左右等しくしてください。

- 左右のチェーンアジャスタロックナットを締め付けます。
- リヤアクスルナットを規定のトルクで締め付けます。

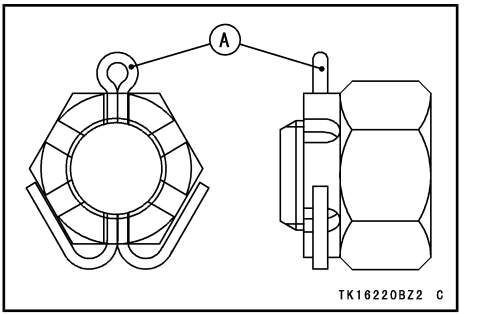
締め付けトルク

リヤアクスルナット：110 N·m（11.2 kgf·m）

アドバイス

○ トルクレンチがない場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

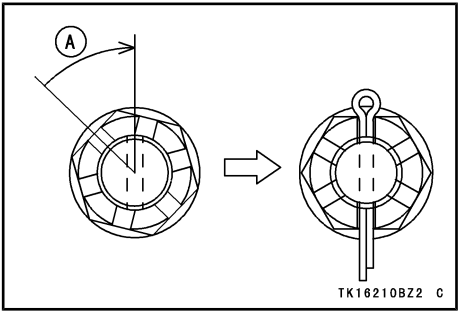
- 後輪を回し、たるみの最も少ない位置で再度たるみを点検します。必要があれば再調整します。
- リヤアクスルシャフトとアクスルナットに新しい割りピンを通し、割りピンの両端を折り曲げます。



A. 割りピン

アドバイス

○ 割りピンを差し込むときに、アクスルシャフトの穴とアクスルの穴が一致しない場合は、アクスルナットを時計方向(締め付け方向)に回します。
○ 締め付け角度は30度以内にしてください。
○ 最も近い穴が過ぎたときは、ナットを一度ゆるめてから再度締め付けてください。



A. 時計方向に回す

⚠ 警告

アクスルナットの取り付け不良は走行安定性を損なう可能性があり、負傷や死亡事故につながる可能性があります。規定トルクでアクスルナットを締め付け、割りピンを確実に取り付けてください。

● リヤブレーキの効き具合を点検します。

サスペンションセッティング

各自の好みや運転の状態、路面、積荷の状態に応じて調整ができます。

フロントフォーク

● フロントフォークは以下のセッティングを調整できます。
  – スプリングの初期荷重
  – 伸側減衰力
  – 圧側減衰力

⚠ 警告

セッティングの調整位置が左右で異なる場合、操縦安定性を損ない事故につながる可能性があります。セッティングの調整位置は左右等しくしてください。

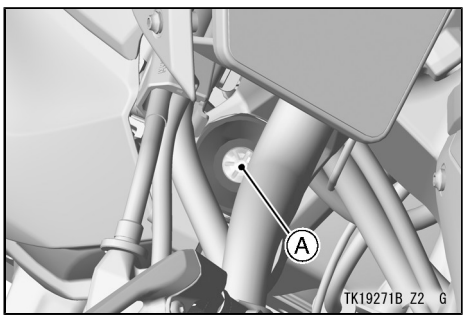
注意

通常走行時や雨天時、未舗装路を走行した際、インナチューブに付着した汚れ（砂埃、泥、虫等）は固まる前に清掃してください。付着したまま使用を続けるとオイルシールが損傷しオイル漏れの原因となります。

スプリング初期荷重の調整

スプリング初期荷重アジャスタは左側のフロントフォーク上部にあります。

- アジャスタを回すことにより、スプリングの初期荷重を変えることができます。アレンレンチまたは適切な工具で調整してください。
  - **硬く**する場合は**時計回り**に回します。
  - **柔らかく**する場合は**反時計回り**に回します。
- 標準値と調整範囲は「セッティング表」を参照してください。(166ページを参照)



A. スプリング初期荷重アジャスタ

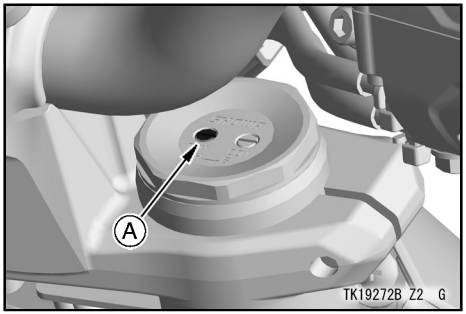
注意

アジャスタを調整するときは、調整範囲を超えて無理に回してはいけません。アジャスタが損傷する可能性があります。

伸側減衰力の調整

伸側減衰力アジャスタは右のフロントフォーク上部にあります。

- アジャスタを回すことにより、フォークが伸びるときのオイル抵抗（減衰力）の調整ができます。マイナスドライバで調整してください。
  - **硬く**する場合は**時計回り**に回します。
  - **柔らかく**する場合は**反時計回り**に回します。
- 標準値と調整範囲は「セッティング表」を参照してください。(167ページを参照)



A. 伸側減衰力アジャスタ

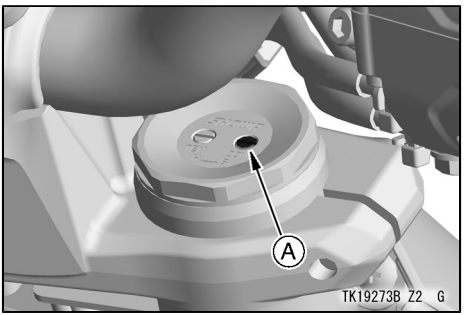
注意

アジャスタを調整するときは、調整範囲を超えて無理に回してはいけません。アジャスタが損傷する可能性があります。

圧側減衰力の調整

圧側減衰力アジャスタは右のフロントフォーク上部にあります。

- アジャスタを回すことにより、フォークが縮むときのオイル抵抗（減衰力）の調整ができます。マイナスドライバで調整してください。
  - **硬く**する場合は**時計回り**に回します。
  - **柔らかく**する場合は**反時計回り**に回します。
- 標準値と調整範囲は「セッティング表」を参照してください。(167ページを参照)



A. 圧側減衰力アジャスタ

注意

アジャスタを調整するときは、調整範囲を超えて無理に回してはいけません。アジャスタが損傷する可能性があります。

リヤショックアブソーバ(ZR1100G)

- リヤショックアブソーバは以下のセッティングを調整できます。
  - スプリングの初期荷重
  - 伸側減衰力

スプリングの初期荷重の調整

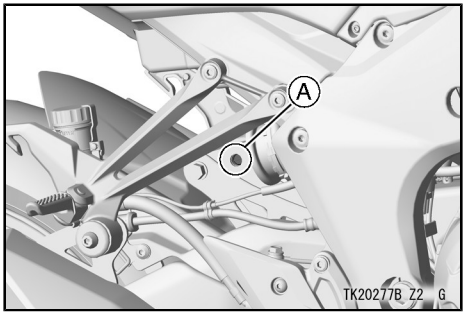
スプリングの初期荷重の調整は、リヤショックアブソーバのアジャスティングナットを回すことにより調整できます。

もし、スプリングの状態を柔らかく感じたり、硬く感じたときは、カワサキ正規取扱店で調整を行ってください。

伸側減衰力の調整

伸側減衰力アジャスタはリヤショックアブソーバ下部にあります。

- アジャスタを回すことにより、リヤショックアブソーバが伸びるときのオイル抵抗（減衰力）の調整ができます。マイナスドライバで調整してください。
  - **硬く**する場合は**時計回り**に回します。
  - **柔らかく**する場合は**反時計回り**に回します。
- 標準値と調整範囲は「セッティング表」を参照してください。(169ページを参照)



A. 伸側減衰力アジャスタ

注意

アジャスタを調整するときは、調整範囲を超えて無理に回してはいけません。アジャスタが損傷する可能性があります。

リヤショックアブソーバの取り扱い方

⚠ 警告

リヤショックアブソーバには、高圧窒素ガスが封入されています。取り扱いを誤ると爆発する可能性があります。

- **リヤショックアブソーバを火中に投棄しないでください。火中に投棄すると爆発が起こり、危険です。**
- **リヤショックアブソーバは穴をあけたり、分解をしないでください。穴をあけたり分解を行うとオイルが吹き出し、危険です。**

アドバイス

○ リヤショックアブソーバを廃棄するときは、カワサキ正規取扱店にお申しつけください。

リヤショックアブソーバ（ZR1100H）

- リヤショックアブソーバは以下のセッティングを調整できます。
  – スプリングの初期荷重
  – 伸側減衰力

⚠ 警告

- **オーリンズショックアブソーバのスプリング初期荷重および減衰力のアジャスタを調整範囲外にセットすると、サスペンションバランスに影響を与えて負傷や死亡事故につながる危険性があります。スプリングの初期荷重および減衰力は、調整範囲内にセットしてください。**
- **スプリング初期荷重および減衰力の調整は、1クリックごとに効き具合を確認しながら行ってください。また、必要に応じて標準値に戻してください。**

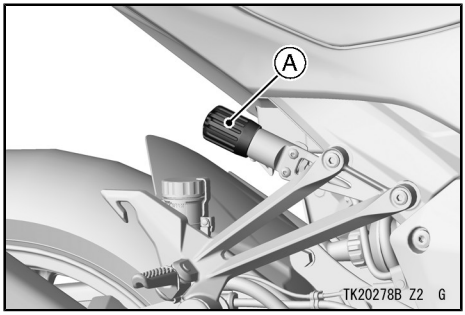
このリヤショックアブソーバは独自の設定が施されているので、取付説明書はありません。

リヤショックアブソーバの有償の分解および修理は可能ですが、独自の設定が施されているので、初期設定値以外の仕様変更は保証対象外となります。

スプリングの初期荷重の調整

スプリング初期荷重アジャスタは右側のリヤステップブラケット部にあります。

- アジャスタを回すことにより、スプリングの初期荷重を変えることができます。
- 標準値と調整範囲は「セッティング表」を参照してください。(168ページを参照)



A. スプリング初期荷重アジャスタ

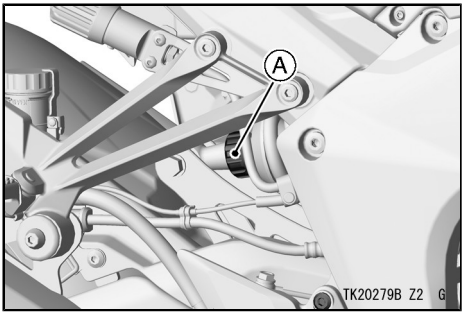
注意

アジャスタを調整するときは、調整範囲を超えて無理に回してはいけません。アジャスタが損傷する可能性があります。

伸側減衰力の調整

伸側減衰力アジャスタはリヤショックアブソーバ下部にあります。

- アジャスタを回すことにより、リヤショックアブソーバが伸びるときのオイル抵抗（減衰力）の調整ができます。
-
  - **硬く**する場合は**時計回り**に回します。
  - **柔らかく**する場合は**反時計回り**に回します。
- 標準値と調整範囲は「セッティング表」を参照してください。(169ページを参照)



A. 伸側減衰力アジャスタ

注意

アジャスタを調整するときは、調整範囲を超えて無理に回してはいけません。アジャスタが損傷する可能性があります。

リヤショックアブソーバの取り扱い方

⚠ 警告

リヤショックアブソーバには、高圧窒素ガスが封入されています。取り扱いを誤ると爆発する可能性があります。

- **リヤショックアブソーバを火中に投棄しないでください。火中に投棄すると爆発が起こり、危険です。**
- **リヤショックアブソーバは穴をあけたり、分解をしないでください。穴をあけたり分解を行うとオイルが吹き出し、危険です。**

アドバイス

○ リヤショックアブソーバを廃棄するときは、カワサキ正規取扱店にお申しつけください。

オーリンズが指定する点検整備

オーリンズでは次の条件に達したとき、点検整備を行うことを推奨しています。

走行距離	30 000 km毎または3年毎

カワサキ正規取扱店で、点検整備をお受けください。

セッティング表

フロントフォークスプリング初期荷重のセッティング

	柔らかめの設定	**標準**	硬めの設定
アジャスタ位置	0*	7回転**	20回転**
スプリングの作用	弱い	←→	強い
設定	柔らかい	←→	硬い
荷重	軽い	←→	重い
路面	良好	←→	悪路
速度	低速	←→	高速

＊： アジャスタを反時計回り一杯に回した位置。
＊＊： 反時計回り一杯の位置から時計回り。アジャスタは調整範囲以上にも回りますが、初期荷重に変化はありません。調整範囲内でご使用ください。

フロントフォーク減衰力のセッティング

	柔らかめの設定	**標準**	硬めの設定
アジャスタ位置:			
伸側	5 1/2回転**	4 1/2回転**	0*
圧側	7回転**	4 3/4回転**	0*
減衰力	弱い	←→	強い
設定	柔らかい	←→	硬い
荷重	軽い	←→	重い
路面	良好	←→	悪路
速度	低速	←→	高速

＊： アジャスタを時計回り一杯に回した位置。
＊＊： 時計回り一杯の位置から反時計回り。アジャスタは調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内でご使用ください。

リヤショックアブソーバスプリング初期荷重のセッティング（ZR1100H）

	柔らかめの設定	**標準**	硬めの設定
アジャスタ位置	0*	0クリック*	20クリック**
スプリングの作用	弱い	←→	強い
設定	柔らかい	←→	硬い
荷重	軽い	←→	重い
路面	良好	←→	悪路
速度	低速	←→	高速

＊： アジャスタを反時計回り一杯に回した位置。
＊＊： 反時計回り一杯の位置から時計回り。アジャスタは調整範囲以上にも回りますが、初期荷重に変化はありません。調整範囲内でご使用ください。

リヤショックアブソーバ減衰力のセッティング

			柔らかめの設定	**標準**	硬めの設定
アジャスタ位置	伸側	ZR1100G	2 1/2回転**	2回転**	0*
		ZR1100H	40クリック**	14クリック**	0*
減衰力			弱い	←→	強い
設定			柔らかい	←→	硬い
荷重			軽い	←→	重い
路面			良好	←→	悪路
速度			低速	←→	高速

*： アジャスタを時計回り一杯に回した位置。
**： 時計回り一杯の位置から反時計回り。アジャスタは調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内でご使用ください。

タイヤ

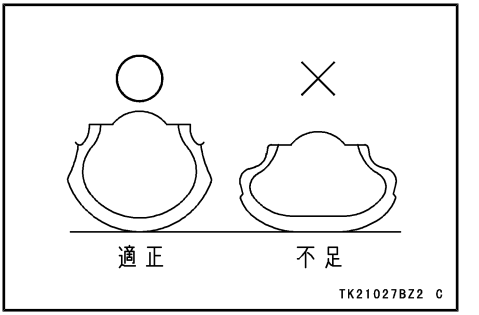
車を安全に運転するには、タイヤを良い状態に保つことが重要です。

⚠ 警告

空気圧が適正でなかったり、タイヤに亀裂や、損傷、異常摩耗があるとハンドルをとられたり、パンクの原因になります。

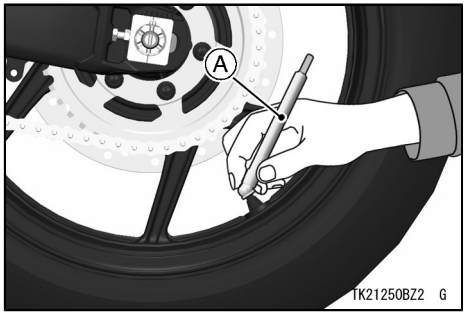
空気圧の点検

常に適正な空気圧を保ってください。タイヤの空気圧は、走行前のタイヤが冷えているときに、タイヤの接地部のたわみ状態により空気圧が適正であるかを点検します。



アドバイス

- タイヤの空気圧は徐々に低下します。また、タイヤによっては空気圧不足が見た目では分かりにくいものもあるため、少なくとも1か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 走行後のタイヤが温まっている状態ではタイヤの空気圧は高くなることがありますので、必ず冷えた状態で点検してください。



A. タイヤゲージ

[前輪タイヤ]

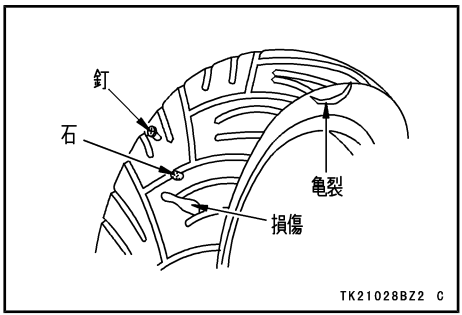
空気圧: 250 kPa (2.50 kgf/cm²)
サイズ: 120/70ZR17 M/C (58W)
指定タイヤ:
ダンロップ SPORTMAX Q5AF

[後輪タイヤ]

空気圧: 290 kPa (2.90 kgf/cm²)
サイズ: 190/50ZR17 M/C (73W)
指定タイヤ:
ダンロップ SPORTMAX Q5A

亀裂と損傷

タイヤの全周に著しい亀裂や損傷がないか点検します。また、タイヤの全周にわたり、釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検します。



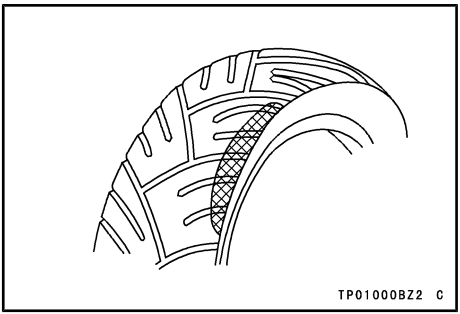
アドバイス

○ 道路の縁石等にタイヤ側面を接触させたり、大きな凹みや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

タイヤが異常に摩耗しているときは、カワサキ正規取扱店にご相談ください。



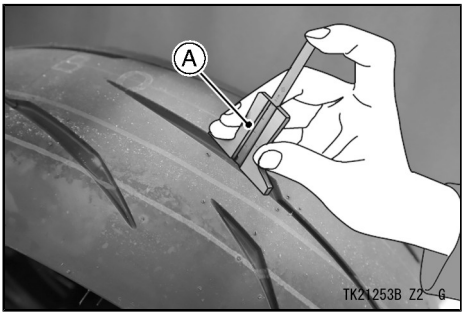
溝の深さ

コーナリング、操縦安定性、さらに安全走行のため、二輪車のタイヤは溝の深さが規定以下になりましたら交換をおすすめします。

タイヤの交換は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

[溝の深さ]

前輪：1 mm
後輪：2 mm



A. デプスゲージ

⚠ 警告

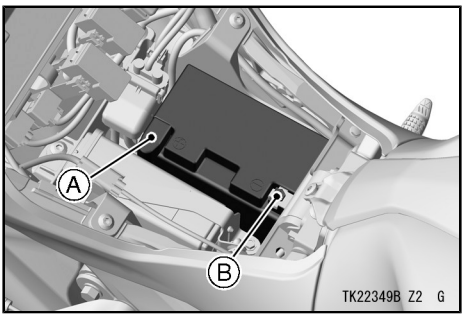
異なった種類のタイヤを使用したり、指定サイズ以外のタイヤを使用すると、車の走行安定性を損ない、けがや死亡にいたる事故につながる可能性があります。前後輪同一メーカの指定タイヤを使用してください。

バッテリ端子部の清掃

バッテリ端子部に汚れや腐食がある場合はバッテリをはずして清掃します。

バッテリの取り外しおよび取り付け方

- イグニションスイッチをオフにします。
- シートを取り外します(99ページを参照)。
- マイナス（–）ケーブルを取り外します。
- 赤色のキャップをずらし、プラス（+）ケーブルを取り外します。
- バッテリをバッテリケースから取り出します。



A. 赤色キャップ/プラス(+)端子
B. マイナス(–)端子

- バッテリの取り付けは、取り外しの逆順に行います。
- プラス（+）ケーブル（キャップあり）を接続し、それからマイナス（–）ケーブルを接続します。

アドバイス

○ **マイナス(−)ケーブル接続時、必ずケーブルの端子をバッテリ端子へ押し当てながら端子ボルトを締め付けてください。**

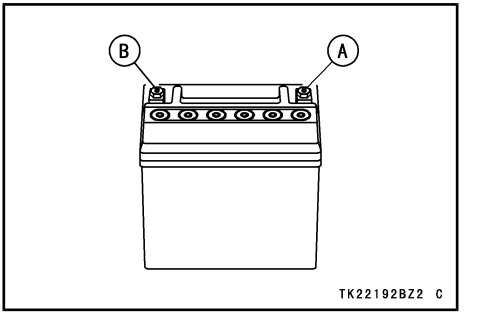
注意

バッテリケーブルの(＋)(−)の接続は逆にしないでください。電気系統が損傷します。

- 取り外した部品を取り付けます。

バッテリ端子部の清掃

- バッテリを取り外します。
- 端子部に汚れや腐食があるときは清掃します。なお、端子部が腐食して白い粉が付いているときは、ぬるま湯を注いで拭くとよく落ちます。
- 端子部の腐食が著しいものは、ワイヤブラシ、サンドペーパで磨きます。
- 清掃、締め付け後は、端子部にグリースを薄く塗布します。



A. プラス(＋)端子
B. マイナス(−)端子

⚠ 危険

バッテリ液は、腐食性が大きく皮膚炎を起こしたり、金属を腐食させる等非常に危険です。新品のバッテリにバッテリ液を注入するとき、体、衣服、車体等に付着しないよう充分注意してください。万一、目や皮膚等に付着したときはすぐ多量の水で、5分間(目の場合は15分間)以上洗浄して専門医の診察を受けてください。

⚠ 危険

バッテリは引火性ガス(水素ガス)を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発する可能性があります。必ず下記の項目を守ってください。

- バッテリの整備を行うときは、必ずエンジンを停止させてください。
- 作業中、バッテリの(+)(−)端子が工具等により、ショートしないように注意してください。
- ケーブルを取り外す場合は、(−)端子から取り外してください。また、取り付ける場合は、(+)端子を先に取り付けてください。
- ケーブルに緩みが生じないよう確実に接続してください。
- バッテリにガソリン、オイル、有機溶剤等を付着させないでください。電槽割れの原因になります。
- 子供の手の届くところに置かないでください。

注意

- **この車のバッテリにはシール形バッテリを使用しています。シール形バッテリは液の補充は必要はありません。密封栓をこじ開けて液の補充は絶対おやめください。バッテリが損傷します。**
- **寿命がつきたバッテリを交換する場合は、必ず同型式のバッテリをご使用ください。**
- **使用済みのバッテリを廃却する場合はカワサキ正規取扱店にご相談ください。**

[バッテリ]

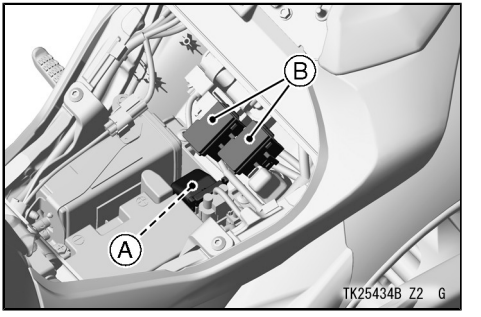
メーカ: GSユアサ
型式: YT12A-BS

アドバイス

○ エンジンが始動しなかったり、ホーンの音が弱い、ヘッドライトが暗い等の場合は、バッテリが放電しています。バッテリの補充電をカワサキ正規取扱店にご相談ください。

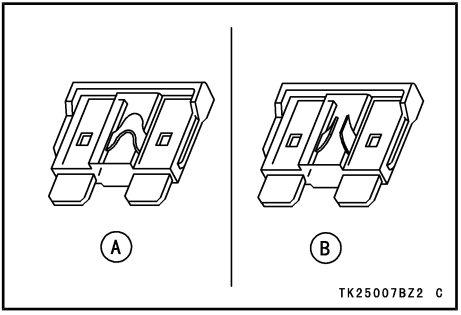
ヒューズの交換

ヒューズはシートの下にあるヒューズボックスにあります。メインヒューズはシートの下にあるスタータリレーにあります。



A. メインヒューズ
B. ヒューズボックス

ヒューズが切れたときは原因を調べてスペアヒューズと交換してください。



A. 正常
B. 切れた状態

⚠ 警告

指定以外のヒューズを使用するのは火災の可能性があり危険です。かならず指定の容量、規格のヒューズを使用してください。

アドバイス

- 交換してもすぐにヒューズが切れる場合は、他の原因が考えられます。カワサキ正規取扱店にご相談ください。
- スペアヒューズを使用した場合は、なるべく早めに代わりのスペアヒューズを補充してください。

車のお手入れ

いつまでも愛車を長持ちさせるため定期的にお手入れを行ってください。隅々まで清掃すれば、普段気づかない異常箇所や摩耗が発見でき、故障予防にもつながります。

アドバイス

○ 海岸地域や凍結防止剤を散布した路面を走行した後は、直ちに水洗いをしてください。温水を使用すると塩の化学反応を強めますので、洗車は冷水で行ってください。洗車後は水分を拭きとり、金属部品やクロームメッキ部には防錆剤を吹き付けてください。

○ 雨天走行後、または洗車直後等に、ヘッドライト内部に結露による曇りが発生することがあります。ヘッドライト内部が曇ったときは、エンジンを始動し、ヘッドライトを点灯させ、しばらくすると、曇りは徐々に消えます。

⚠ 警告

ごみや可燃物が車体、エンジン、排気系部品の中や周囲に堆積すると、故障の原因となることがあり、火災の可能性も高くなります。

- **ごみや可燃物が車体に堆積するような環境で使用するときは、エンジン、電気部品、排気系統を頻繁に点検してください。**
- **ごみや可燃物が堆積している場合は、屋外に車を停めてエンジンを停止し、エンジンが冷えてから堆積したごみ類を取り除いてください。**
- **駐車や狭い囲われた場所に格納する前に、ごみや可燃物が堆積していないか点検してください。**

注意事項

注意

高圧洗浄機の使用は推奨しません。水が電装部品の端子、ベアリング等の可動部、その他部品の内部に浸入し、不具合の原因になる可能性があります。アルカリ性が強い洗剤が使われていた場合、残留物が残ったときにしみの原因となる可能性があります。

- ホースからの散水であっても、普段雨水が入らないような場所へしつこく散水することは避けてください。
- 硬いブラシやスチールウール、やすり等は、ご使用にならないでください。ヘッドライトレンズなどの樹脂部品は傷がつきやすいので、特に注意してください。
- シール部品、ブレーキパッド、タイヤに脱脂剤等がかからないようにしてください。
- ガソリン、ブレーキ液および冷却液等は、塗装面や樹脂部品を傷めますので、これらが付着した場合はすぐに洗い流してください。
- 強力な薬品や溶剤、脱脂剤、電気接点クリーナー、強力な家庭用洗剤などは使用しないでください。塗装部品、樹脂部品、ゴム部品が損傷または劣化する可能性があります。
- コンパウンドを含んだ洗剤の使用は避けてください。
- コーティング剤などは部品の素材に合わせて適切なものを使用してください。

アドバイス

○ **用品の説明書をよく読み、用途や注意事項を必ずお守りください。**

⚠ 警告

ブレーキディスクおよびブレーキパッドにワックスやオイルが付着するとブレーキが効かなくなり、事故につながる可能性があります。もし付着したときは、成分が残らないような洗浄液で洗い流してください。完全に除去できない場合は、パッドを交換してください。

樹脂部品

洗車後、樹脂部品に残った水分は柔らかい布で丁寧に拭きとってください。乾燥後はヘッドライトレンズなどの透明樹脂部品は、樹脂部品専用のワックス／ポリッシュをご使用ください。

注意

- **樹脂部品にガソリン、ベンジン等の有機溶剤が付着すると部品の損傷の原因となります。付着した場合は直ちに水、または中性洗剤で拭きとり、損傷がないかを点検してください。**
- **コンパウンド入りの洗剤や硬いブラシの使用は塗装面に傷を入れる可能性があります。使用しないでください。**

つや消し塗装

中性洗剤と水を使って汚れを落としてください。塗装面を強く擦ると、つや消しの塗装面につやが出るおそれがあります。ご不明な点はカワサキ正規取扱店にご相談ください。

クロームメッキおよびアルミニウム

クロームメッキされた部品や塗装されていないアルミ部品は、専用の研磨剤でお手入れが可能です。

塗装されたアルミ部品は中性洗剤で洗浄し、専用の研磨剤で仕上げを行ってください。

アルミホイールは塗装、未塗装を問わず、アルミホイール専用クリーナを使用してください。

革

車両に革製品が付いている場合は特に注意が必要です。皮革用クリーナ/トリートメントを使用して、革製品の清掃やお手入れを行ってください。革製品を洗剤や水で洗うと寿命を縮めることになります。

ラジエータ

低圧の水流で異物を取り除いてください。

注意

コイン式、家庭用を問わず、高圧洗浄機を使用するとラジエータのフィンが損傷し、冷却効果が損なわれる可能性があります。
ラジエータの前や冷却ファンの後ろにアクセサリなどを取り付けると、ラジエータを通る気流が妨げられ、オーバヒートによってエンジンが損傷する可能性があります。

洗車

- エンジンやマフラ、エキゾーストパイプなど高温になる部品が冷えていることを確認してください。
- テープやビニール袋などを使ってマフラ開口部や鍵穴などに水が入らないようにしてください。
- テープやビニール袋などを使って鍵穴などに水が入らないようにしてください。

- 水を流しながら、柔らかい布やスポンジを使って目立つ汚れを落としてください。
- 落ちにくい汚れには二輪車・自動車用の中性洗剤を使ってください。
- 洗剤が残らないように、きれいな水でよくすすいでください（洗剤の成分が残っていると、部品を傷める可能性があります）。
- 柔らかい布で拭きとり作業を行いながら、破損や傷がないかを点検してください。自然乾燥は塗装面を傷めますのでおやめください。
- ビニール袋やテープをはがします。
- 防錆のため、洗車後はドライブチェーン、または各可動部の給油を行ってください。
- ブレーキが濡れたままでは効きが悪くなる可能性があります。低速で運転しながら何度かブレーキをかけることで部品が乾燥し、通常のブレーキ性能に戻ります。

長期間の格納

長期間、車を使用しない場合は下記の要領で手入れをしてください。

アドバイス

○ 油脂類の廃却は法令で適切な処理を行うことが義務づけられていますので、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

格納のための準備

- 車全体を念入りに洗浄します。
- エンジンを充分に暖機後、エンジンを停止します。そして、ドレンボルトをはずし、エンジンオイルを排出します。
- ドレンボルトを取り付け、オイル注油口キャップを取り外し、新しいエンジンオイルを入れます。
- オイル注油口キャップを取り付けます。
- 燃料タンクの燃料をすべて排出します。

⚠ 警告

燃料を排出するときは、通気性のよい、火気のない場所で行ってください。

- タイヤの空気圧を2割減らし、前後輪の下に防湿のために板を敷きます。
- メッキ部には防錆油を吹き付けます。ただしゴム部品とブレーキは避けてください。
- ドライブチェーンとすべてのケーブルに注油します。
- バッテリを取り外します。直射日光の当たる所、湿気の多い所、温度が非常に低い所等には保管しないでください。また、1か月毎にバッテリの補充電を行ってください。
- マフラに水が入るのを防ぐためにビニール袋でカバーします。
- 防塵のため車全体にカバーをかけてください。

格納した車を使用するときには

- マフラからビニール袋を取り外します。
- タイヤの空気圧を正規の値にします。(171ページを参照)
- バッテリの補充電を行います。
- 燃料を入れます。
- 車体各部に注油します。
- 日常点検の項目に従って点検します。メンテナンスノートの「日常点検項目」「日常点検の方法」をご覧ください。

環境保護について

車、または使用済みの部品・オイル等を廃棄するときは？

環境保護のため、使用済みのバッテリやタイヤ、エンジンオイルの廃油等は、むやみに捨てないでください。これらのものを廃棄するときは、カワサキ正規取扱店にご相談ください。また、将来お車を廃棄する際は、お近くの廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

（社）全国軽自動車協会連合会に登録されている販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されている廃棄二輪車取扱店です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口であり、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



廃棄二輪車取扱店の証（230 mm × 200 mm）

二輪車リサイクル費用とは？

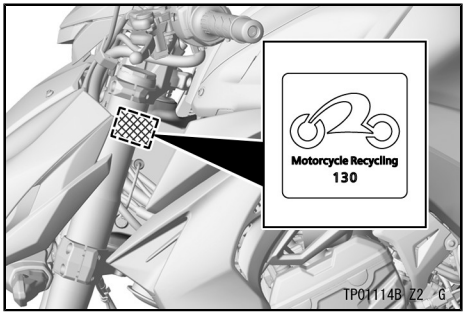
廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化するための費用です。

二輪車リサイクルマークが車体に貼り付けされている二輪車は、リサイクル費用がメーカ参考小売価格に含まれていますので、あらためてリサイクル

料金をお支払いいただくことはありません。ただし、運搬または収集する費用は含まれておりませんのでお客様から廃棄二輪車取扱店、あるいは指定引取場所までの運搬または収集費用はお客様の負担となります。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、二輪車リサイクルマークが車体に貼り付けされています。車を廃棄する際、二輪車リサイクルマークが必要となります。マークは車体からはがさないでください。紛失、破損による再発行、部品販売の取り扱いはいたしません。二輪車リサイクルシステムの概要、ご利用方法等については、カワサキのホームページまたは、（公財）自動車リサイクル促進センターのホームページでご確認ください。



二輪車リサイクルマーク（30 mm × 30 mm）

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車のお取り扱いに関しましては、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記までお問い合わせください。

[カワサキモータース]

https://www.global-kawasaki-motors.com/environment/recyc01.html

TP0111OB Z1 S

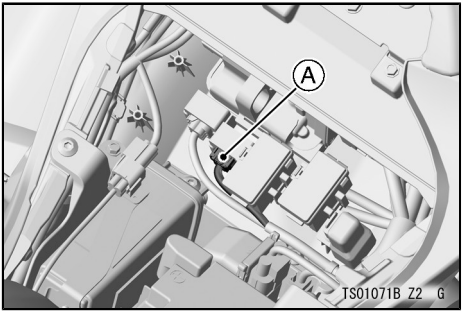
[(公財)自動車リサイクル促進センター]

https://www.jarc.or.jp/motorcycle/

TP01102BZ1 S

DFI自己診断システムコネクタの位置

DFI自己診断システムコネクタはシートの下にあります。



A. DFI自己診断システムコネクタ

車両情報の記録に関して

カワサキでは、この車に搭載されているコンピュータにカワサキ車専用ツールを接続し、記録されている情報を取得する事があります。取得した情報は車両の点検や故障診断、研究開発、法規適合確認を目的に利用する事があります。

取得する情報はモデルやグレード、地域によって異なりますが、主な項目は次のとおりです。

- エンジンや車体の電子制御装置に記録されている使用状況や設定などの情報
- 排気ガス規制に関連する情報

なお、この車の車両制御コンピュータは音声や映像を記録する事はございません。

取得した情報は、次の場合を除き第三者へ開示されることはありません。

- お客様（または使用者）の同意を得た場合
- 行政や司法機関より法的に要請された場合
- お客様（または使用者）個人や車両を特定せず、加工した情報を研究開発や統計調査などに使用する場合。

イベントデータレコーダ

他の多くの自動車メーカーと同様に、カワサキもこの車にイベントデータレコーダ（EDR）を装備しています。この装置は、一定条件の事故や事故に近い状況が発生したときにのみ、事故発生の直前から事故発生中に車両システムがどのように作動していたかを理解するためのデータを、短時間記録するように作られています。

アドバイス

- **通常走行時もデータは常に記録され上書きされていますが、イグニションスイッチをオフにしたときに消去されます。**
- **通常走行時もデータは常に記録され上書きされていますが、メインスイッチをオフにしたときに消去されます。**
- **事故発生時以外にEDRデータが、後で読み出しできるように保存されることはありません。また、全ての事故がEDRデータとして保存されるものではありません。**
- **この装置に個人情報（例：氏名、性別、年齢）が集められ記録されることはありません。**

このデータにより、事故発生時車両がどのように作動していたかを、運転者とメーカーの双方がより良く理解するのに役立ちます。この車のEDRは、次のような事故時の車両走行状況を示すデータのみを記録するよう設計されています。

- 走行速度
- エンジン回転速度
- スロットル開度

EDRが記録したデータを読み取るには、特殊な装置をEDRに接続する必要があります。カワサキは、警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合を除き、あなたの承諾なしにEDRの情報を提供することはありません。

万一の故障に備えて

日常点検、定期点検を欠かさず行っていただければ、不測のトラブルは未然に防止することができます。万一故障の場合は応急処置を行って、お買いあげいただいたカワサキ正規取扱店へ修理をお申しつけください。

エンジンが始動しない

- スタータが回らないとき
  - イグニションスイッチはオンになっていますか。
  - ヒューズが切れていませんか。
  - ギヤがニュートラルになっていますか。
  - バッテリケーブルは確実に接続されていますか。
  - バッテリはあがっていませんか。
- スタータは回るが始動しないとき
  - 燃料タンクに燃料が入っていますか。
  - 燃料系統が詰まっていませんか。
  - 燃料の品質が低下していませんか。
  - スパークプラグはゆるんでいませんか。
  - スパークプラグは正常ですか。
  - スパークプラグギャップは正常ですか。
  - スパークプラグはかぶっていませんか。
  - 転倒後、一度イグニションスイッチをオフにしましたか。
  - 車に登録されているイグニションキーを使用していますか。
  - イグニションキーの周りに他のキー等の金属部品で通信不良が起こっていませんか。

エンジンが止まる

- 1速に入れたとき
  - クラッチの切れは正常ですか。
  - サイドスタンドが下りたままになっていませんか。
- 走行中に
  - 燃料は入っていますか。
  - 燃料タンクキャップのエア抜き穴が詰まっていませんか。
  - エンジンオイルはありますか。
  - バッテリはあがっていませんか。

お客様相談室

名称： (株)カワサキモータースジャパン お客様相談室

電話番号： フリーダイヤル：0120-400819
*フリーダイヤルは携帯電話からもご利用いただけます。

受付時間： 月曜～金曜 （祝日および当社休業日を除く）
9：00～12：00、 13：00～17：00

郵便番号： 〒673-8666
所在地： 明石市川崎町1番1号

国土交通省ではリコール業務を円滑に行うため、お客様の安全や環境に大きな影響を及ぼすと判断される場合の情報窓口を設定しております。

●自動車不具合情報専用ダイヤル：「自動車不具合情報ホットライン」
フリーダイヤル：0120-744-960 （受付時間 9：30～12：00、 13：00～17：30）
24時間電話受付：03-3580-4434 （年中無休・24時間）

●国土交通省ホームページ：https://www.mlit.go.jp/ → 自動車不具合情報コーナー

TP01111B Z1 S

リコールについてのお願い

リコールとは、クルマの構造・装置の不具合による事故を未然に防止することを目的とした制度です。

同一型式・一定範囲のクルマについて、構造・装置・性能などが、安全・公害防止の規定（保安基準）に適合しなくなるおそれがあると弊社が判断した場合に、その旨を国土交通省に届け出て、おクルマをご使用のお客様にご連絡し、無料で修理するものです。

なお、保安基準にかかわらない場合でも、対応の必要があると判断した場合には「改善対策」や「サービスキャンペーン」を行っております。

＜改善対策＞

改善対策とは、保安基準にかかわらない場合でも、弊社が安全確保・公害防止の観点から必要と判断した場合に、ご使用のお客様へご連絡し、責任を持って修理するものです。

＜サービスキャンペーン＞

サービスキャンペーンとは、商品品質改善等の観点から、弊社が必要と判断した場合に、ご使用のお客様へご連絡し、責任を持って修理するものです。

適合宣言

アメリカ合衆国:

Each radio frequency device installed in the vehicle conforms to the requirements and standards of the regulation below:

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:
(1) This device may not cause harmful interference, and
(2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

TR01095B S

カナダ:

Each radio frequency device installed in the vehicle conforms to the requirements and standards of the regulation below:

This device contains licence-exempt transmitter(s)/receiver(s) that comply with Innovation, Science and Economic Development Canada's licence-exempt RSS(s). Operation is subject to the following two conditions:
(1) This device may not cause interference.
(2) This device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of the device.

TR01096B S

Chaque dispositif de radiofréquence installé dans le véhicule est conforme aux exigences et aux normes du règlement ci-dessous:

L'émetteur/récepteur exempt de licence contenu dans le présent appareil est conforme aux CNR d'Innovation, Sciences et Développement économique Canada applicables aux appareils radio exempts de licence. L'exploitation est autorisée aux deux conditions suivantes:
(1) L'appareil ne doit pas produire de brouillage;
(2) L'appareil doit accepter tout brouillage radioélectrique subi, même si le brouillage est susceptible d'en compromettre le fonctionnement.

TR01097B S

メキシコ合衆国:

La operación de este equipo está sujeta a las siguientes dos condiciones:
(1) Es posible que este equipo o dispositivo no cause interferencia perjudicial y
(2) Este equipo o dispositivo debe aceptar cualquier interferencia, incluyendo la que pueda causar su operación no deseada.

TR01137B G3 G

ブラジル連邦共和国:

ANATEL Res. 680 RF warning sentence:
Este equipamento não tem direito à proteção contra interferência prejudicial e não pode causar interferência em sistemas devidamente autorizados.
ANATEL website:
Para maiores informações, consulte o site da ANATEL www.gov.br/anatel/pt-br

TR01124B Z1 G

インドネシア共和国:



Dilarang melakukan perubahan spesifikasi yang dapat menimbulkan gangguan fisik dan/atau elektromagnetik terhadap lingkungan sekitarnya

TR01126B Z2 G

マレーシア:

Mematuhi keperluan peraturan EU

TR01127B Z1 G

フィリピン共和国:

Pagsunod sa mga kinakailangan ng regulasyon ng EU

TR01125B Z1 G

台湾:

取得審驗證明之低功率射頻器材，非經核准，公司、商號或使用者均不得擅自變更頻率、加大功率或變更原設計之特性及功能。

低功率射頻器材之使用不得影響飛航安全及干擾合法通信；經發現有干擾現象時，應立即停用，並改善至無干擾時方得繼續使用。前述合法通信，指依電信管理法規定作業之無線電通信。低功率射頻器材須忍受合法通信或工業、科學及醫療用電波輻射性電機設備之干擾。

TR01128B Z1 G

198 適合宣言

タイ王国:

“เครื่องโทรคมนาคมและอุปกรณ์นี้ มีความสอดคล้องตามมาตรฐานหรือข้อกำหนดทางเทคนิคของ กสทช.”

TRO1129B Z1 G

バッテリに関する補足情報

バッテリ全般に関する情報

ここでは、車両に搭載されているモーター駆動バッテリ、12 Vバッテリ、ボタン型電池に関する追加情報を提供します。使用前によく読んでバッテリについて理解してください。

⚠ 危険

電解液が衣服、皮膚、目に付着すると、重傷を負ったり死亡したりするおそれがあります。衣服、皮膚、目についた場合は、すぐに多量の水で5分以上（目の場合は15分以上）洗い、専門医の診察を受けてください。

⚠ 警告

バッテリを不適切に取り扱うと、感電、重度の火傷、重傷または死亡を引き起こすおそれがあります。以下の注意事項を厳守してください。

- 火花、火または高温を引き起こす可能性のある熱源から遠ざけてください。
- 子供やペットの手の届かないところに保管してください。
- 落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 端子部に金属などを触れたり、接続したりしないでください。
- 水をかけたり、濡れた手で触れたりしないでください。
- 分解や改造をしないでください。
- 破損、変形、水没した場合は絶対に使用しないでください。
- 煙や異臭がした場合は、すぐに使用を中止してください。

注意

バッテリを不適切に取り扱うとバッテリが損傷するおそれがあります。以下の注意事項をお守りください。

- 落としたり、衝撃を与えたり、穴を開けたり、変形させたりしないでください。
- 上に重いものを置かないでください。
- 火花、火または高温を引き起こす可能性のある熱源から遠ざけてください。
- バッテリの排気穴を絶対にふさがないでください。

注意

外気が寒いまたは暑い環境でバッテリを使用または保管すると、バッテリが凍結または過熱し、損傷する可能性があります。外気が冷たい、または暑い環境で使用、保管しないでください。

注意

他のバッテリや金属製品とショートすると、液漏れ、発熱、破裂、発火の原因となります。保管、輸送、廃棄する場合は、端子をテープなどで絶縁してください。

注意

バッテリを電子レンジや高圧容器に入れると、バッテリが発熱、破裂、発火することがあります。電子レンジや高圧容器に入れないでください。

注意

銘柄や種類の異なる電池、新旧の電池を混ぜて使用した場合、電池は特性の違いにより、液漏れ、発熱、破裂することがあります。新旧の電池を混ぜないでください。

注意
バッテリを逆接続したり、接続を誤ったりすると、バッテリや電気系統が損傷する可能性があります。バッテリの損傷を防ぐために、接続が正しいことを確認してください。

注意
規定の充電時間を超えて充電を続けると、液漏れ、発熱、破裂、発火の原因となります。規定の時間内に充電が完了しない場合は、バッテリまたは充電器の故障と考えられますので、充電を中止してください。

注意
バッテリが静電気にさらされると、静電気により爆発する可能性があります。点検や整備の前には、車両の金属部分を素手で触って静電気を逃がしてください。

注意
ベンジン、シンナー、ガソリンなどの有機溶剤や洗剤などでバッテリを清掃すると、バッテリの劣化や液漏れの原因となります。清掃には使用しないでください。

アドバイス

○ 必ず本書に記載されている仕様・性能のバッテリをご使用ください。

ボタン型電池の追加情報

⚠ 危険

電池を飲み込むと化学火傷や粘膜組織の貫通を引き起こし、重傷を負ったり死亡したりするおそれがあります。お子様の手の届かないところに保管してください。電池を飲み込んだ場合は取り出す必要がありますので、直ちに医師の診察を受けてください。

注意

充電するとガスが発生したり、内部構造が損傷し、液漏れ、発熱、破裂、発火の原因となることがあります。絶対に充電しないでください。

注意

長時間接続したままにすると、電池から発生するガスにより、電池を漏液、発熱、破裂、発火させたり、機器を破損するおそれがあります。長期間デバイスを使用しない場合や、電池が消耗した場合は、デバイスから取り外してください。

注意
電池をはんだ付けすると、熱損傷による液漏れ、発熱、破裂、発火の原因となります。絶対にはんだ付けをしないでください。

注意
機器によっては、電池ホルダーの金属部分が電池の（＋）、（－）端子に接触する場合があります。電池がショートしないように機器に取り付けてください。





ZR1100G/H

カワサキモータース株式会社

* 9 9 8 1 7 - 0 1 2 2 *

Printed in Japan